

二 兩腿ニカヲ加ヘテ伸ハシ兩踵ヲ心トシ兩足尖ヲ輕ク上ケ腰ト踵ニテ迅速ニ全ク後ロニ向キ廻ハル

三 右足ヲ左足ニ引著ケテ左方ニ整頓ス  
第二十六條 前條ノ號令ニ代フルニ左ノ號令ヲ以テスルコトヲ得

一 前列前ノ進メ  
二 廻レ右ノ止レ

止レノ號令ハ前進中ノ列員右足地ニ著カントスルトキ下スモノニシテ此ノ號令アリタルトキハ左足ヲ前ニ踏ミ出シ其ノ足尖ニテ後ロニ向キ廻リ右足ヲ左足ニ引著ケテ止マルモノトス

第二十七條 前二條ノ如ク前後相當ノ距離ヲ隔テ相對向スレハ點檢官及指揮官ハ列ノ側方適宜ノ位置ニ就キ第二十四條ノ順序ヲ追フテ禮式ノ種類ヲ指示シ前列(後列)ヲ受禮者トシ後列(前列)ヲ行禮者トス但人員多數ナルトキハ一列員ニハ天皇ニ行フ敬禮他ノ一列員ニハ同僚間ノ敬禮ヲ行ハシメ順次行ヒ終レハ次ニ一列員ニハ室外ノ敬禮他ノ一列員ニハ物品携帶(手帖ヲ物品トシ)ノ敬禮ヲ行ハシムル等便宜ニ從フコトヲ得(第二圖參照)指揮官禮式ノ種類ヲ指示シ了レハ左ノ號令ヲ下スヘシ

始メ  
此ノ號令ニテ前列(後列)ノ一番員及後列(前列)ノ終番員ハ左足ヨリ互ニ前進シテ前後列員行達ヒ互ニ指示セラレタル禮式ヲ行ヒ了テ前進シ列ノ後ロニ至リ正面ニ位置ス

他ノ列員ハ休メノ姿勢ヲ取り逐次横歩ヲ以テ出發點ニ至ル但出發ニ際シテハ姿勢ヲ正スヘシ右禮式了レハ他ノ列員ハ指揮官ノ指示ヲ待タズ逐次前進シテ末尾ニ至ルヘシ若シ末尾奇數ナルトキハ指揮官ヲ受禮者ト見做スヘシ

第二十八條 禮式點檢ニ於テ規定ノ禮式ニ違ヒ又ハ動作不十分ナルトキハ點檢官又ハ指揮官ハ式

ニ適合スルマテ反覆之ヲ行ハシムヘシ  
第二十九條 第二十四條第五乃至第七ノ禮式點檢ヲ行フトキハ列ノ右翼ヨリ順次指揮官ノ三步前

マテ進ミ禮式ヲ爲サシメ指揮官ハ一之ニ答禮スヘシ辭令書物品等授受ノ敬禮ハ便宜手帖ヲ辭令書又ハ物品ト見做シ指揮官ハ奇數員ヲ以テ捧呈者トシ偶數員ヲ以テ拜受者トシ順次末尾ニ至ラシムヘシ

(第二圖參照)  
禮式宜シキヲ得ス又ハ動作不十分ナルトキハ答禮ヲ爲サス又ハ辭令書若クハ物品ヲ授受セス之ヲ矯正シテ後ニ答禮又ハ授受スヘシ

第三十條 全員ノ點檢了レハ指揮官ハ二列ニ在リタルモノハ元ノ二列横隊ニ復サシムル爲メ左ノ號令ヲ下スヘシ

一 前列何歩前ヘ一進メ  
此ノ號令ニテ前列ハ左足ヨリ進ミテ元ノ線上ニ就ク

二 廻ハレ一右  
此ノ號令ニテ前列ハ全ク元ノ二列横隊ニ復ス

此ノ場合ニ於テモ第二十六條ノ例ニ倣ヒ此ノ號令ニ代フルニ「前列前ヘ一進メ」「廻レ右」「止レ」ノ號令ヲ以テスルコトヲ得

第三十一條 指揮官ハ列ヲ解散セシムル爲メ「解レ」進メ「解令」ヲ下シ列員ハ點檢官及指揮官ニ對シ一齊ニ室外ノ敬禮ヲ爲シ解散スヘシ

第三章 物品點檢  
第三十二條 物品點檢ハ毎月一回之ヲ行フモノトス但時宜ニ依リ二箇月一回ト爲スコトヲ得

第三十三條 物品點檢ハ帽被服外套肌着長短靴肩章提燈等ノ使用保存ノ當否及代料渡品ノ適否破綻ノ手入レ釘共ノ他徽章ノ正否手帖ノ記載事項等嚴密詳細ニ檢査スルモノトス其ノ不都

明治四十三年十二月 訓令 司法省第七號 看守點檢規則

六〇一

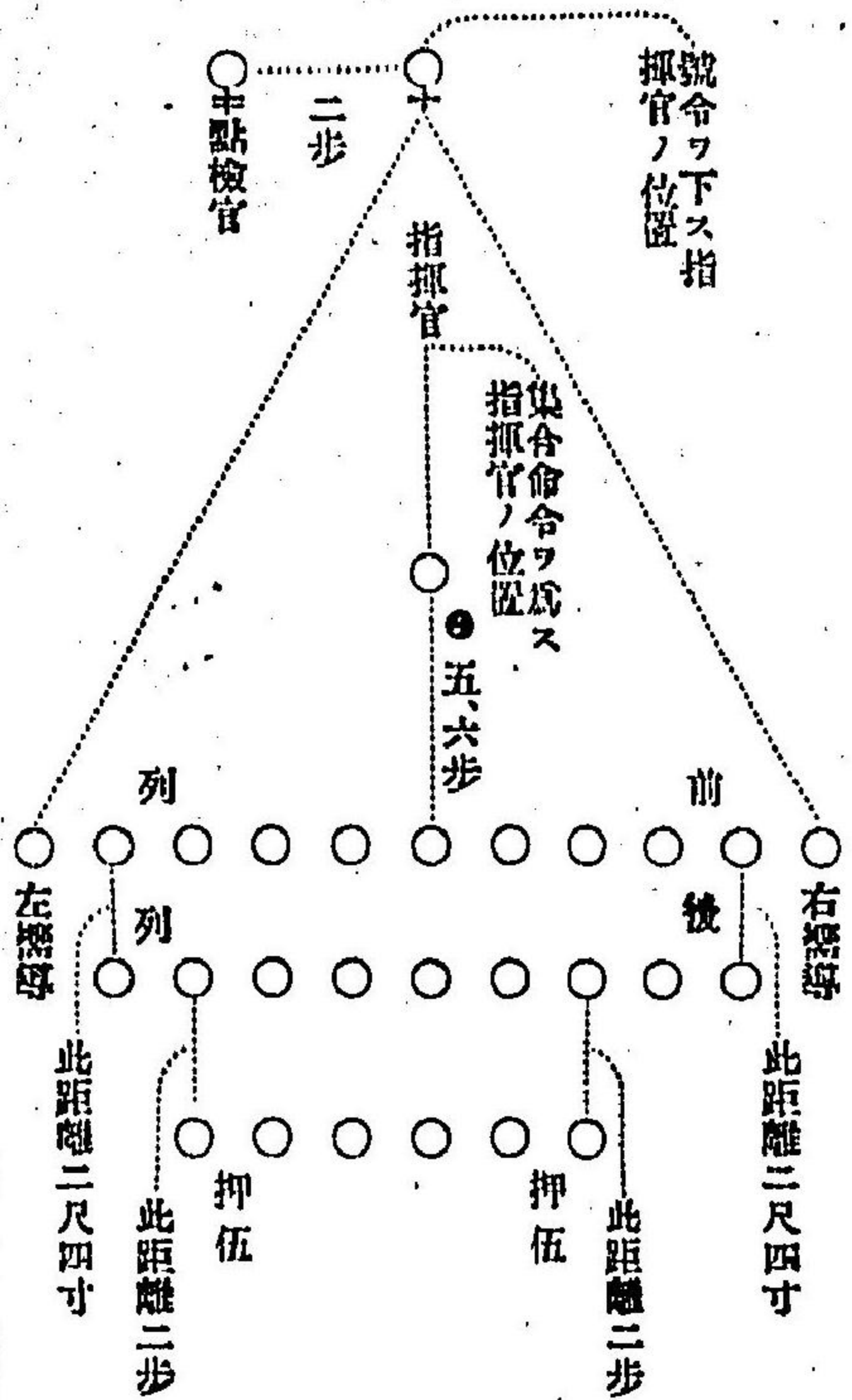
合ト認ムルモノハ期間ヲ定メ修繕セシムルヲ要ス  
第三十四條 物品配置ノ場所ハ豫メ一定シ置キ一見検査ニ差支ナキ様配列シ受檢者ハ其ノ前ニ整  
列スヘシ

第三十五條 物品ノ配列了レハ點檢官ハ指揮官ヲ隨ヘ列ノ右翼(左翼)ヨリ検査ヲ爲シ終テ指揮官  
ハ物品ヲ納メシメ「解レ」進メ「進メ」ノ號令ヲ下シ第三十一條ノ如ク敬禮ヲ行ヒ解散スヘシ但人員少  
數ナルトキハ此ノ號令ヲ略スルコトヲ得

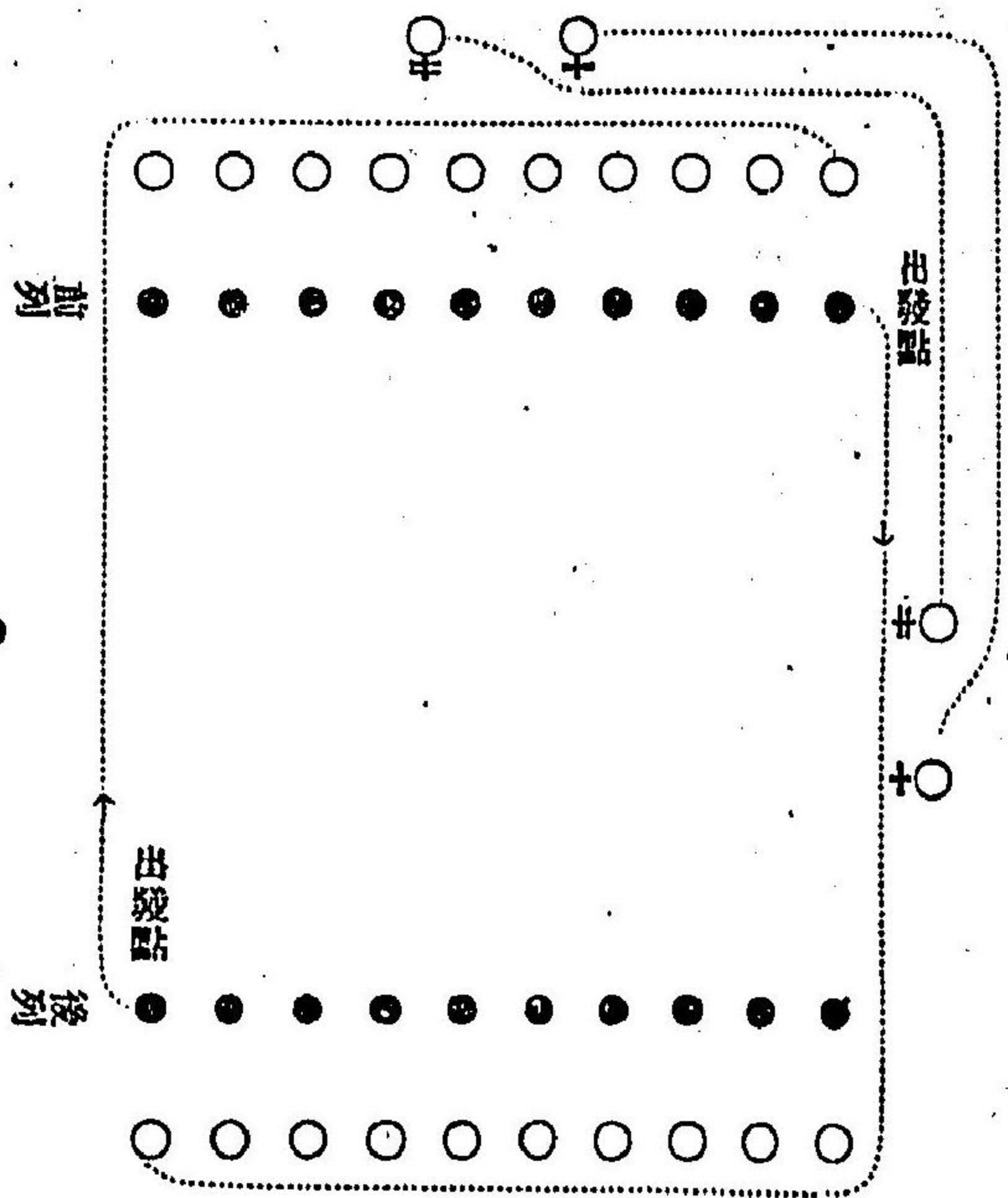
附則

明治三十四年司法省訓令第二號ハ之ヲ廢止ス  
別表

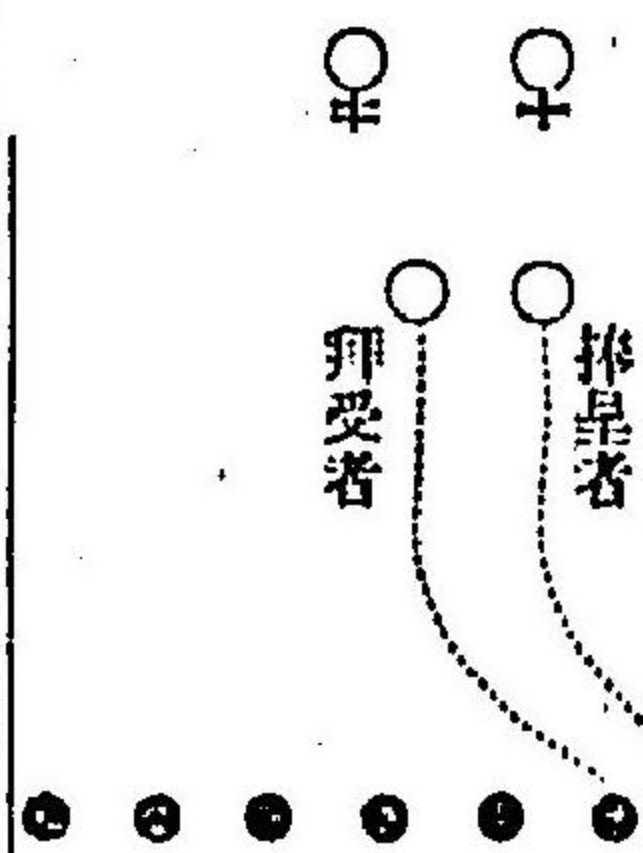
第一圖



第二圖



第三圖



〔参照〕

明治三十四年三月十日司法省訓令第二號ハ本號ト同伴ナリ

○文部省訓令第二十五號

北海道廳 府廳

明治四十三年文部省訓令第十三號師範學校教授要目申左ノ通改正ス

文部大臣 小松原英太郎

明治四十三年十二月二十日

一物理及化學本科第一部男生徒ノ部第二學年化學なとりうむ、かりうむ及其ノ化合物 あむもに  
うむ化合物ノ目ヨリ銅、水銀、銀、金、白金及其ノ化合物ノ目ニ至ル各目ヲ削ル、  
一同第三學年化學「沼氣、えちれん、あせちれん、石油」ノ目ヨリ「蛋白質」ノ目ニ至ル各目ヲ前項  
「なとりうむ、かりうむ及其ノ化合物、あむもにうむ化合物」ノ目ヨリ「銅、水銀、銀、金、白金及其ノ化  
合物」ノ目ニ至ル各目ニ改ム

一同第三學年「凡四十五時」ヲ「凡四十時」ニ「凡六十五時」ヲ「凡七十時」ニ改ム

一同第四學年「物理」ノ前ニ左ノ如ク加フ

化學 凡四十時

沼氣、えちれん、あせちれん、石油

あるこゝる、えーてる、あるでひど、むとん

有機酸

脂肪及油

炭水化合物

こゝるたゝる、べんぜん、あにりん、色素

てるべん

あるからいど

蛋白質

術語、定律、假說等ハ教授ノ際適當ナル場合ニ之ヲ說明スハ

一同第四學年「物理」ノ下ニ「凡百二十時」ヲ加フ

○文部省訓令第二十六號

北海道廳 府廳

近來各地方ノ高等小學校ニ於テ概ネ農業又ハ商業ノ教科目ヲ加設スルニ至レルハ尋常小學校卒業

者ニ對シ更ニ普通教育ヲ施シ品性ヲ陶冶シ常識ヲ進ムルト共ニ其ノ將來ノ生活ニ緊切ナル素養ヲ  
與フルニ於テ最モ適當ノ施設ナリトス然レトモ農業科加設ノ學校ニシテ往々實習地ノ設備ヲ缺ク  
モノアルハ頗ル遺憾トスル所ナリ抑、農業科ニ於テハ兒童ヲシテ其ノ學ヲ所ヲ實地ニ應用セシム  
ルニ非サレハ農業ノ趣味ヲ領得セシメ勤勞ヲ尊重スルノ習性ヲ養ハシムルニ足ラサルヲ以テ自今  
力メテ實習地ヲ設置シ教員自ラ兒童ヲ率テ耕耘ニ從事シ以テ本教科目加設ノ趣旨ヲ貫徹セシメ  
ンコトヲ期セラレヘシ但レ實習地ハ必スモ學校ノ附屬地タルヲ須ヒス適當ナル土地ヲ借入レテ  
之ニ充ツルモ亦可ナリ若シ已ムヲ得サル場合ニ在リテハ兒童ヲシテ各自父兄ノ農作地ニ於テ實習  
ヲ爲サシムル等便宜ノ方法ニ據ルコトヲ妨ケヌ要ハ町村ノ經濟ト地方ノ事情トヲ斟酌シテ相當ノ  
施設ヲ爲サシムルニ在リ又商業科ニ在リテハ其ノ教授ヲシテ土地ノ實際ニ適切ナラシムルト共ニ  
商業道德ノ涵養ニ努メレメ以テ本教科目ノ成績ヲ擧ゲシメンコトヲ期セラレヘシ

明治四十三年十二月二十四日

文部大臣 小松原英太郎

○農商務省訓令第三十號

林區署

林區署管内旅費規則申左ノ通改正ス

農商務大臣 男爵大浦兼武

明治四十三年十二月五日

第七條第二項削除

第八條 第五條及第六條ノ規定ハ沖繩小林区署管内ノ出張ニ適用セス但シ沖繩小林区保護區詰員  
ノ出張ハ此ノ限ニ在ラス

第九條ノ二 在勘地内ノ出張ニシテ陸路二里以上ニ涉ルトキハ甲號表同上五里以上ニ涉ルトキハ  
内國旅費規則ノ定額半額以内ノ日當ヲ支給スルコトヲ得  
第十條第一項中第七條第二項ヲ第九條ノ二ニ改ム

〔參照〕

- 農商務省訓令第三十二號 林區管內旅費規則(明治四十三年七月二日)抄錄
- 第七條第二項 在勸地内ノ出張ニシテ陸路二里以上ニ涉ルトキハ日當ノ半額ヲ支給ス
- 第八條 第五條及第六條ノ規定ハ沖繩小林區署長及同小林區署請員ニ適用セス
- 第十條第一項 管内部内又ハ在勸地内ノ用務ニ依リ出張ノ際其ノ必要上管外部外又ハ在勸地外ニ出張若ハ宿泊シタルトキハ第二條第五條第六條及第七條第二項ノ規定ヲ適用ス
- 農商務省訓令第三十一號
- 山林局 林區署

明治四十三年農商務省訓令第二號科目表中歲出臨時部尾國有林復舊費ノ款尾國有林復舊費ノ項ノ末位ニ賞與ノ目ヲ設置ス

明治四十三年十二月十九日

農商務大臣 男爵大浦兼武

○朝鮮總督府訓令第六十二號(官報十二月十三日)

道府郡

財務官吏職務執行ノ際注意ノ件左ノ通之ヲ定ム

朝鮮總督 子爵寺內正毅

明治四十三年十二月六日

- 第一條 財務官吏職務ニ關シ出張スルトキハ必ス制服ヲ着用シ且ツ證票ヲ携帯スヘシ
- 第二條 財務官吏法令ノ規定ニ依リ臨檢、搜索、差押又ハ訊問ヲ爲ストキハ豫メ證票ヲ立會人ニ示スヘシ
- 第三條 財務官吏搜索ヲ爲ストキハ搜索スヘキ家宅、倉庫、船車其ノ他ノ場所ノ所有主、借主、管理者、事務員又ハ同居ノ親族、雇人、鄰佑ニシテ成年ニ達シタル者ヲシテ之ニ立會ハシムヘシ

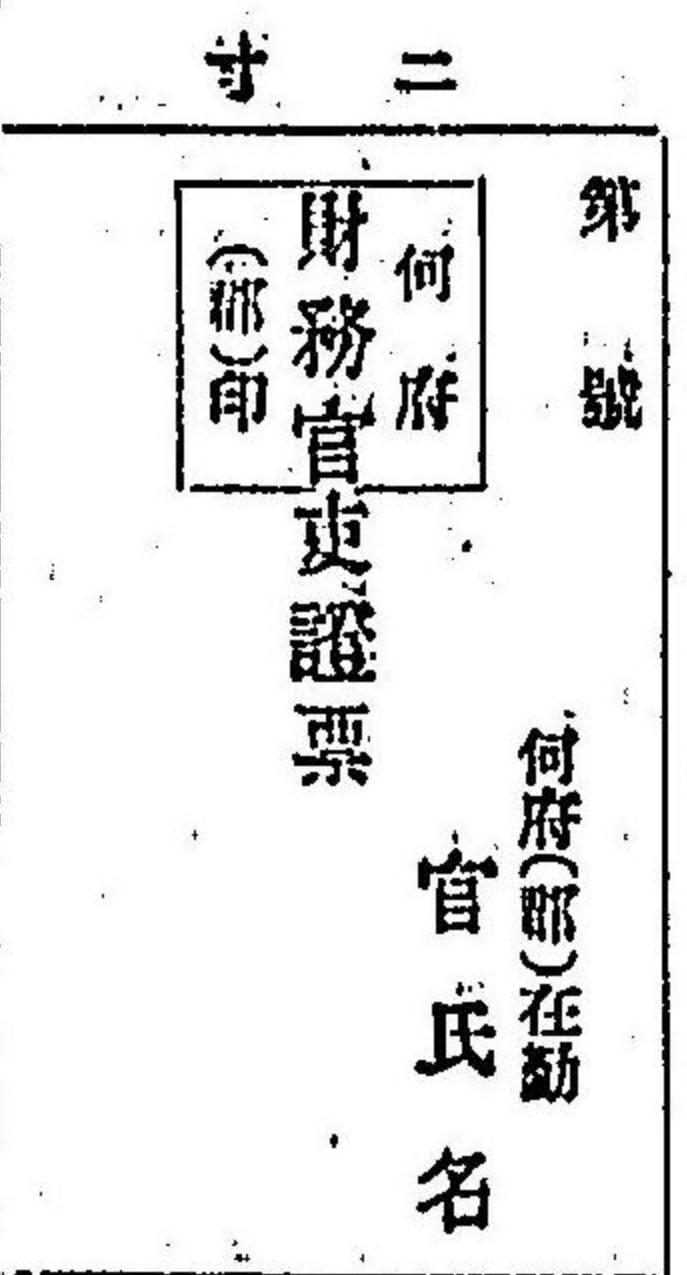
前項ニ掲グル者其ノ地ニ在ラサルトキ又ハ立會ヲ拒ミタルトキハ其ノ地ノ警察官吏又ハ面長、統首、洞長又ハ之ニ該當スル者ヲシテ之ニ立會ハシムヘシ

第四條 財務官吏ハ日没ヨリ日出迄ノ間臨檢、搜索又ハ差押ヲ爲スコトヲ得ス但シ現行犯ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

日没前ヨリ開始シタル臨檢、搜索又ハ差押ニシテ必要アル場合ハ日没後迄之ヲ繼續スルコトヲ得

第五條 財務官吏臨檢、搜索、差押又ハ訊問ヲ爲シタルトキハ其ノ場所及時並供述ノ要領ヲ記載シタル調書ヲ作り立會人又ハ訊問ヲ受ケタル者ニ示シ共ニ署名捺印スヘシ立會人又ハ訊問ヲ受ケタル者署名捺印セス又ハ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其ノ旨ヲ附記スヘシ

第六條 證票ノ様式左ノ如シ  
用紙厚質模造紙



附則

本令ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス  
隆熙三年度支部訓令第十四號財務官吏檢査規程ハ之ヲ廢止ス

○朝鮮總督府訓令第六十五號(官報 十二月十九日)

朝鮮總督府中樞院

朝鮮總督府中樞院議事規則左ノ通定ム

朝鮮總督 子爵寺內正毅

朝鮮總督府中樞院議事規則

- 第一條 中樞院顧問、贊議及副贊議ハ議長ノ指定シタル期日ニ中樞院ニ集會スヘシ
- 第二條 公務又ハ病氣ノ爲出席スルコト能ハサル者ハ其ノ事由ヲ具シ闕席届ヲ差出スヘシ  
事故ノ爲出席スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ具シ日數ヲ定メ議長ノ許可ヲ受クヘシ
- 第三條 會議ハ顧問六名以上出席スルニ非サレハ之ヲ開クコトヲ得ス
- 第四條 顧問、贊議及副贊議ノ席順ハ議長之ヲ定ム
- 第五條 會議ニ付スヘキ事項ハ其ノ會議ヲ開ク日ヨリ二日前ニ各顧問、贊議、副贊議並關係各部署長官ニ配付スヘシ但シ急ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 第六條 議事開始ノ時ニ至ルトキハ議長其ノ席ニ著キ諸般ノ報告ヲ爲シタル後會議ヲ開クコトヲ宣告ス
- 第七條 議長ハ書記官長ヲシテ會議ニ付スヘキ事項ヲ辯明セシメ次テ各顧問、贊議、副贊議ヲシテ意見ヲ陳述セシム
- 第八條 顧問、贊議、副贊議員ハ議長ノ許可アルニ非サレハ發言スルコトヲ得ス
- 第九條 前條ニ依リ發言セムトスルモノハ起立シテ議長ト呼ビ自己ノ名ヲ通シ議長ノ許可ヲ待テ發言スヘシ
- 第十條 議長ハ必要ニ由リ特ニ委員ヲ命シ期限ヲ定メ會議事項ノ審査ヲ爲サシムルコトヲ得
- 第十一條 朝鮮總督ハ朝鮮總督府各部署長官又ハ其ノ代理者ヲシテ主管事項ニ關シ何時ニテモ會議ニ出席シ説明ヲ爲サシム

議ニ出席シ説明ヲ爲サシム

第十二條 顧問ハ會議事項ニ付議長ノ許可ヲ得朝鮮總督府各部署長官又ハ其ノ代理者ニ説明ヲ求ムルコトヲ得

第十三條 顧問、贊議及副贊議ハ同一會議事項ニ付發言一回ニ及フコトヲ得ス、但シ質疑應答ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 議長ハ議事ノ終結及閉會ヲ宣告ス

議事終結ノ宣告アリタル後ハ何人ト雖會議事項ニ付發言スルコトヲ得ス

第十五條 議事事項午後四時ニ至ルモ尙議了セサルトキハ議長ハ更ニ時日ヲ定メテ再議セシムルコトアルヘシ

第十六條 會議中議長必要ト認ムルトキハ休憩ヲ命スルコトヲ得

第十七條 表決ヲ取ラムトスルトキハ問題ヲ可トスル者ヲ起立セシメ起立者ノ多數ヲ認定シテ可

否ヲ決ス

表決ノ結果ハ議長之ヲ言明スヘシ

第十八條 議事ハ出席顧問ノ過半數ヲ以テ定ム可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第十九條 議場ニ於テハ無禮ノ語ヲ用非又ハ他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス

第二十條 前條ニ違背シ又ハ議場ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ議長ハ之ヲ制止シ若ハ當日ノ會議ヲ終ル迄發言ヲ禁止シ又ハ議場外ニ退出セシムルコトヲ得

第二十一條 會議ノ顛末ハ書記官長之ヲ起草シ議長ノ檢閱ヲ經直ニ總督ニ報告スヘシ

第二十二條 會議ノ議事筆記ハ書記官長及出席顧問二名以上之ニ署名シ其ノ正確ヲ表明スヘシ

○朝鮮總督府訓令第六十六號(官報 十二月十九日)

明治三十九年七月 統監府訓令第十五號 居留民團法施行規則實施心得中左ノ通改正ス

明治四十三年十二月十三日

朝鮮總督 子爵寺內正毅

第三條中「理事官」ヲ「府尹」ニ改ム  
第六條及第十二條中「理事官」ヲ「道長官」ニ改ム  
第十三條中「理事官」ヲ「道長官」又ハ「府尹」ニ改ム  
第十五條中「理事官」ヲ「府尹」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ施行ス  
○朝鮮總督府訓令第六十七號(官報 十二月十九日)  
明治四十二年 三統監府訓令第二號居留民國ノ財務ニ關スル制中左ノ通改正ス  
朝鮮總督 子爵寺內正毅  
明治四十三年十二月十三日  
第六條中「理事官」ヲ「府尹」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ施行ス  
○朝鮮總督府訓令第六十八號(官報 十二月二十七日)  
明治四十三年十月 朝鮮總督府訓令第二十七號交通至難ノ場所ニ設置ノ燈臺ニ在勤スル朝鮮總督府  
通信技手及朝鮮總督府航路標識看守月手當金給與細則別表中左ノ通改正ス  
朝鮮總督 子爵寺內正毅  
明治四十三年十二月二十二日  
三等ノ項「所里島」ノ次ニ「舞水端」ヲ四等ノ項「小茅島」ノ次ニ「竹邊灣」ヲ加フ  
○朝鮮總督府訓令第六十九號(官報 十二月二十九日)  
仕拂命令官 歲入徵收官 收入官吏  
朝鮮總督府特別會計歲入歲出ニ關スル納稅告知書納入告知書、現金拂込費納付書及仕拂通知書、歲  
出金繰替拂通知書等ニハ其年度欄若ハ餘白ニ「朝鮮總督府」ト付記スヘシ  
朝鮮總督 子爵寺內正毅  
明治四十三年十二月二十四日

○朝鮮總督府訓令第七十號(官報 明治四十四年一月四日)

警務總長  
慶尙南道長官  
釜山稅關長

明治四十四年一月一日馬山浦開港閉鎖ノ後ニ於テ内地、臺灣及樺太ト朝鮮トノ間ニ通航スル海軍  
艦船以外ノ船舶直ニ馬山浦及行燈灣ニ出入セムトスルトキハ明治四十三年勅令第四百五十號ニ依  
リ釜山稅關長ノ特許ヲ受クルヲ要スト雖朝鮮開港ニ於テ稅關ノ手續ヲ了シタル帝國船舶ニ在リテ  
ハ別ニ特許ヲ要セス右兩港ニ出入スルコトヲ得ルモノトス  
朝鮮總督 子爵寺內正毅  
明治四十三年十二月二十九日

警察署長 憲兵分隊長

○朝鮮總督府訓令第七十一號(官報 明治四十四年一月十一日)

朝鮮總督 子爵寺內正毅

民事爭訟調停事務取扱手續

第一條 民事爭訟調停官吏調停ノ申請書ヲ受ケタルトキハ一件毎ニ受附ノ順序ニ從ヒ進行番號ヲ  
附シ民事爭訟調停件名簿(第一號)ニ記入ヲ爲スヘシ  
前項ノ申請書ニシテ受理スヘカラサルモノト思料シタルトキハ件名簿ニ其ノ旨ヲ記入シ之ヲ却  
下スヘシ  
第二條 前條ノ申請ヲ受理シタルトキハ三日内ニ期日ヲ定メ當事者ニ對シ呼出ノ手續ヲ爲スヘシ

- (第二號) 但シ出頭シタル當事者ニ對シテハ口頭ヲ以テ期日ヲ告知シ請書ヲ徵スルコトヲ得
- 第三條 被申請人他ノ管轄區域内ニ轉居シタル爲事件ヲ移送スル場合ニ於テハ申請人ニ其ノ旨ヲ通知シ件名簿ニ其ノ處分ヲ記入スヘシ
- 第四條 書類送達ニ付必要ナル費用ハ申請人ヲシテ郵便切手ヲ以テ之ヲ豫納セシムヘシ
- 第五條 調停官吏ハ調停ノ成立不成立ニ拘ハラズ民事訴訟調停案帳(第三號)ノ各欄ニ記入ヲ爲シ調停成立シタル場合ニ在リテハ調停調書(第四號)ヲ作成シ不成立ノ場合ニ在リテハ其ノ顛末ヲ調停申請書ニ附記スヘシ
- 第六條 調停事件完結シタルトキハ其ノ記録ヲ編綴シ一件毎ニ順次記録番號ヲ附シ民事訴訟調停事件索引簿(第五號)ノ各欄ニ記入ヲ爲スヘシ
- 第七條 費用ノ豫納ヲ受ケタルトキハ豫納費用受拂簿(第六號)ニ記入ヲ爲シ其ノ受拂ヲ明瞭ナラシムヘシ
- 第八條 調停官署ニハ左記ノ書類簿冊ヲ備フヘシ
  - 一 民事訴訟調停ニ關スル例規綴
  - 二 民事訴訟調停件名簿
  - 三 民事訴訟調停案帳
  - 四 民事訴訟調停記録綴
  - 五 民事訴訟調停事件索引簿
  - 六 豫納費用受拂簿

第一號様式(用紙ハ美濃判)

進行番號	進行年月日	要件	進行番號	進行年月日	要件	呼出	
						申請人	主任
第 號	明治 年 月 日		第 號	明治 年 月 日		申請人	主任
民事訴訟調停件名簿							
裏面ハ表面ニ同シ							

第二號様式(用紙ハ半紙判番號ハ進行番號)

明治 年 調停第 號

呼出 右當事者間  
午後 時 當署署長ニ出頭可有之候也

申請人 被申請人

二關スル民事訴訟調停事件ニ付明治 年 月 日

何署署長 朝鮮總督府審視(部)氏 名印

出頭ノ際ハ此ノ呼出狀ヲ持參スヘシ

第三號様式(用紙六張通判)

考 備	履行時期	調 停 成 立	目 標 件 事	進行 番 號	第	號	接 受 日 月 年	明 治	年	月	日	主 任 官												
				名	住 所 氏	當 事 者	申 請 人	被 申 請 人																
考 備	履行時期	目 標 件 事	目 標 件 事	執行 日 月 年	執行 日 月 年	執行 日 月 年	執行 日 月 年	執行 日 月 年	執行 日 月 年	執行 日 月 年	執行 日 月 年	執行 日 月 年												
													要	要	要	要	要	要	要	要	要	要	要	
													要	要	要	要	要	要	要	要	要	要	要	要
													要	要	要	要	要	要	要	要	要	要	要	要

民事訴訟調停業務  
裏面六表面二向

第四號様式(用紙八張通判)

調 停 調 査																																	
住所	身分	職業	申請人	氏	名	年	齡	住所	身分	職業	右代人	氏	名	年	齡	住所	身分	職業	被申請人	氏	名	年	齡	住所	身分	職業	右代人	氏	名	年	齡	何 警 察 署	事件ニ付明治
右當事者間	年月日午時	何時警察署ニ於テ前記當事者出頭左ノ通り調停成立シ	タリ																														



(申請人ノ請求要旨被申請人ノ答辯要旨調停成立事項及履行時期等項ヲ分チ記ス)

本件ハ通譯生某ヲシテ通譯ヲ爲サシメタリ(通譯ヲ介シタルトキ)

明治 年 月 日於何警察署

申請人(代人) 署名捺印

官署印

何警察署長

署名捺印

朝鮮總督府警視(部) 署名捺印

第五號様式(用紙ハ美濃判)

第 號	第 號	第 號	第 號	第 號	第 號
第 號	第 號	第 號	第 號	第 號	第 號

第六號様式(用紙ハ美濃判)

第 號	第 號	第 號	第 號	第 號	第 號	第 號	第 號	第 號	第 號	第 號	第 號	第 號	第 號	第 號	第 號	第 號	第 號	第 號
第 號	第 號	第 號	第 號	第 號	第 號	第 號	第 號	第 號	第 號	第 號	第 號	第 號	第 號	第 號	第 號	第 號	第 號	第 號
民事争訟調停事件索引簿	民事争訟調停事件索引簿	民事争訟調停事件索引簿	民事争訟調停事件索引簿	民事争訟調停事件索引簿	民事争訟調停事件索引簿	民事争訟調停事件索引簿	民事争訟調停事件索引簿	民事争訟調停事件索引簿	民事争訟調停事件索引簿	民事争訟調停事件索引簿	民事争訟調停事件索引簿	民事争訟調停事件索引簿	民事争訟調停事件索引簿	民事争訟調停事件索引簿	民事争訟調停事件索引簿	民事争訟調停事件索引簿	民事争訟調停事件索引簿	民事争訟調停事件索引簿
記録	記録	記録	記録	記録	記録	記録	記録	記録	記録	記録	記録	記録	記録	記録	記録	記録	記録	記録
進行	進行	進行	進行	進行	進行	進行	進行	進行	進行	進行	進行	進行	進行	進行	進行	進行	進行	進行
番號	番號	番號	番號	番號	番號	番號	番號	番號	番號	番號	番號	番號	番號	番號	番號	番號	番號	番號

月	日	預納額	額	額	額	額	額	額	額	受取人
月	日									氏名印
月	日									
月	日									
月	日									
月	日									
月	日									
月	日									
月	日									
月	日									
合計										

裏面ハ表面ニ同シ

○朝鮮總督府訓令第七十二號(官報明治四十四年一月十一日)

犯罪即決例施行手續左ノ通定ム

警察署長  
警察分署長  
憲兵分隊長

明治四十三年十二月三十日

朝鮮總督 子爵寺內正毅

犯罪即決例施行手續

第一條 犯罪即決ヲ爲スヘキ官吏事件ヲ受理シタル場合ニ於テ其ノ事件即決スヘカラス又ハ即決セサルヲ相當ト思料シタルトキハ之ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ送致スヘシ即決シ得ヘキ事件ト雖他ノ即決スヘカラス事件ト併發シタルトキ亦同シ

第二條 被告人ヲ引致シ又ハ呼出シタル場合ニ於テハ其ノ陳述ヲ錄取シ又ハ便宜始末書ヲ徵シ證據ヲ取調ヘ犯罪ノ事實明確ナルトキハ直ニ即決ノ言渡ヲ爲スヘシ但シ拘留又ハ科料ノ刑ニ該ルハキ犯罪ニ付テハ聽取書又ハ始末書ヲ省略スルコトヲ得

第三條 書類ノ送達ハ巡查若ハ巡查補又ハ憲兵上等兵若ハ憲兵補助員ヲシテ之ヲ爲シ送達書(第一式)ヲ作ラシムヘシ若本人ニ送達スルコト能ハサルトキハ其ノ住所ニ於テ同居ノ家族又ハ雇主、雇人ニ之ヲ爲シ送達書ニ其ノ事由ヲ記載セシムヘシ但シ拘留又ハ科料ノ言渡書(本若ハ呼出狀ノ送達ハ便宜使丁ヲシテ之ヲ爲シ受領書ヲ徵セシメ又ハ配達證明郵便ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第四條 即決ノ言渡確定シ監獄ニ於テ其ノ執行ヲ爲サシムヘキトキハ受刑者ト共ニ執行囑託書(第二式)及言渡書(本若送致スヘシ)

第五條 書類ノ送達、證據ノ取調及令狀並刑ノ執行ニ付テハ警察事務ヲ取扱フ各官署間互ニ囑託ヲ爲スコトヲ得但シ其ノ費用ハ囑託ヲ受ケタル官署ノ支辨トス

第六條 刑ノ執行ヲ他ノ官署ニ囑託スルトキハ執行囑託書(第二式)ト共ニ言渡書(本若送付スヘシ)前項ノ囑託ヲ受ケタル官署ニ於テハ犯罪即決事件受託書(第十式)ノ記入ヲ爲シ刑ノ執行ヲ終リタルトキハ執行済通知書(第三式)ヲ發送スヘシ

第七條 犯罪即決ヲ爲スヘキ官署ニハ左ノ書類、簿冊ヲ備フヘシ

- 一 犯罪即決事務ニ關スル規程
- 二 懲役禁錮禁獄罰金即決事件簿
- 三 懲役禁錮罰金即決事件言渡書及記錄綴
- 四 拘留管刑科料即決事件簿
- 五 拘留管刑科料即決事件言渡書及記錄綴
- 六 犯罪即決事件受託簿

第一號様式(用紙ハ半紙判)

送達書		一即決言渡書(呼出狀)一通	
道 耶 面 洞 里		統 戶 某 (送達スヘキモノナリ)	
官署印		明治 年 月 日	
何警察署長		朝鮮總督府警視(部)氏 名印	
受取人	署名	捺印	送達日
右之通取扱候也			由 事
			巡査(巡査補)氏 名印

第二號様式(用紙ハ半紙判)

執行嘱託書		執行スヘキ刑	
明治 年 月 日		明治 年 月 日	
官署印		何警察署長	
朝鮮總督府警視(部)氏 名印		何監獄(分監)典獄(看守長)氏 名印	
氏名	年齢	前科	備考
			右者別紙即決言渡書原本ノ通確定候條(言渡條確定ノ上ハ)直ニ執行相成度候也

第三號様式(用紙ハ半紙判)

執行済通知書		來番	
明治 年 月 日		明治 年 月 日	
官署印		何警察署長	
朝鮮總督府警視(部)氏 名印		何監獄(分監)典獄(看守長)氏 名印	
完納日	現金送付日	右送付先官署名	答數
明治 年 月 日	明治 年 月 日	明治 年 月 日	明治 年 月 日

第四號様式(用紙ハ半紙判)

刑 罰 日 初日	監獄へ送 致年月日	明治 年 月 日
		明治 年 月 日
右及通知候也		
何警察署長 朝鮮總督府警視(部)氏 名殿 官署印		
即決首渡番 賭博(1) 密附金裏規則違反(2)		
懲役二月ニ處ス 但シ此ノ首渡ニ對シ正式ノ裁判ヲ請求 スル期間ハ三日トス(1)		
罰金十圓ニ處ス 但シ此ノ首渡ニ對シ正式ノ裁判ヲ請求 スル期間ハ此ノ首渡番ノ送達アリタル 日より五日トス(2)		
住所 身分職業 氏 名 年 齡 (共犯ハ連名ニテ首渡スモ差支ナシ)		
法律第百八十六條第一項(1) 條照三年間令第二號第一條第七條(2)		

第五號様式(用紙ハ半紙判)

犯罪事實 被告ハ紳號ヲ何々ト稱シ賭博ヲ常習トスル者ニシテ明治 年 月 日午 時ヨリ何處某 方ニ於テ某某ト共ニ金銀ヲ賭シ丁半ト稱スル博奕ヲ爲シ居ル現場ニ於テ巡查某ニ逮捕 セラレタルモノナリ(1) 被告ハ明治 年 月 日頃ヨリ 月 日迄何處某外何名ヨリ何々ノ名義ニテ金何圓ヲ募 集シタルモノナリ(2)	
明治 年 月 日 官署印	何警察署長 朝鮮總督府警視(部)氏 名印
勾留狀 刑罰名 首渡年月日 明治 年 月 日 但シ本人潛匿シタルトキハ家宅ヲ搜 索スヘシ 明治 年 月 日 官署印 朝鮮總督府警視(部)氏 名印	
道 郡 面 洞 里 統 戸 身 分 職 業 氏 名 年 齡	執行シタル 年月日時 明治 年 月 日 午 時
執行シタル 場所	執行手續 家宅搜索ヲ爲 シタルトキハ 其ノ事山 勾留スルコト 能ハサルトキ ハ其ノ事山
執行者ノ 署名捺印	署名捺印

第六號様式(用紙ハ半紙判)

留置命令書

道 郡 面 洞 里 統 戶  
身分職業  
通稱何事 氏 名 年 齡

右ハ拘留 日(管 十)ノ旨渡ヲ爲シタル處留置ノ必要アルニ付犯罪即決例第八條ニ依リ 日  
間ニ留置ス

明治 年 月 日

何警察署長  
朝鮮總督府警視(部)氏 名 印

官署印

第七號様式(用紙ハ半紙判)

留置命令書

道 郡 面 洞 里 統 戶  
身分職業  
通稱何事 氏 名 年 齡

右ハ罰金(科料)ヲ假納セサルニ付犯罪即決例第九條ニ依リ 日間ニ留置ス

明治 年 月 日

何警察署長  
朝鮮總督府警視(部)氏 名 印

官署印

第八號様式(用紙ハ美濃判)

接受年月日	明治 年 月 日
主任官	
脱免原因	
現行非現行	
罪 名	
第 甲 號	
犯年月日	
時場所事實	
ノ概要	

被告人ノ本	籍住所出生	地身分職業	氏名年齢
刑名刑期 (金額)	適用法條	自渡年月日 對缺席ノ別	前 科
		明治 年 月 日 席	明治 年 月 日

懲役禁錮禁罰金即決事件簿

明治四十三年十二月 訓令 朝鮮總督府第七十二號 犯罪即決例施行手續

六二六

第九號様式(用紙八張(裁判))

進行 番	接受年月日	明治 年 月 日
	主任官	
發覺原因	被告人ノ本	

金		罰		執行		拘留		判決式正				
留置期間	右送付先官署名	現金送付年月日	完納年月日	假納年月日	假納金額	初日	及期ノ事由	執行年月日	發布年月日	終局要旨	官渡年月日	申立年月日
		明治 年 月 日	明治 年 月 日	明治 年 月 日		明治 年 月 日		明治 年 月 日	明治 年 月 日		明治 年 月 日	明治 年 月 日
考 備						分處品金收沒						
						現金送付年月日	賣却代金	沒收物件	沒收金額			
						右送付先官署名						
						明治 年 月 日						

明治四十三年十二月 訓令 朝鮮總督府第七十二號 犯罪即決例施行手續

六二七

拘留管刑科料即決事件簿									
號		第 乙 號		號		號		號	
執行非執行ノ別		姓名		犯罪年月日		時勢所事實		概要	
籍住所出生		地身分職業		氏名年齢		刑名刑期(金額)		適用法條	
前科		言渡年月日		對缺府ノ別		確定年月日			
		明治 年 月 日		明治 年 月 日		明治 年 月 日			
沒收金額		沒收物件		賣却代金		現金送付年月日		右送付先官署名	
						明治 年 月 日			
沒收金額		沒收物件		賣却代金		現金送付年月日		右送付先官署名	
						明治 年 月 日			

第十號様式(用紙ハ美濃判)

受刑者住所 身分職業氏 名年齢	囑託官署名	即決官吏名	受託官署名 主任官	犯罪年月日	刑名 (金額)	適用法條
				明治 年 月 日		
行 執 の 刑						
初 日	満 期 日	完納年月日	現金送付年 月日	右送付先官 署名	管 數	刑 月日
明治 年 月 日	明治 年 月 日	明治 年 月 日	明治 年 月 日			明治 年 月 日

管 假納金額	假納年月日	完納年月日	現金送付年 月日	右送付先官 署名	留置期間	管 數	刑 月日
	明治 年 月 日	明治 年 月 日	明治 年 月 日				明治 年 月 日
考 備							

首渡年月日 對決席ノ別	確定年月日	發布年月日	留置年月日	狀 月日
明治 年 月 日	明治 年 月 日	明治 年 月 日	明治 年 月 日	明治 年 月 日
犯罪即決事件受託簿				
囑託官署名(通報 年月日)	考 備			
明治 年 月 日				

裏面ハ表面ニ同シ

# 法令全書

達

## ○陸軍第一號

交通兵隊工卒教育規則左ノ通定ム

明治四十三年一月十二日

陸軍大臣 子爵寺内正毅

### 交通兵隊工卒教育規則

第一條 本規則ハ交通兵隊ニ於ケル工卒ノ教育ニ關スル事項ヲ定ムルモノトス但シ銃工卒、縫工卒、靴工卒、蹄鐵工卒ノ教育ニ關シテハ特ニ本規則ニ定ムルモノヲ除クノ外陸軍工卒教育規則ニ依ル

第二條 前條但書ニ示ス諸工卒ノ外交通兵隊ニ於ケル工卒ノ種類、教育ノ期間、目的及科目ハ概ネ別表ノ如シ

第三條 隊長ハ毎年第二期教育ヲ終レハ初年兵中ヨリ工卒ニ適當ノ者ヲ選ヒ其ノ教育ヲ始ム

第四條 隊長ハ第二條ニ掲クル工卒ノ教育ヲ掌ラシムル爲擔任教官及助教ヲ定ムヘシ

第五條 教育終レハ隊長ハ卒業證書陸軍工卒教育規則ノ離形ニ據ルヲ與ヘ且共ノ趣ヲ軍隊手牒ニ記載ス

第六條 鐵道聯隊第三大隊ニ在リテハ縫工卒及靴工卒ハ聯隊本部ニ集メテ教育ヲ行ヒ其ノ他ノ工卒ハ同大隊ニ於テ之ヲ行フ

第七條 氣球隊ニ於ケル銃工卒、縫工卒及靴工卒ノ教育ハ當分ノ内電信大隊ニ於テ之ヲ行フ

第八條 隊長ハ衛戍地附近ノ學校、會社、工場等ニ於テ第二條ニ掲クル工卒ノ練習ヲ爲サシムルコトヲ得

(別表略ス)



○陸軍第二號

陸軍各隊陣營具定敷表及附圖中左ノ通告正ス

明治四十三年一月十七日

陸軍大臣 子爵寺内正毅

(條文略ス)

○海軍省第一號

黃銅製榴出藥莢取扱規程左ノ通り定ム

明治四十三年一月十五日

海軍大臣 男爵齋藤實

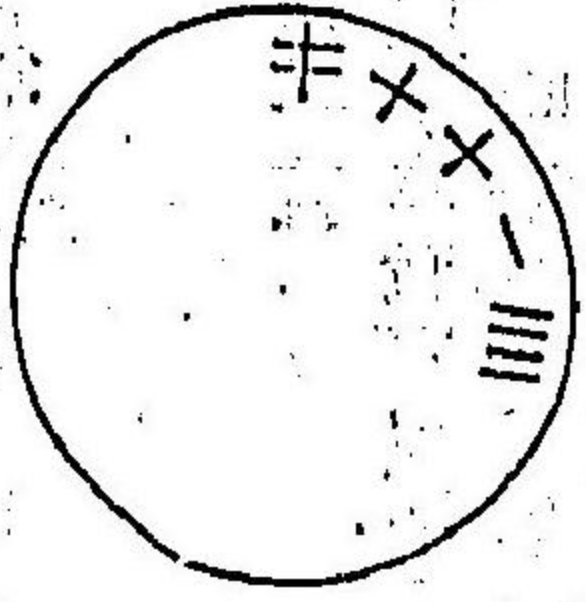
黃銅製榴出藥莢取扱規程

第一條 本規程ニ於テ黃銅製榴出藥莢トハ主トシテ六吋砲以下ノ藥莢ヲ稱ス  
機砲藥莢、小銃藥莢及拳銃藥莢ハ之ニ準シテ取扱フモノトス

第二條 藥莢打毀ハ艦船ニ在リテハ直ニ清水ヲ以テ能ク内外ヲ清洗シタル後之ヲ最寄工廠へ還納スヘシ

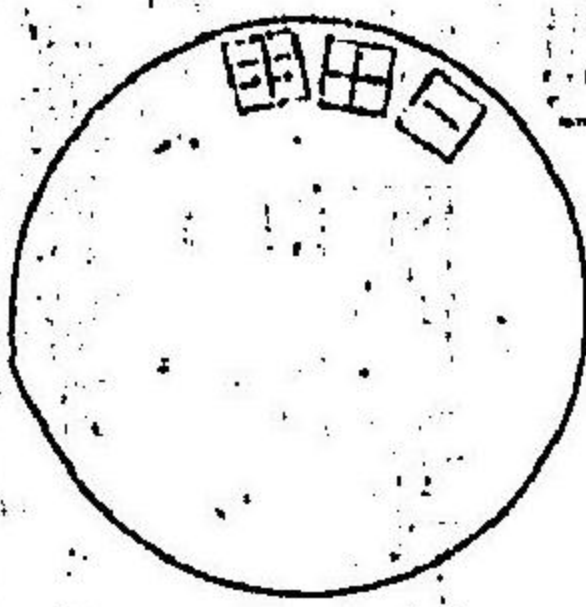
戰時ニ在リテ事情已ムヲ得サル場合ハ適宜處分スルコトヲ得

第三條 藥莢打毀ニハ使用裝藥ノ種類ニ應ジ莢底ノ周圍ニ左ノ符號ヲ刻シ使用ノ回數ヲ知ルニ供スヘシ



- 十 強裝藥ニ使用シタルトキ
- 十+ 常裝藥ニ使用シタルトキ
- 一 減裝藥ニ使用シタルトキ
- 一 空放藥ニ使用シタルトキ

第四條 膨脹罈破裂若ハ甚シク固著シタル藥莢ハ其ノ莢底ニ左ノ符號ヲ刻シ尙ホ故障ノ情況ヲ記シタル紙片ヲ貼付シ特ニ他ノ良品ト區別シテ還納スヘシ



- 田 強裝藥ニ使用シ故障アリタルトキ
- 田+ 常裝藥ニ使用シ故障アリタルトキ
- 田- 減裝藥ニ使用シ故障アリタルトキ

右紙片ニ記入スヘキ事項ハ故障ノ主因藥莢ニ在ルカ或ハ藥室ノ變形ニ在ルカヲ確ムル爲メ必要ノモノニシテ其ノ事項概ネ左ノ如シ

(イ) 當該砲ニ新藥莢ヲ成ルヘク深ク壓入シ藥莢底面ト尾栓頭面トノ間ニ生スル空隙ノ若干密ナルヤヲ測定シテ之ヲ記入スルコト

(ロ) 藥室後端附近ニ凸凹痕ノ有無等ヲ檢シ之ヲ記入スルコト

(ハ) 從來ノ經驗上其ノ砲ニ限リ特ニ藥莢ノ故障頻發セシヤ否ヤヲ記入スルコト

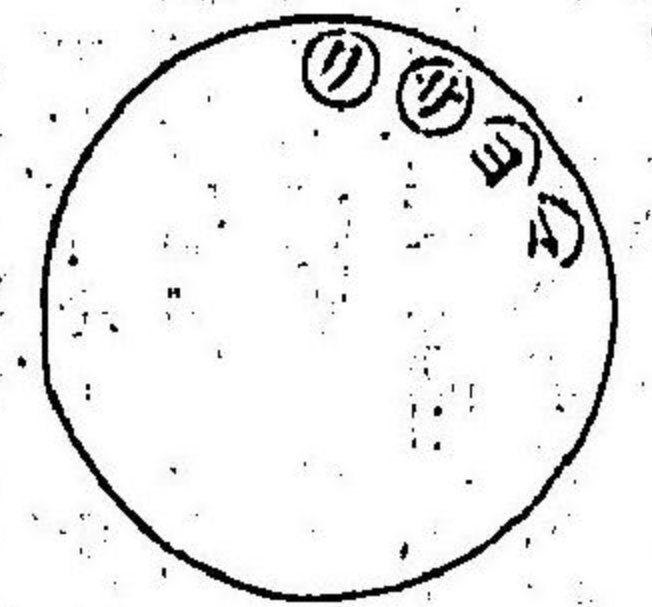
(ニ) 故障藥莢ト同類ノ藥莢ハ他砲ニ於テモ故障續出セシヤ否ヤ等ヲ記入スルコト

第五條 工廠ニ於テ藥莢打毀ノ還納ヲ受ケタルトキハ莢底ノ符號ト照シ能ク其ノ内外ヲ檢シ再ヒ使用ノ見込アルモノハ締直シテ行ロタル後必ス燒鈍法ヲ施シ形状硬度等ニ付キ嚴密ナル検査ヲ行ロ共ノ現狀ニ依リ常裝藥用減裝藥用及空放藥用ニ區別シ再用スルモノトス

第六條 膨脹罈破裂若ハ甚シク固著シタル藥莢ノ還納ヲ受ケタルトキハ其ノ貼付紙記載ノ事項ト照シ能ク藥莢ノ真否ヲ檢定シ故障ノ主因ノ何レニ在リシヤヲ判斷シテ適當ノ手段ヲ講スヘシ

一度故障アリタル藥莢ハ再ヒ廣包用トシテ使用セサルヲ例トス

第七條 藥莖ハ外面完全ナルモノト雖空放藥トシテ再用スル場合ノ外強裝藥 常裝藥及滅裝藥ヲ  
通シ五回以上同一物ヲ使用スヘカラス強裝藥ハ一發ヲ以テ二回ニ數フ  
第八條 工廠第五條ニ記スル修理ヲ行ヒタルトキハ莖底ニ左ノ如キ符號ヲ刻シ以テ其ノ責任及指  
定ヲ明カニスヘシ



- ① 吳工廠ニテ修理ヲ行ヒ常裝藥用トス
- ② 佐世保工廠ニテ修理ヲ行ヒ常裝藥用トス
- ③ 橫須賀工廠ニテ修理ヲ行ヒ滅裝藥用トス
- ④ 舞鶴工廠ニテ修理ヲ行ヒ滅裝藥用トス

第九條 第三條第四條及第五條ニ依リ莖底ニ印刻スヘキ符號ノ深サ太サ等ハ圖別ニ得ルヲ度トシ  
成ルヘク細小ナルヲ要シ印刻ノ順序ハ莖底ニ面シテ時針ノ運行方向ト同一ナルヲ要ス  
第十條 藥莖底ニハ前諸條ニ規定シアルモノノ外他ノ符號ヲ刻記スヘカラス又從來刻記セル符  
號ハ藥莖製造元ナル吳工廠規定ノ刻印及英國安社刻印ノ外此ノ規程ト違フモノハ修理ノ際便宜  
除去スヘシ

附 則  
第十一條 明治二十五年二月十日達第七號及明治二十七年三月三十一日達第四十三號ヲ廢ス

〔參照〕

明治二十五年二月十日海軍省達第七號ハ黃銅製種出莖莖取扱方同二十七年三月三十一日同第四十三號ハ速射砲用藥莖符號ノ件  
ナリ

○海軍省達第二號

海軍無線電報取扱規約附表第二遞信省船舶局名略符號中日本郵船ノ欄信濃丸ノ次ニ左ノ通追加ス  
明治四十三年一月二十一日 阿波丸 海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第三號

明治四十一年十月達第二百二十號海軍軍法會議ニ於テ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル者ニ關スル取扱  
手續中左ノ通改正ス  
明治四十三年一月二十一日 海軍大臣 男爵齋藤實

第一條ノ二 刑ノ執行猶豫中ノ者ノ所轄ニ變更アリタルトキハ舊所轄長ハ其ノ旨ヲ判決軍法會議  
ニ通知スヘシ

第二條ノ二 刑ノ執行猶豫ヲ取消シタルトキハ主理ハ其ノ旨及取消ノ原因ヲ所轄長及本籍地ノ戶  
籍吏ニ通知スヘシ

○海軍省達第四號  
滿艦飾型式標準別紙ノ通定  
但シ別紙ハ之ヲ要スル向ヘノミ配賦ス  
明治四十三年一月二十五日 海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第五號  
海軍五等卒教育規則左ノ通改ム  
明治四十三年一月二十八日 海軍大臣 男爵齋藤實

海軍五等卒教育規則  
第一條 五等卒ハ海兵團ニ於テ教育ス但シ五等看護ハ海兵團及海軍病院ニ於テ教育スルモノトス  
第二條 五等卒入團シタルトキハ海兵團長 勅諭ヲ奉讀シ其ノ大旨ヲ訓諭シ軍人ノ本分ヲ會得セ

第三條 海兵團長及海軍病院長ハ本則及五等卒教育綱領ニ基キ五等卒教育ニ關スル細則及教程ヲ定メ鎮守府司令長官ノ認可ヲ經テ之ヲ實施スヘシ但シ鎮守府司令長官ハ之ヲ認可スルニ先チ海軍教育本部長ニ合議スルヲ要ス

第四條 海兵團長及海軍病院長ハ五等卒教育主任ヲ定メ細則及教程實施ノ責ニ任セシムヘシ

第五條 海兵團長及海軍病院長ハ常ニ五等卒教育ノ進歩ヲ考察シ其ノ修業ノ終ニ於テ五等卒教育綱領ニ掲グル各科目(別科ヲ除ク)ノ試験ヲ行フヘシ但シ試験ハ成ルヘク實地實物ニ就キ行フモノトス

第六條 五等卒ノ修業期ハ約五箇月トシ左ノ期日迄ニ修業ヲ終ルヘシ  
一、十二月一日入團スル者ハ翌年四月三十日  
二、六月一日入團スル者ハ其ノ年十月三十一日

第七條 五等卒ニシテ病氣其ノ他ノ事故ニ依リ修業ヲ終ラサル者アルトキハ適宜其ノ修業期ヲ延スコトヲ得

第八條 五等卒修業ヲ終レハ海兵團長及海軍病院長ハ其ノ修業報告(試験成績、海兵團長若ハ海軍病院長並教育主任所見等ヲ含ム)ヲ鎮守府司令長官ニ提出シ鎮守府司令長官ハ之ヲ海軍教育本部長ニ移牒スヘシ

第九條 五等卒ノ試験成績順序ハ何人中ノ何番ナル字句ヲ用ヒ之ヲ本人ノ履歷表ニ記入スヘシ

第十條 海兵團長ハ五等機關兵修業中工業伎術ノ素養優等ナリト認メタル者アルトキハ其ノ伎術ヲ査定シ海軍教育本部長ノ定ムル所ノ工業伎術査定標準ニ依リテ合格ヲ決定シ合格シタル者ハ本人ノ履歷表ニ何キ工業査定標準合格ノ旨ヲ記入シ之ヲ鎮守府司令長官ニ報告シ鎮守府司令長官ハ其ノ工業種別並員數ヲ海軍教育本部長ニ通知スヘシ

前項ノ伎術査定ニ關シテハ海兵團長ハ所在海軍工廠長ニ協議スヘシ

海軍工廠長ハ前項ノ協同ヲ受ケタルトキハ部下職員ヲシテ伎術ノ査定ニ從事セシメ且査定ニ關スル便宜ヲ與フヘシ

第十一條 五等看護海兵團ニ於テ五等卒教育綱領第四條ノ教育ヲ終リタル後約一週間ヲ經過セハ之ヲ海軍病院ニ移スヘシ但シ五等卒教育綱領第十條中海兵團ニ於テスヘキ教程ノ全部終了ニ至ル迄ハ適宜之ヲ海兵團ニ派遣シ若ハ教員ヲ海兵團ヨリ派出シテ教授セシムヘシ

五等看護海兵團ニ於ケル修業ヲ終レハ海兵團長ハ其ノ修業報告ニ記入スヘキ事項ヲ海軍病院長ニ移スヘシ

五等看護海軍病院ニ於ケル修業ヲ終レハ海軍病院長ハ修業報告寫ヲ添ヘ之ヲ海兵團ニ復歸セシムヘシ

附 則

明治三十九年達第八十號ハ本達施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

(參照)  
明治三十九年三月廿四日海軍省達第八十號ハ五等卒教育規則及五等卒教育要旨ナリ

○海軍省達第六號  
海軍木工練習規則左ノ通改ム

明治四十三年一月二十八日  
海軍大臣 男爵齋藤實

海軍木工練習規則

第一條 本則ニ依リ海兵團ニ於テ教育スル木工ヲ木工練習生ト稱ス

第二條 五等木工ヨリ四等木工ニ進級セハ海兵團長ハ之ニ木工練習生ヲ命スルモノトス

第三條 木工練習生ニ教授スヘキ科目左ノ如シ

本 科

一、船匠術

工業材料見積概要製圖初步、商品概要

二、潜水術

潜水器ノ保存法、潜水作業

三、砲術

陸上工作、陸戰要務概要

四、運用術

船體船具保存法概要、塗具類ノ調合及使用法

別科

銃隊教練(各個教練)、體操、端舟及傳馬船漕方、重量目測、手旗信號、普通學、游泳術等

第四條 木工練習生ノ修業期ハ約六箇月トシ左ノ期日迄ニ修業ヲ終ルヘレ

一、十二月一日入團シタル者ハ翌年十月三十一日

二、六月一日入團シタル者ハ翌年四月二十日

第五條 卒業試験ハ修業期ノ終ニ於テ行フ

卒業試験ニハ別科ノ外全學期間ニ教授シタル各科目ヲ試験ス

第六條 卒業試験ノ及第點數ハ各科全點ノ十分ノ四以上ヲ得共ノ點數ヲ合算シ總點數ノ十分ノ五

以上トス

卒業試験ノ成績順序ハ何人中ノ何番ナル字句ヲ用ヒ之ヲ本人ノ履歷表ニ記入スヘシ

第七條 木工練習生ニシテ卒業試験ニ落第シタルトキハ若干日間落第シタル科目ヲ復習セシメ共

ノ科目ニ就キ再試験ヲ行フヘシ

第八條 木工練習生ニシテ其ノ伎倆優等ナル者アルトキハ所定ノ修業期ヲ經過セシメテ卒業セシ

ムルコトヲ得

第九條 木工練習生ニシテ病氣其ノ他ノ事故ニ依リ所定ノ期日迄ニ修業ヲ終ラサル者アルトキハ

適宜其ノ修業期ヲ延スコトヲ得

第十條 木工練習生卒業セハ海兵團長ハ練習生ヲ免シ直ニ之ヲ補缺員ニ編入スヘシ

第十一條 海兵團長ハ本則ニ依リ木工練習生教育ニ關スル細則及教程ヲ定メ鎮守府司令長官ノ認

可ヲ經テ之ヲ實施スヘシ但シ鎮守府司令長官ハ之ヲ認可スルニ先チ海軍教育本部長ニ合議スルヲ要ス

第十二條 海兵團長ハ木工練習生教育主任ヲ定メ細則及教程實施ノ責ニ任セシムヘシ

第十三條 卒業試験ノ成績ハ海兵團長之ニ意見ヲ附シ鎮守府司令長官ニ報告シ鎮守府司令長官ハ

之ヲ海軍教育本部長ニ移牒スヘシ

附則

第十四條 海軍四等木工練習生規則ハ本則實施ノ日ヨリ廢止ス

第十五條 本則實施ノ際現ニ海兵團ニテ修業中ノ四等木工練習生ハ本則ニ依ル木工練習生ト看做

スヘシ

○海軍省達第七號

海軍五等卒教育綱領左ノ通定ム

明治四十三年一月二十八日

海軍五等卒教育綱領

第一條 五等卒ノ教育ハ軍人精神ヲ涵養スルト同時ニ各兵種ニ應シ職崗ニ必要ナル技術ノ初步ヲ

修得セシムルヲ本旨トス

第二條 五等卒ノ教育ハ精神教育ニ重キヲ措キ且技術ハ努メテ實地實物ニ就テ簡明ニ之ヲ教授スヘシ

第三條 五等卒ノ教育ハ又體育ニ意ヲ用ヒ居常身心ヲ快活ナラシメ且之ヲ教導スルニハ寬嚴其ノ

宜キヲ得衷心喜ンテ規律的生活ト軍隊ノ服務トニ慣レシムルヲ要ス

海軍大臣 男爵齋藤實

第四條 五等卒入團シタルトキハ先ツ左ノ諸號ニ就キ嚴格ナル教育ヲ施スヘシ

一、勅諭奉讀及講話

二、體勢ノ整正

三、所屬上官ノ官氏名武官ノ階級服制勳章徽章ノ種類及其起因各兵種ノ識別及性能等

四、敬禮式海兵團内則其ノ他規律ニ關スル須要ノ事項

五、衣服著裝釣床取扱衣囊手箱等ニ關スル心得

第五條 精神教育ハ艦團隊教育規則ニ準シテ施スヘシ

第六條 五等水兵ニ教授スヘキ科目左ノ如シ

本科

一、砲術

銃隊教練(中隊迄)砲隊教練(砲車長ノ任務ヲ除ク)艦砲教練(中小口徑砲)陸戰要務概要 砲術

ニ關スル諸兵器概要小銃ノ照準發射法及射擊野砲射擊

二、運用術

船體船具ノ概要艦内作業ニ關スル實務概要端舟及傳馬船漕方

別科

體操裝填術拳銃教練銃劍術水雷術初歩登橋手旗信號普通學口達傳令及報告法游泳術等

第七條 五等軍樂生ニ教授スヘキ科目左ノ如シ

本科

一、管樂

樂器取扱奏法

二、理論

音樂通論初歩

三、唱歌

音階(長音階)音程(第一度ヨリ第三度迄)

四、砲術

銃隊教練(徒手各個教練)

別科

體操拳銃教練船體船具ノ主ナル名稱端舟及傳馬船漕方手旗信號口達傳令及報告法游泳術等

第八條 五等木工ニ教授スヘキ科目左ノ如シ

本科

一、船匠術

木工具取扱法簡易ナル工業

二、潛水術

潛水術初歩

三、砲術

銃隊教練(各個教練)拳銃教練小銃拳銃ノ照準發射法概要取扱法及其ノ射擊

四、運用術

船體船具ノ概要

別科

體操端舟及傳馬船漕方手旗信號普通學口達傳令及報告法游泳術等

第九條 五等機關兵ニ教授スヘキ科目左ノ如シ

本科

一、機關術

船用機關ノ概要、機關取扱初步、焚火法

二、機關工業

工具取扱、工業初步

三、砲術

銃隊教練(小隊迄)、拳銃教練、小銃拳銃ノ照準發射法概要、取扱法及其ノ射擊

別科

體操、水雷術初步、船體船具ノ主ナル名稱、端舟及傳馬船漕方、手旗信號、普通學、口達傳令及報告法、游泳術等

第十條 五等看護ニ教授スヘキ科目左ノ如シ

本科

一、解剖學

系統解剖學概要

二、生理學

生理學概要

三、藥物學

藥物學及調劑術ノ概要、滋養品調理法

四、看護法

看護法概要、救急法、創傷處置法概要

五、糊帶術

糊帶術概要、副木用法概要

六、傷者運搬法

擔架操法、諸種ノ運搬法

七、砲術

銃隊教練(徒手各個教練)、拳銃教練、拳銃ノ照準發射法概要、取扱法及其ノ射擊

別科

體操、船體船具ノ主ナル名稱、端舟及傳馬船漕方、手旗信號、普通學、口達傳令及報告法、游泳術等

(備考) 五等看護教授科目中本科第一號乃至第五號ハ海軍病院ニ於テ第六號第七號及別科ノ内體操、船體船具ノ主ナル名稱、端舟及傳馬船漕方、手旗信號ハ海兵團ニ於テ教授シ普通學、口達傳令及報告法、游泳術等ノ別科ハ海兵團及海軍病院ニ於テ教授スルモノトス

第十一條 五等主廚ニ教授スヘキ科目左ノ如シ

本科

一、廚業

廚業要具及糧食品ニ關スル事項、調理法、配給法

二、普通學

讀書、作文、算術、習字(何レモ主廚ニ必要ナル程度)

三、砲術

銃隊教練(各個教練)、拳銃教練、小銃拳銃ノ照準發射法概要、取扱法及其ノ射擊

別科

體操、船體船具ノ主ナル名稱、端舟及傳馬船漕方、手旗信號、口達傳令及報告法、游泳術等

○海軍省第八號

海軍給與令施行細則中左ノ通改正ス

明治四十三年一月二十八日

海軍大臣 男爵齋藤實

第十四表中旋靴ノ次ニ左ノ通追加ス

中長靴 一組 留守府要港部ノ巡邏衛兵ニ直分ノ數ヲ準備シ之ニ貸與ス但シ防禦服半長靴ノ貸與ヲ受クル期間ハ此ノ貸與ヲ停止ス

○會計検査院連第一號

支出證明規程及仕拂證明規程中左ノ通改正シ明治四十二年度ヨリ施行ス

明治四十三年一月二十七日

會計検査院長 法學博士子爵田尻稻次郎

支出證明規程第十三條及仕拂證明規程第十二條第一項中「其附屬書類ヲ添付」ノ下「シ若シ設計ヲ變更シタルトキハ其變更設計書類ヲ最終證書ニ添付」ヲ加フ

同上第二項中「事業竣功シタルトキハ」ノ下「參千圓以上ノモノニ就テハ」ヲ加ヘ「シ若シ設計ヲ變更シタルトキハ其變更設計書類ヲ添付」ヲ削ル

〔參照〕

會計検査院連第一號支出證明規程(明治三十二年五月十一日)抄録

第十三條第一項及第二項

總價格千圓以上ノ直營事業ニ關スル最初支出ノ證書ニハ其設計書仕拂設計圖面及其附屬書類ヲ添付スヘシ但繼續事業ニシテ特ニ毎年度設計書ヲ調製スルモノハ其年度最初支出ノ證書ニ之ヲ添付スヘシ

事業竣功シタルトキハ竣功明細書ヲ調製シテ其最終支出ノ證書ニ添付シ若シ設計ヲ變更シタルトキハ其變更設計書類ヲ添付スヘシ但繼續事業ニ係ルトキハ當該年度内ニ於ケル既済ノ部分ニ就テ竣功明細書ヲ調製スヘシ

會計検査院連第二號仕拂證明規程(明治三十二年五月十三日)抄録

第十二條第一項及第二項

總價格千圓以上ノ直營事業ニ關スル最初仕拂ノ證書ニハ其設計書仕拂設計圖面及其附屬書類ヲ添付スヘシ但繼續事業ニシテ特ニ毎年度設計書ヲ調製スルモノハ其年度最初仕拂ノ證書ニ之ヲ添付スヘシ

事業竣功シタルトキハ竣功明細書ヲ調製シテ其最終仕拂ノ證書ニ添付シ若シ設計ヲ變更シタルトキハ其變更設計書類ヲ添付スヘシ但繼續事業ニ係ルトキハ當該年度内ニ於ケル既済ノ部分ニ就テ竣功明細書ヲ調製スヘシ

○陸連第三號

軍馬補充部支部同派出部及出張所ノ名稱及位置左表ノ通改正ス

明治四十三年二月二日

陸軍大臣 子爵寺內正毅

支 部	名 稱	位 置	派 出 部	又	ハ	出 張 所
川上支部	北海道釧路國川上郡熊牛村		音別派出部			北海道釧路國白糠郡尺別村
釧路支部	北海道釧路國白糠郡白糠村		足寄太出張所			北海道十勝國中川郡本別村
七月支部	青森縣上北郡天間林村		倉内出張所			青森縣上北郡野邊地町
三本木支部	青森縣上北郡三本木村		表館出張所			青森縣上北郡六ヶ所村
六原支部	巖手縣膽澤郡相去村		中山派出部			巖手縣三戸郡小島谷村
鏡泊谷澤支部	宮城縣玉藻郡温泉村		駒込出張所			青森縣津輕郡道志村
白河支部	福島縣西白河郡西郷村		戸來出張所			青森縣三戸郡戸來村
大山支部	鳥取縣西伯郡庄内村		田代出張所			巖手縣下閉伊郡門馬村
			種山出張所			巖手縣仙臺郡世田米村
			秋田出張所			山形縣最上郡及位村
			及位出張所			山形縣最上郡及位村
			冬山出張所			秋田縣山形郡院内村
			那須出張所			栃木縣那須郡那須村
			泉出張所			栃木縣鹽谷郡泉村
			白石出張所			宮城縣刈田郡福岡村
			赤崎出張所			鳥取縣東伯郡成實村
			旭川出張所			岡山縣真庭郡八束村

高 原 支 部	宮崎縣児湯郡上江村	高 原 派 出 部	宮崎縣西諸縣郡高嶽村
備 考	一、名稱ハ支部ニ在リテハ軍馬補充部、派出部及出張所ニ在リテハ所屬支部ノ名稱ヲ冠スルモノトス例ハ軍馬補充部川上支部、軍馬補充部銚路支部、軍馬補充部七戸支部、宮内出張所ト稱スルカ如シ	加久藤出張所	宮崎縣西諸縣郡加久藤村
	二、本表ニハ陸軍及關東州ノモノヲ除ク		

○陸軍第四號 衛戍病院服務規則別冊ノ通定ム

明治三十七年陸軍第十九號ハ之ヲ廢止ス

明治四十三年二月八日

陸軍大臣 子爵寺内正毅

(別冊略ス)

(參照)

明治三十七年二月十陸軍第十九號ハ本號ト同伴ナリ

○陸軍第五號

陸軍身體検査手續左ノ通改正ス

明治四十三年二月十九日

陸軍大臣 子爵寺内正毅

(左記略ス但シ必要ノ向ヘ配賦ス)(以上同日官報所載)

陸軍身體検査手續 第一章 通則

第一條 本手續ハ徵兵検査規則、陸軍士官候補生徒其他陸軍志願者身體検査規則ニ依ル身體検査ノ方法ヲ規定ス

第二條 身體検査ハ概左ノ順序ニ依リ之ヲ行フ

- 一 身長及體重ノ測定
- 二 視力辨色力及視器ノ検査
- 三 聽能聽器及鼻腔口腔咽喉腔ノ検査
- 四 言語精神ノ検査
- 五 一般構造ノ検査
- 六 關節運動ノ検査
- 七 各部ノ検査

第三條 身長ヲ測定スルニハ名簿ニ照シテ共ノ氏名ヲ問ヒ衣服ヲ脱セシメ(眼鏡ヲ著用スル者ハ同時ニ之ヲ脱セシメ)視力検査ノ終ル迄其ノ著用ヲ禁ス(著用ノ儘身長計ノ臺上ニ立チ踵ヲ竝ハテ尺身ニ接シ尋常呼吸ニ於テ姿勢ヲ正サシム此ノ際殊ニ膝腰項部等ヲ正シク伸シアリヤ否ニ注意シ矯正ヲ加フルノ要ナキニ至リテ横杆ノ正中ヲ頗以ニ當テ更ニ全身ノ位置ヲ通視シテ身長ヲ定ム但シ尺度ノ位置ニ在ルモノハ高キニ從フ

検査ハ前項ノ測定終リタルトキハ高聲ヲ以テ共ノ成績ヲ讀上ケ共ノ都度之ヲ壯丁名簿表以下同ニ記入シ捺印スヘシ

體重ヲ測定スルニハ體重計ノ正否ヲ檢シ所要ノ矯正ヲ加ヘタル後受檢者ヲ共ノ臺板上ニ直立靜止セシメ杆ノ基點ヨリ末端ニ向ケテ錘ヲ動カシ正シク平均ヲ得ルニ至リ體重ヲ定メ檢者ハ高聲ニテ共ノ成績ヲ讀上ケ之ヲ壯丁名簿ニ記入シ捺印スヘシ

身長及體重ノ測定終リタルトキハ受檢者ヲシテ衣服ヲ著用セシム

第四條 視力ハ試視力表(陸軍省醫務局製)ヲ用非テ檢スヘシ試視力表ハ場内ノ最モ善ク照輝シタ



ル壁上ニ於テ大約受檢者ノ眼ト同高ノ位置ニ掲ケ受檢者ヲシテ五米突ヲ距テテ之ニ對向セシメ  
交、左右ノ眼ニテ表中ノ細小ナル號ヨリ始メ其ノ三箇以上ノ視標ニ就キ形狀ヲ視別セシメ明視  
シ得タル最小ナル視標ニ附シアル數字ヲ以テ視力ト定ムヘシ但シ試視力表ハ他ノ受檢者ニ曝露  
セサルコトヲ要ス

視力ヲ壯丁名簿ニ記入スルニハ試視力表ノ視標ニ附シアル數字ヲ用井且左右ヲ區別スヘシ  
天候ノ爲場内ノ照光不充分ナルトキハ檢者ハ自己又ハ他ノ健康視力ト對比シテ受檢者ノ視力ヲ  
判定スヘシ

視力ニ障害アリテ視標〇七ヲ明視シ得サル者ハ一時検査ヲ中止シ更ニ検査ノ閑ナル時ニ之ヲ  
再檢シ要スルトキハ暗室検査ヲ施シ近視亂視角膜弱等視力障害ノ種類及其ノ程度ヲ定メ之ヲ壯  
丁名簿ニ記入スヘシ

辨色力ハ先ツ「スチルリング」氏表ヲ用井テ検査シ尙疑ハシキ場合ニハ更ニ「ナーゲル」氏表ヲ用井  
テ之ヲ檢シ異常アル者ハ其ノ種類程度ヲ定メ之ヲ壯丁名簿ニ記入スヘシ

視器ノ検査ハ通例視力検査ノ後之ヲ行ヒ眼瞼瞼裂並睫毛ノ状態涙器ノ健否結膜及其ノ穹窿部ノ  
狀況ヲ検査シ又左右ノ眼珠ヲ對比シテ眼珠ノ大小位置運動及内壓ヲ檢シ次テ角膜虹彩ノ狀況瞳  
孔ノ大小形狀開縮ノ狀況等ヲ検査スヘシ

第五條 聽能検査ハ受檢者ヲシテ檢者ヲ距ル約二米突ノ位置ニ於テ検査ヲ受クル耳ヲ檢者ニ向ケ  
兩眼ヲ閉チテ直立シ濕シタル指頭若ハ手掌ヲ以テ他側ノ耳ヲ閉塞セシメタル後檢者ハ外聽道軸  
延長線上ニ於テ耳語ヲ以テ受檢者ノ住所氏名年齢等ヲ問ヒ或ハ「十一」「九十九」ニ至ル數字及  
通俗語ヲ選ビ迅速ニ復唱セシメテ聽能ノ健否ヲ定メ聽能ニ障害アル者ハ一時検査ヲ中止シ更ニ  
検査ノ閑ナル時ニ之ヲ再檢シ其ノ原因程度ヲ定メ之ヲ壯丁名簿ニ記入スヘシ

聽器ノ検査ハ耳翼外聽道及鼓膜ノ状態ヲ檢シ要スルトキハ歐氏管ノ通否ヲ檢スヘシ

鼻腔口腔咽喉ノ検査ハ鼻ニ在リテハ其ノ形態鼻道通氣ノ良否鼻腔粘膜ノ性状及新生物ノ有無等  
ヲ檢シ要スルトキハ後鼻腔又ハ副鼻腔ノ検査ヲ施シ又口腔及咽喉ニ在リテハ口唇ノ健否ヲ檢シ  
タル後口腔ヲ開カシメ齒牙齒齦舌口蓋扁桃腺唾液腺及口粘膜一般ノ性状並咽喉ノ状態ヲ檢シ要  
スルトキハ喉頭ノ検査ヲ行フヘシ

第六條 言語精神ノ検査ハ特別ノ時間ト方法ヲ用井シテ他ノ検査ニ際シ受檢者ノ態度應答等ニ  
依リ判斷スヘシ  
吃者ヲ検査スルニハ通例五十音中發音ノ困難ナル「カ」「行」「サ」「行」「タ」「行」若ハ「バ」「バ」「行」ノ音ヲ以テ始  
マル所ノ通俗語ヲ選ビ之ヲ復唱セシメテ檢スヘシ

第七條 前條ノ検査終リタルトキハ體格一般ノ構造ヲ觀察スヘシ即受檢者ヲシテ衣服ヲ脱シ著褲  
ノ儘檢者ノ前方約二米突ヲ距テテ直立シ姿勢ヲ正シテ檢者ノ眼ニ注目セシメ頭顔面頸胸腹部及  
四肢ノ前面ヲ通視シタル後背面セシメ頭項背腰及四肢ノ後面ヲ通視シ兼テ既往及現在ニ於ケル  
疾患ノ有無ヲ問查スヘシ

第八條 關節運動ヲ検査スルニハ受檢者ヲシテ衣服ヲ脱シ著褲ノ儘檢者ノ前方約二米突ノ位置ニ  
在リテ姿勢ヲ正シ檢者ニ注目セシメ先ツ左右ノ上肢ヲ水平位ニ於テ手掌ヲ合シテ前方ニ伸底セ  
シメ其ノ長短及發育ノ状態ヲ檢シ續テ左右同時ニ手指關節腕關節肘關節及肩關節ニ於ケル屈伸  
内外轉及迴旋等ノ諸運動ヲ檢ス次テ兩手ハ拇指ヲ後ニ他ノ四指ヲ前ニ向ケテ腕骨上ニ安置セシ  
メタル後頸部ノ俯仰顧眙及側屈脊柱ノ反張前屈及左右屈ヲ檢シ其ノ検査ヲ終リタルトキハ同一  
ノ姿勢ニ於テ左右ノ下肢ニ付交互ニ膝關節ノ内外轉及迴旋足關節ノ屈伸内外轉趾關節ノ屈伸ヲ  
檢シ次ニ足膝及脛關節ヲ強屈シテ膝部ヲ正シテ踵上ニ置ク如ク踵踏セシムルコト一二回ニ及ビ  
兼テ趾尖ヲ以テ體重ヲ支ヘシメ支柱ノ力ヲ檢シ又ハ歩行ヲ試驗スヘシ

本條ノ検査ハ其ノ舉動ヲ示シ受檢者ヲシテ之ニ模倣セシムヘシ

第九條

- 各部検査ハ概左記各項ノ順序ニ依リ之ヲ行フヘシ
- 一 頭顔及顔面ニ於テハ先ツ大小形状或瘰癧ノ有無ヲ視察シ特ニ有髮部ハ注意シテ異常ノ隆起陷凹腫瘍等ナキヤヲ檢シ次ニ咀嚼運動ノ難易ヲ檢スヘシ
- 二 頸部ニ於テハ腫瘍瘰癧管瘻痕等ノ有無ヲ視且觸診シ兼テ頭部ノ位置正シキヤ否ニ注意スヘシ
- 三 胸部ニ於テハ胸廓ノ長短廣狹厚薄ヲ檢シ特ニ上口ノ狹窄ニ注意シ鎖骨胸骨肋骨及肋軟骨ノ狀態或畸形ノ有無ヲ檢シ次テ受檢者ヲシテ深呼吸ヲ爲サシメテ呼吸ノ難易胸廓運動ノ狀況ヲ視察シ又心臟ノ搏動ニ注意シタル後肺臟心臟ノ打診及聽診ヲ行フヘシ但シ徵兵検査ニ在リテハ必要ト認マル場合ノ外肺臟心臟ノ打診及聽診ヲ行ハサルコトヲ得
- 四 胸圍及呼吸縮張ノ差ヲ測ルニハ兩上肢ヲ開展セシメ尺帶ニテ後ハ兩肩胛骨ノ下部前ハ左右乳頭ノ直下ニ於テ水平ニ周匝シ次ニ兩上肢ヲ垂レテ自然ノ位置ニ在ラシメ尋常呼吸(此ノ際單筒ノ對話ヲ試ムルヲ可トス)ニ於テ胸圍ヲ測リ次テ深呼吸ヲ爲サシメテ縮張ノ差ヲ測ルヘシ其ノ度目ヲ讀ムニハ一側ノ乳頭下ニ於テス
- 五 胸圍身長ノ半ニ達シ呼吸縮張ノ差一寸五分以上ノ者ニ非サレハ甲種ト爲ササルヲ例トス但シ胸圍身長ノ半ニ達セサルモ胸廓ノ構造佳良ニシテ呼吸縮張ノ差大ナル者及將來發育ノ見込アル者ハ此ノ限ニ在ラス又胸廓構造一見佳良ナル者ハ胸圍及呼吸縮張ノ差ヲ測定セサルコトヲ得
- 六 腹部ニ於テハ腹壁ノ一處ヲ視察シタル後胃腸肝及脾部ヲ觸診シ又臍(ヘルニア)ノ疑アル者ハ努責セシメテ之ヲ檢スヘシ
- 七 脊柱及骨盤ニ於テハ其ノ方向位置ノ正否ヲ檢シ各椎骨腸骨腰骨尾骨等ニ異常ナキヤニ注意スヘシ
- 八 四肢ノ検査ハ上肢ニ在リテハ手背手掌指等ニ異常ナキヤニ注意シ次ニ兩臂ヲ舉ケテ腋臭ノ有無ヲ檢スヘシ又下肢ニ在リテハ下脚ノ靜脈ノ怒張足背及趾ノ異常ヲ檢シタル後足ヲ舉ケレメ足趾ヲ檢スヘシ
- 九 陰部及肛門ノ検査ハ受檢者ヲシテ褲ヲ脱セシメ兩脚ヲ開キ檢者ニ正面シテ立タシメ陰莖ニ於テハ變形疾病ノ有無或尿道口ノ位置形狀ヲ檢シ排尿ノ難易ヲ問ヒ殊ニ痲疾ヲ檢スルニハ手指ヲ尿道球部ニ送り尿道ニ沿フテ口部ニ押壓シ又陰莖ニ於テハ舉丸副舉丸ノ位置大小或存否等精系ニ於テハ靜脈怒張水腫等ノ有無ヲ檢スヘシ
- 十 鼠蹊(ヘルニア)ノ有無ヲ檢スルニハ中指ヲ精系ニ沿フテ腹輪ノ方向ニ送入シ其ノ擴張アリヤ否ヲ觸診シタル後受檢者ヲシテ努責セシムヘシ
- 十一 肛門ヲ檢スルニハ受檢者ノ體ヲ前屈シ臀部ヲ舉上セシメ檢者ハ兩手ヲ以テ肛門ヲ排開シ痔核痔瘻脫肛其ノ他肛圍ニ於ケル病變ノ有無ヲ檢シ殊ニ脫肛ノ検査ニハ努責セシムヘシ
- 十二 前各條ノ検査終リタルトキハ受檢者ヲシテ衣服ヲ著セシメ醫官ハ検査ノ全成績ヲ通覽綜合シテ其ノ體格等位ヲ定メ壯丁名簿ニ等位ノ印及自印ヲ押スヘシ
- 十三 醫官二人以上ニテ同一受檢者ノ検査ヲ分擔シタルトキハ毎分擔事項ニ自印ヲ押シ等位ノ判定ハ高級古參ノ者ニ於テスヘシ
- 十四 第十一條 第四條乃至第九條ノ検査ニ於テ醫官ハ検査スヘキ當該器臟ノ既往症ヲ問查スヘシ例ハハ關節運動ノ検査ニハ骨折脱臼又ハ關節ノ疾患ニ罹リシコトアリヤ否視器又ハ聽器ノ検査ニハ眼病又ハ耳漏ニ罹リシコトアリヤ否各部殊ニ呼吸器ノ検査ニハ肺結核ニ於ケル血痰關係ノ有無若ハ胸膜炎ニ罹リシコトアリヤ否陰部ノ検査ニハ花柳病肛門ノ検査ニハ脫肛ノ既往症ヲ問查スル如シ
- 第十五 第十二條 壯丁名簿ハ成ルヘク記註ヲ簡ニシ些細ノ異常ハ其ノ記註ヲ要セスト雖甲種ニ定メタル者及身長不足ノ故ノミヲ以テ丙種丁種ト爲ス者ノ外ハ其ノ體格等位ヲ定メタル疾病變常ヲ記入

第十三條 身體變常ノ爲第一乙種第二乙種丙種及丁種ト爲スヘキ標準ハ概附録ニ依ル但シ徵兵及志願兵ノ検査ニ於テハ附録第一乙種ノ欄ニ掲ケタル疾病變常ヲ有スル者ト雖共ノ症狀輕易ニシテ體格強健ナル者ハ之ヲ甲種ト爲シ又輸卒縫工卒靴工卒ニ選定スヘキ見込ノ者ハ附録丙種ノ欄ニ該當スル者ト雖共ノ括弧内ノ事項ニ該當スル者ニ限リ體格強健ノ者ハ之ヲ第一乙種又ハ第二乙種ト爲スコトヲ得

第十四條 一年志願兵主計候補生見習醫官見習藥劑官見習獸醫官及衛生部獸醫部依託學生同依託生徒志願者ノ検査ニ於テハ其ノ勤務上支障ナキ限リ體格ノ制限ヲ寬ニスルコトヲ得

第十五條 身長不足ノ故ヲ以テ甲種第一乙種及第二乙種ト爲スヘカラサル者ハ特ニ規定アルモノヲ除クノ外視力其ノ他ノ検査ヲ省略シ單ニ一般構造ノ検査ヲ行ヒ體格等位ヲ決定スルコトヲ得

第二條第二號乃至第七號ノ検査中丁種(士官候補生諸生徒其他ノ陸軍志願者ニ在リテハ丙種)ダレヘキ事項ヲ發見シタルトキハ爾餘ノ検査ヲ省略スルコトヲ得

第十六條 身體變常ノ各箇ハ不合格ト爲スニ足ラサルモ之ヲ綜合スルトキハ合格ト爲スヘカラサル者ハ不合格トス

第十七條 徵兵及志願兵ノ検査ニ於テ左ノ各號ニ該ル者ハ合格トシ壯丁名簿ニ共ノ意見ヲ記入ス

- 一 受檢者曾テ不合格タリシモ現時合格ト認ムル者
- 二 現ニ傷痰疾病ニ罹ルモ其ノ症狀輕ク適當ノ治療ニ依リ治癒スヘキ者
- 三 近視弱視重聽等ニシテ詐偽ノ疑アル者
- 四 癲癩夜盲其ノ他ノ身體變常ヲ訴フルモ其ノ徵候確實ナラス又ハ其ノ實否ヲ判定スルニ繁雜ニシテ長時間ヲ要スル者

第十八條 検査場ハ靜肅且照明充分ニシテ暗室ヲ準備シ得ヘキ所ヲ選定スヘシ

第十九條 検査醫官ハ學術ニ基キテ検査シ必ス自己ノ判断ニ依リ體格等位ヲ決定スヘシ

第二十條 検査醫官ハ受檢者ニ接スルコト溫和ニシテ苛モ之ヲ威嚇シ又ハ無用ナル検査ヲ行フコトヲ得ス

第二十一條 検査醫官ハ受檢者ノ身體變常ニ關シテハ職務上必要ノ場合ニ非サレハ之ヲ他人ニ漏告スヘカラス

第二章 徵兵及志願兵検査

第二十二條 壯丁一日ノ検査人員ハ醫官三人ニ付概百七十人以上百九十八人以下醫官一人ニ付概百三十八人以上百五十八人以下トス

第二十三條 身長及體重ハ聯隊區又ハ警備隊區徵兵署ニ在リテハ事務員其ノ他ニ在リテハ下士ヲシテ測定セシムヘシ

但シ體重ハ必要ヲ認メサル場合又ハ止ムヲ得サル場合ニ限リ之ヲ測定セサルコトヲ得

第二十四條 病中又ハ畸形ニシテ測尺スヘカラサル者ハ壯丁名簿ニ共ノ事由ヲ記入シ又身長四尺

五寸未滿ノ者ハ四尺五寸未滿ト記入スヘシ

第二十五條 身長四尺八寸未滿ニシテ著キ疾病變常ナント認ムル者ハ他ノ検査ヲ行ハスシテ等位ヲ附スルコトヲ得

身長四尺八寸以上五尺未滿ノ者ハ先ツ體格一般ノ景況ヲ觀察シ且適宜要點ノミヲ檢シテ等位ヲ附スルモ妨ナシ

第二十六條 各眼ノ裸眼視力〇・七ニ滿タサル者ハ甲種ト爲スコトヲ得ス右眼〇・七以上ニシテ左眼ノ視力減弱スルモ〇・四以上ノ者ハ第一乙種〇・二以上ノ者ハ第二乙種ト爲スコトヲ得但シ一年志願兵六週間現役兵輸卒縫工卒及靴工卒ニ在リテハ兩眼ノ近視ニシテ其ノ度五デオプト

リ一ニ達セズ且矯正視力〇・七以上ノ者ハ乙種ト爲スコトヲ得  
 辨色力ノ検査ハ身長五尺以上ノ壯丁ニ對シテ之ヲ行フヘシ  
 第二十七條 醫師ノ診断證書ニ依リ戊種ト爲シタル者アルトキハ該壯丁名簿摘要欄ニ其ノ事由ヲ  
 記入スヘシ

第二十八條 徵集延期中ノ者ニ係ル壯丁名簿ニハ前年ニ異ナル要點ノミヲ記入スヘシ  
 第二十九條 壯丁中故意ニ身體ヲ毀傷シ若ハ疾病ヲ作爲シ其ノ他詐偽ノ所爲ヲ用井メリト認メ  
 ル者アルトキハ學理上確實ナル證據ニ基キ鑑定書ヲ製シテ徵兵官ニ出スヘシ

第三章 士官候補生諸生徒其ノ他陸軍志願者検査

第三十條 志願者一日ノ検査人員ハ醫官一人ニ付概五十八トス

第三十一條 身長ハ下士ヲシテ測定セシムルコトヲ得

第三十二條 近視ノ者又ハ辨色不全ノ者ハ合格ト爲スコトヲ得ス但シ主計候補生見習醫官見習藥  
 劑官見習獸醫官衛生部及獸醫部依託學生同依託生徒志願者ニ在リテハ近視ニ限リ其ノ度五デオ  
 フトリ一ニ達セズ且矯正視力〇・七以上ノ者ハ合格ト爲スコトヲ得

第三十三條 體格検査表ハ様式ニ從ヒ之ヲ要スル部隊ニ於テ調製シ検査終了後順序ヲ經テ各志願  
 者ノ屬スル部隊ニ送付スヘシ

(様式)

(用紙製濃紙半葉)

何府縣郡市町村族籍職業何某何男(兄弟戸主等)

格	體	年	氏
身長	等位	齡	名
尺			

検査表		検査場	検査官	官	氏	名	印
明	地						
年	(某)	日					
月	地)						
日	検査						
時	場						
分	検査						
種	官						
別	氏						
種	名						
別	印						

附錄  
 徵兵検査ニ於テハ概左ノ疾病變常ニ依リ第一乙種第二乙種丙種及丁種ヲ決定ス  
 志願兵並士官候補生諸生徒其ノ他陸軍志願者ノ検査ニ於テハ丙種丁種ヲ併セテ丙種トス

全	身	種
一	全身發育不全	種
二	全身畸形	種
三	筋骨甚ク薄弱ナルモノ	種
四	脂肪過多ニシテ歩行ニ妨ア 難ク作フモノ	種
五	惡性腫瘍	種
六	急治スヘカラサル軟部ノ大 ナル炎症潰瘍等	種
七	手術スヘカラサル大ナル慢性 腫瘍ニシテ動作ヲ妨クルモノ 不活ノ骨質腫瘍節節性炎及 其ノ腫瘍病	種
八	癩癧癰毒ナキ輕中骨贅生	種

部		各		及	
九	癩癩母斑等ノ著キ變形ヲ呈セス且動作ニ妨ナキモノ	癩癩母斑等ノ著キ變形ヲ呈ナク醜形甚シカラサルモノ	癩癩母斑等ノ醜形甚シキモノ	運動ニ妨アル大ナル癩癩	
一〇			痲痺	痲痺	
一一			慢性關節レウマチス	慢性關節レウマチス	
一二				慢性腸骨痲痺	
一三				不治ノ慢性神經病	
一四				痲痺	
一五				不治ノ癩癩失常(癩癩病白血病尿崩症性貧血等)	
一六				癩癩癩癩了ル癩癩皮膚	
一七				類	
一八				類	
一九				類	
二〇	著キ癩癩			類	
二一	著キ頭蓋ノ變形	大ナル癩癩著キ頭蓋ノ變形甚シカラサル頭蓋變形	著キ頭蓋ノ變形、全癩癩		
二二	著キ眼瞼下垂症	斜視ニシテ一眼直視スルトキ他眼ノ角膜縁内管者ハ外管ニ接スルモノ	眼瞼内外反、著キ睫毛亂生、眼瞼癩癩、涙液癩癩	兩眼ノ用ヲ妨クル不治ノ眼筋痲痺	
二三	視力ニ妨ナキ交換性斜視及潜伏斜視	組織ノ變化極々中等度ノ「トラホーム」	癩癩症ヲ有スル重症「トラホーム」	「トラホーム」癩癩症ノタメ視力障礙ヲ呈シ其キ方ノ視力〇・三ニ滿タサルモノ	
二四	組織ノ變化極々中等度ノ「トラホーム」	組織ノ變化比較的著キ中等度ノ「トラホーム」			

部		各		及	
二五	角膜癩癩ニテ左眼ノ視力〇・四以上ノモノ	角膜癩癩ニテ左眼ノ視力〇・二以上ノモノ	角膜癩癩ニテ兩眼ノ視力減シ其キ方ノ視力〇・三ニ滿タサルモノ	角膜癩癩ニテ兩眼ノ視力減シ其キ方ノ視力〇・三ニ滿タサルモノ	
二六	左眼近視ニシテ視力〇・四以上ノモノ	左眼近視ニシテ視力〇・三以上ノモノ	兩眼近視ニシテ矯正視力ハ其キ方ノ視力〇・三ニ滿タサルモノ	兩眼近視ニシテ矯正視力ハ其キ方ノ視力〇・三ニ滿タサルモノ	
二七	左眼亂視又ハ遠視ニシテ視力〇・四以上ノモノ	左眼亂視又ハ遠視ニシテ視力〇・三以上ノモノ	兩眼亂視又ハ遠視ニシテ其キ方ノ視力〇・三ニ滿タサルモノ	兩眼亂視又ハ遠視ニシテ其キ方ノ視力〇・三ニ滿タサルモノ	
二八	其ノ他ノ眼病ニヨル左眼ノ視力障礙アルモノ視力〇・四以上ノモノ	其ノ他ノ眼病ニヨル左眼ノ視力障礙アルモノ視力〇・三以上ノモノ	其ノ他ノ眼病ニシテ兩眼ノ視力障礙アルモノ其キ方ノ視力〇・三ニ滿タサルモノ	其ノ他ノ眼病ニシテ兩眼ノ視力障礙アルモノ其キ方ノ視力〇・三ニ滿タサルモノ	
二九			一眼盲	一眼盲	
三〇	偏耳程度ノ難聴	對話ニ妨ナキ兩耳ノ難聴	兩耳ノ難聴(片耳聾)	兩耳ノ難聴	
三一	耳殼一部ノ缺損形	耳殼大部ノ缺損	耳殼大部ノ缺損	耳殼大部ノ缺損	
三二	外耳慢性病又ハ一耳ノ鼓膜穿孔ニシテ聽力ニ妨ナキモノ	兩耳ノ鼓膜穿孔ニシテ聽力ニ妨ナキモノ	中耳ノ慢性病、新生物若ハ鼓膜穿孔ニシテ機能障礙アルモノ	中耳ノ慢性病、新生物若ハ鼓膜穿孔ニシテ機能障礙アルモノ	
三三	輕キ鼻癩又ハ副鼻腔病	鼻ノ畸形ニシテ機能障礙甚シキモノ	(鼻腔副鼻腔ノ慢性病)	鼻ノ缺損	
三四	輕キ吃	(吃)		呼吸困難ノ慢性病ニシテ呼吸困難ヲ妨クルモノ	
三五				呼吸困難	
三六				癩癩	
三七	手術ニヨリ治癒シタル癩癩	(癩癩癩癩者缺損若ハ癩癩)	癩癩癩癩者缺損若ハ癩癩	癩癩癩癩者缺損若ハ癩癩	
三八	癩癩癩癩者缺損若ハ癩癩	癩癩癩癩者缺損若ハ癩癩	癩癩癩癩者缺損若ハ癩癩	癩癩癩癩者缺損若ハ癩癩	

頸部	頭部	胸部	腹部	腰部	四肢	五	五〇	五二	五三	五四
三九	四〇	四一	四二	四三	四四	四五	四六	四七	四八	四九
	輕中斜頸	胸廓變形ニシテ呼吸ニ妨ナキモノ								
		喉頭氣管支慢性病								
		骨柱側彎又ハ前後彎等若キモノ運動ニ妨ナキモノ								
		胸廓變形ニシテ呼吸ニ妨ナキモノ								
		肺、胸膜慢性病ニシテ一般營養狀態ニ妨タルモノ								
		心、心筋又ハ大血管ノ疾病ニツテ一般營養狀態ニ妨タルモノ								
		輕中「ヘルニア」								
		慢性腹内臟器病ニシテ一般營養狀態ニ妨タルモノ								
		脱肛、痔瘻又ハ重中痔核								
		瘰癧、副乳慢性病又ハ瘰癧丸腹内ニ在リテ疼痛ヲ發スルモノ								
		水腫								
		輕中關節慢性病、強剛及畸形								
		重中下腿ノ輕屈強硬								
		骨幹部ノ彎曲、膝曲、膝屈若キ障礙ナキモノ								
		中指、環指若ハ小指ノ缺損強剛又ハ示指、環指末節ノ強剛								
		重中「ヘルニア」								
		慢性腹内臟器病ニシテ一般營養狀態ニ妨タルモノ								
		重中脱肛、痔瘻又ハ肛門ノ畸形								
		重中尿道ノ畸形、中陰陽尿管								
		兩睾丸ノ缺損								
		重中關節慢性病、強剛畸形及關節脫臼								
		骨幹部ノ彎曲、膝曲、膝屈若ハ關節病ニシテ大ニ其ノ用ヲ妨タルモノ								
		中指、環指、小指ヲ除キ一指以上ノ缺損強剛者ハ二指以上ノ缺損強剛								

肢					
五五	五六	五七	五八	五九	六〇

○海軍省達第九號  
海軍用火藥火工品貯藏及取扱規則中左ノ通改正ス

第七條中「武庫主管」ヲ「兵器庫主管」ニ改ム  
第三十三條中「武庫主管及砲術長水雷長」ヲ「兵器庫主管及航海長砲術長水雷長」ニ改ム  
明治四十三年二月一日  
海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第十號  
海軍工機學校規則第十三條第三項但書中及第三十條中「五等卒教育規則第八條」ヲ「五等卒教育規則第十條」ニ改ム  
明治四十三年二月一日  
海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第十一號  
海軍砲隊操式ヲ別冊ノ通改ム  
別冊ハ海軍教育本部ヲシテ之ヲ要スル向ニ配附セシム  
明治四十三年二月十日  
海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第十二號

海軍無線電報取扱規約附表第一遞信省船舶局名略符號中日本郵船ノ欄阿波丸ノ次ニ左ノ通追加ス

明治四十三年二月十五日

海軍大臣 男爵齋藤實

Y I B

因幡丸

○海軍省達第十三號

海軍陸戰要務教範中左ノ通改正ス

明治四十三年二月二十一日

海軍大臣 男爵齋藤實

總則中第二海軍野砲隊操式ヲ海軍砲隊操式ト改メ海軍機砲隊操式ヲ削ル

○海軍省達第十四號

海軍經理部處務規程中左ノ通改正ス

明治四十三年二月二十八日

海軍大臣 男爵齋藤實

第七條第一號中ノ購買ノ上ニ港灣防禦用品及艦船緊留用品ヲ加フ

○陸達第六號

衛生材料取扱規則中左ノ通改正ス

明治四十三年三月九日

陸軍大臣 子爵寺内正毅

第九條中「病院ヨリ軍隊官衛學校ノ下ニ又ハ演習場ヲ軍隊官衛學校ノ長ノ下ニ又ハ演習場管理委員長ヲ部下ノ責任アル者ノ下ニハ演習場ニ在リテヲ加フ」ヲ加フ

第十六條中第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

演習場富士野三瓶山田野野原伊豫大野衛生材料中器械ハ第一表ニ依リ備附ケ藥物ハ陸軍藥局方以内ノモノノ消耗品ハ第四表乙以内ノモノニ付其ノ保續ヲ指定サレタル衛戍病院所管ノ

軍醫部長ニ於テ必要ト認メタル品目ニ限リ備附ケルモノトス

第二十二條中「軍隊官衛學校ノ下ニ又ハ演習場ヲ加ヘ最寄衛戍病院ノ割註ヲ」東京ニ在リテハ忠

第一表備考中ニ左ノ一號ヲ加フ

- 一四 演習場ニハ本表步兵聯隊醫療器械胃洗器 浴槽 痰盆 縫線 用滅菌器 血球計 血液法器械 軍醫携
- 下注射器 調劑器械 小秤 ヲ定數ノ外刷毛容器 驅血帶各一箇 麻藥藥用器 外科器械一號 各一
- 具 顎副木一箇 上肢副木一組 ゴムカテーテル 金屬カテーテル 各一具 ギブス鉄 ギブス刀 各一
- 箇 綿紗針子二箇 食鹽水注射器一具 シュライヒ注射器一箇 氷枕二箇 水滅菌器一具 壓舌子二
- 箇 野戰滅菌器 野戰手術器各一具ヲ備フ

附表第六號ノ二中一六六ノ「迴轉穿顱針」ヲ「迴轉柄子」ニ同表備考中ノ「ゴム手套」ヲ「ゴム指套」ニ改ム

附表第十號中二三ノ截腕刀ノ員數「一」ヲ「二」ニ「三」ニ「五」ノ鼻咽喉消息子ノ員數「一〇」ヲ「一」ニ改ム  
 附表第十一號ノ一中二三ノ喉頭鉗子ノ員數「三」ヲ「一」ニ改ム  
 附表第二十一號中西洋床ノ下「盛附」ヲ削ル

〔參照〕

陸軍第五十六號衛生材料取扱規則(明治四十二年十二月十三日)抄録  
 第九條 常用衛生材料中衛戍病院、關東若ハ韓國駐留陸軍倉庫ニ屬スルモノハ衛戍病院長、關東若ハ韓國駐留陸軍倉庫長之  
 ノ管理シ病院又ハ倉庫附屬官ニ由リテ管理セシメ病院ヨリ軍隊官衛學校ニ配附シタルモノハ軍隊官  
 衛學校ノ長部下ノ責任アル者ヲシテ之ヲ監守セシム  
 第二十二條 軍隊官衛學校ニ要スル常用衛生材料ハ所在地若ハ最寄衛戍病院、關東若ハ韓國駐留陸軍倉庫ヨリ配附支給シ衛  
 戍病院ニ要スルモノハ病院自ラ之ヲ支給シ又ハ陸軍衛生材料廠關東若ハ韓國駐留陸軍倉庫ヨリ其ノ支給ヲ受ク

○陸軍第七號

陸軍將校乘馬令施行規則中左ノ通改正シ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十三年三月十一日

陸軍大臣 子爵寺内正毅

第十九條中「五箇年」ヲ「六箇年」ニ改ム

第二十三條中「五分」ノ「一」ヲ「六分」ノ「一」ニ改ム

〔參照〕

陸軍第二十一號陸軍將校乘馬令施行規則(明治四十年三月三十日)抄録  
 第十九條 乘馬ノ保護期間ハ最初貸與ノ月ヨリ起算シ滿五箇年トス但シ必要ニ應シ滿三年以上保護シ得ル乘馬ヲ貸與ス  
 ルコトヲ得  
 第二十三條 第二條第二號部隊ノ貸與馬ハ其ノ定數ノ約五分ノ一ヲ標準トシ當該部隊ノ補充品定數ニ合算シテ之ヲ補充ス  
 但シ騎兵、野砲兵及重砲兵旅團司令部貸與馬ノ補充馬ハ之ヲ緊需スル部隊ノ補充品定數中ニ合算スルモノトス

○陸軍第八號

明治四十三年陸軍第三號中高原支部ヲ高鍋支部ニ改ム

明治四十三年三月十二日

陸軍大臣 子爵寺内正毅

〔參照〕

明治四十三年二月陸軍第三號八軍馬補充部支部同派部及出張所ノ名稱及位置改正ナリ

○陸軍第九號

簡閱點呼執行規則左ノ通定ム

明治四十三年三月二十三日

陸軍大臣 子爵寺内正毅

簡閱點呼執行規則

- 第一條 簡閱點呼ハ師團ニ於テ各聯隊區ヲ數區ニ分チ施行スルモノトス
- 第二條 一點呼場一日ノ點呼人員ハ概ネ三百人ヲ標準トス
- 第三條 師團長ハ豫メ聯隊區毎ニ分チタル簡閱點呼執行官ノ官氏名、點呼場ノ位置、點呼月日並毎  
日ノ點呼豫定人員表ヲ陸軍大臣ニ差出スヘシ
- 第四條 點呼執行官ハ聯隊區毎ニ成ルヘク當該聯隊區司令官、步兵聯隊ノ佐官ヲ以テ之ニ充ツヘ  
シ但シ已ムヲ得サル場合ニハ適任ナル他ノ佐官若ハ大尉ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得
- 第五條 師團長ハ點呼執行上必要ト認ムル事項ヲ點呼執行官ニ指示スヘシ
- 第六條 聯隊區司令官ハ點呼執行上希望スル事項アルトキハ豫メ師團長ニ具申スヘシ
- 第六條 師團長ハ點呼執行ノ時機ヲ利用シ點呼執行官ヲシテ必要ノ調査等ヲ爲サシムルコトヲ得  
前項ノ調査事項等ハ簡閱點呼本來ノ目的ヲ妨クルコトナク之カ爲ニ使用シ得ル時間ヲ願慮シテ



之ヲ定ムヘシ

第七條 聯隊區司令官ハ點呼場取締ノ爲豫メ憲兵警察官吏ノ出張ヲ請求シ置クヘシ

第八條 師團長ハ前條ニ關シ必要ヲ認ムルトキハ陸軍召集條例第三條ニ依リ之ヲ規定スヘシ

第九條 聯隊區司令官ハ豫メ各參會者ニ訓諭シ勅諭奉讀等ニ際シ不敬ニ沙ルコトナク且勉メテ嚴正ノ態度ヲ取ラシムル爲成ルヘク軍服又ハ羽織袴ヲ着用セシムヘシ但シ參會者ヲシテ質素ヲ守ラシムヘク且其ノ服裝ノ爲點呼ヲ受クル能ハサルカ又ハ之ヲ受クルコトヲ嫌ハシムル等ノコトナキ如ク注意スヘシ

第十條 聯隊區司令官點呼場ヲ定ムルニハ豫メ郡市區長ト協議シ學校寺院其ノ他廣キ場所ニシテ最モ嚴整ニ執行シ得ヘキ位置ニ之ヲ定ムヘシ又其ノ設備ニ付遺漏アルヘカラス學校内ニ於ケル體操場ノ如キハ多クハ其ノ要求ニ合スルモノトス

第十一條 點呼執行官ハ成ルヘク點呼ノ前日點呼場ニ到リ豫メ現場ノ設備ヲ檢查シ要スレハ修正又ハ増設等ノ手續ヲ爲シ點呼ニ差支ヲ生セシメサルコトニ注意スヘシ其ノ設備ノ要件概ネ左ノ如シ

- 一 集會所、整列場ノ位置
  - 二 事務取扱者ノ位置及器具
  - 三 點呼執行官ノ位置
  - 四 郡市區町村長ノ位置
  - 五 憲兵警察官ノ取締ニ關スル件
  - 六 雨天ニ際シ取ルヘキ方法
- 第十二條 點呼場ニハ某聯隊區簡閱點呼場ナル布製ノ標札ヲ掲クヘシ

第十三條 點呼執行官ハ點呼執行中參會者ノ中ヨリ所要ノ人員ヲ選ヒ之ニ助手ヲ命シ軍隊手牒ノ記入其ノ他集會所整列場等ニ於ケル監視ヲ爲サシメ又看護長看護卒等ニ命シテ不時ノ救急ニ從事セシムヘシ

第十四條 簡閱點呼執行ノ順序概ネ左ノ如シ

- 一 點呼執行官ハ附屬下士ヲシテ規定ノ點呼開始時刻前ヨリ地方吏員ト共ニ點呼場ノ整理ニ任シ、市區町村長ヨリ提出スル召集條例施行細則第八十九條ノ屆書ヲ點檢セシム
- 二 點呼執行官ハ市區町村吏員ヲシテ受付ニ於テ參會者ヨリ令狀ヲ受領セシメ市區町村長ヲシテ參會者ヲ當該市區町村毎ニ其ノ集會所ニ集メ木人ト在郷軍人名簿トヲ對照シ不參者ノ有無又ハ代人ヲ以テ參會セシムル者ノ有無等ヲ調査セシム
- 三 點呼執行官ハ規定ノ點呼開始時刻ニ至ラハ概ネ附圖ノ如ク人員ヲ整列セシメ點呼開始ノ旨ヲ宣告シ且必要ノ注意ヲ與フ
- 四 點呼執行官ハ附屬下士ヲシテ點呼名簿ニ依リ其ノ役種官等級氏名ヲ呼ハシム  
參會者ハ附屬下士ノ點呼ニ應シ集會所ヨリ一人宛出テ驗歩ニテ點呼執行官ノ面前ニ到リ停止敬禮シ自己ノ役種官等級氏名ヲ唱ヘ更ニ敬禮ヲ爲シ右(左)ニ向キ助手ノ許ニ到リ軍隊手牒ヲ差出シ第二整列場ニ到ル此ノ間點呼執行官ハ各人ニ付敬禮服裝姿勢態度及體力等ヲ細ニ觀察シ其ノ不可ナル者ニ對シテハ直ニ訓誨矯正ヲ加ヘ要スレハ在郷間ノ狀態ヲ取糺スヘシ若シ附屬下士ノ唱ヘタル役種官等級氏名ト木人ノ唱フルモノト相違アルトキハ軍隊手牒點呼名簿等ニ依リ調査シ木人ノ誤ナルトキハ之ニ注意ヲ與ヘ名簿ノ誤若ハ疑ハシキモノト

- 五 點呼執行官ハ助手ヲシテ參會者ヨリ受領シタル軍隊手牒ノ履歷欄ニ左ノ記入ヲ爲シ且分配ニ便利ナル如ク整理セシムヘシ
  - 六 勅諭奉讀 此ノ間不勅諭ヲ要ス
  - 七 試問及訓示 試問ハ試問ハ休メノ姿勢ニ在ラシムヘシ但シ試問ニ答フル者ハ必ス不勅諭ノ姿勢ヲ取ラシムルモトス
  - 八 地方吏員又ハ參列將校ニシテ點呼參會者ニ對シ希望ヲ述ヘ又ハ注意ヲ與フルノ希望ヲ有スル者アルトキハ其ノ要點ヲ聞キ取り有益ナリト認メタル場合ニハ時機ノ許ス限リ是等參列者ニ口演ノ便宜ヲ與フヘシ
  - 九 點呼執行官ハ助手ヲシテ軍隊手牒ヲ各人ニ分配セシメタル後自ラ其ノ軍隊手牒ニ記入シタル事項ヲ言ヒ聽カセ之ヲ披見セシム
  - 十 點呼執行官ハ勅諭奉讀訓示試問等ヲ爲ス間ニ附屬下士ヲシテ市區町村ノ在郷軍人名簿ト點呼名簿トヲ對照シ其ノ整否等ヲ點檢セシム
  - 十一 點呼執行官ハ點呼終了ヲ宣告シ解散ヲ命シ然ル後必要ト認ムルトキハ地方吏員ニ意見ヲ陳述スヘシ
- 第十五條 點呼執行官ハ點呼執行上概ネ左ノ諸件ニ注意スヘシ
- 一 軍紀及服從ノ程度ヲ觀察シ軍人精神ヲ保持セシムルコト
  - 二 健康保持ノ程度ヲ觀察シ體力養成ニ力ヲ盡サシムルコト
  - 三 軍事教育保持ノ程度ヲ觀察シ必要ノ諸件ヲ教示スルコト
  - 四 勳章ヲ拜受シタル者ハ其ノ名譽ニ鑑ミ操行ヲ慎ミ之ヲ視奪セラルル如キコトナキ操心掛ケシムルコト

- 五 在郷軍人心得知得ノ程度ヲ觀察シ誤解脫漏ナカラシムルコト
- 六 服裝ニ注意シ其ノ不謹慎ナル者ニハ精神的訓戒ヲ與フルコト
- 七 短少時間ノ過刻ト雖之ヲ看過スルコトナク嚴ニ注意訓誨ヲ與フルコト
- 八 身上異動取扱ノ確否ニ注意スルコト
- 九 學科等ノ試問ヲ爲スニハ參會者一同ニ對シ先ツ問題ヲ與ヘ次ニ指名シテ答ヘシムルコト
- 十 豫メ參會者中ニ就キ在郷問衆人ノ模範ト爲リ又ハ之ニ反スル者ヲ調査シ之ヲ參會者一同ニ紹介シ賞罰又ハ訓戒ヲ與ヘ其ノ他總テ訓諭矯正ヲ要スルカ如キ事實ヲ發見シタルトキハ機ヲ逸セス直ニ指摘シテ矯正ヲ加ヘ其ノ效果ヲ大ナラシムルコト
- 十一 適宜ニ休憩ヲ與ヘ倦怠ノ念ヲ起サシメサルコト
- 十二 場内ノ靜肅ヲ維持シ諸動作ヲ嚴格ナラシムルコト之カ爲ニハ點呼開始前嚴格ナル注意ヲ與ヘ以テ軍隊生活ノ感情ヲ喚起セシムルヲ最モ必要トス
- 十三 點呼場ニハ無用ノ人民ヲ立入ラシメサルコト
- 十四 點呼場往復途上ニ於テモ在郷軍人ノ觀察ヲ怠ラサルコト
- 十五 軍隊教育上參考トスヘキ諸件ヲ觀察スルコト
- 十六 地方吏員ノ兵事執務ノ状態ニ注意スルコト
- 第十七條 遲刻者ニシテ勅諭奉讀後參會シタル者ニハ更ニ令狀ヲ交付シ他ノ點呼場ニ參會セシムヘシ
- 第十八條 點呼執行官ハ正當ノ事由ナク簡閱點呼ニ參會セサル者アルトキハ速ニ告發ノ手續ヲ爲シ其ノ役種官等級氏名及事由ヲ聯隊區司令官ニ通報スヘシ又疾病若ハ事故ニ由ル不參者ト雖其ノ事由疑ハシキモノハ憲兵又ハ警察官吏ニ事實ノ調査ヲ依托スヘシ
- 第十九條 點呼執行官ハ概ネ左ノ事項ヲ包含スル簡閱點呼履歷報告及第一様式第二様式ニ依ル簡閱點呼結果表各二通ヲ製シ點呼終了後十五日以内ニ師團長ニ差出スヘシ





備考	計	府		縣		區		分		令狀ヲ交付シタル人員		令狀ヲ交付シ得サル人員	
		府員	令狀ヲ交付シタル人員	縣員	令狀ヲ交付シタル人員	區員	令狀ヲ交付シタル人員	分員	令狀ヲ交付シタル人員	令狀ヲ交付シタル人員	令狀ヲ交付シ得サル人員	令狀ヲ交付シタル人員	令狀ヲ交付シ得サル人員
一、他師管ニ本籍ヲ有スル者ニシテ寄留地師管ニ於テ點呼ヲ受クヘキ者ハ寄留地師管ニ於テ別ニ開													
フ設ケテ其ノ本籍府縣ヲ明ニスヘシ													

○陸軍第十號

陸軍給與令細則中左ノ通改正ス

明治四十三年三月二十八日

陸軍大臣 子爵寺内正毅

第六條 聯隊長及獨立隊長ノ職ニ在ル佐官ニ給スル加給俸ハ附表ノ二ニ依ル  
 准士官特別俸ヲ給スルハ特務曹長及上等工長下士特別給ヲ給スルハ營外居住ノ一等蹄鐵工長ニ限ル

第七條中職務俸特別俸其他ヲ削ル  
 第十條第二項中「外宿加俸」ヲ營外居住ノ給料ニ改メ但書ヲ削ル  
 第二十四條第一項第一號中「職務俸ノ三分ノ二」ヲ俸給ノ三分ノ一ニ改メ第二號中割註ヲ「外國語學獎」ルモノ及陸軍軍人休暇規則第十條ニ職務俸ノ全額ヲ俸給ノ半額ニ改メ第三號中「半額」ノ上ニ俸給ノヲ加フ  
 第二十九條第二項中「職務俸其ノ他總テノ加給俸」ヲ本俸ハ半額ヲ減シ總テノ加給俸ハ其ニ改ム  
 第四十一條第二項割註中「下志津」ヲ由良ニ改ム  
 本細則中「休職」ヲ「待命、休職」ニ改ム

附則

本改正ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本改正施行ノ際現ニ本細則第二十九條第二項ニ當ル者ハ従前ノ規定ニ依ル

附表ノ二 隊長加俸

區	分	月	額
步兵聯隊長、鐵道聯隊長		二	十圓
騎兵、砲兵聯隊長及獨立セル軍隊長		十	五圓

○陸軍第十一號

臺灣島及澎湖島駐節陸軍部隊給與規則細則中左ノ通改正ス

明治四十三年三月二十八日

陸軍大臣 子爵寺内正毅

第二十一條中「休職」ヲ「待命、休職」ニ改ム

附則

本改正ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○陸軍第十二號

滿洲韓國駐劄陸軍部隊給與令細則中左ノ通改正ス

明治四十三年三月二十八日

第九條中ノ現役俸ニ職務俸若ハ特別俸ヲ第一表ノ俸給陸軍大臣 子爵寺内正毅長加給ヲ除クニ改メ第五表ヲ削ル

附則

本改正ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○陸軍第十三號

清國駐劄陸軍部隊給與令細則中左ノ通改正ス

明治四十三年三月二十八日

第二條中「諸加俸」ヲ「給料」ニ改ム

附則

本改正ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○陸軍第十四號

明治三十七年陸軍第二十八號別表中左ノ通改正シ明治四十三年度ヨリ之ヲ施行ス

明治四十三年三月二十九日

陸軍大臣 子爵寺内正毅

仕拂命令官歳入徴收官ノ區別臺灣陸軍經理部長ヲ臺灣總督府陸軍經理部長ニ改ム  
第一師團經理部長ノ項所管區分ノ欄中「及陸軍」般ニ係ル罷役恤金 退官賜金 死亡賜金 死傷手  
當看守給助ヲ削ル

備考中第四號ヲ左ノ如ク改メ第五號及第六號ヲ削ル

四 經常歳出諸支出金ノ仕拂命令官ハ陸軍經理部所管區分毎ニ當該經理部長、滿韓駐劄師團經理部殘留主計正トス

○海軍省達第十五號

艦隊教育規則第七十六條ニ依ル教育月報様式中左ノ通改ム

但シ教育月報用紙ノ印刷シアル分ハ訂正シテ使用スヘシ

明治四十三年三月一日

海軍大臣 男爵齋藤實

教育月報様式第一及第二中「射撃發射遊轉應用教練演習等」項目ノ欄内「高力遊轉」以下ヲ左ノ如ク改ム

教練遊轉
檢定汽艇
戰術遊轉
應用教練
定期演習
小演習
大演習

同様式第三中「射撃發射應用教練演習等」ノ項目欄内「四季演習」ヲ「定期演習」ト改ム

○海軍省達第十六號

兵器造修試驗檢査規則中左ノ通改正ス

明治四十三年三月十一日

海軍大臣 男爵齋藤實

第八條 海軍工廠長若ハ海軍造兵廠長ハ所屬長官ノ認可ヲ經テ兵器ノ製造、新設、改造、修理備裝、試驗、檢査ヲ相互ニ依託スルコトヲ得依託ヲ受ケタル廠長ハ第六條ノ手續ヲ要スルモノニ在リテハ精細ニ之ヲ調査シ至當ト認メタルモノハ工事方案竣工期限等ヲ定メ依託ヲ爲シタル廠長ニ協議シ同條ノ規定ニ據リ工事ニ著手スヘシ但シ本條ノ場合ニ在リテハ依託廠長ハ之カ品名數量金額事由(素ト海軍艦政本部ノ通牒及注文番號アルモノハ該番號トモ)依託先ヲ明記シ毎月頭ニ於テ前月分ヲ取纏メ海軍艦政本部長ニ報告スヘシ

前條ノ請求ヲ受ケタルトキ亦同シ

第八條ノ二 海軍工廠長若ハ海軍造兵廠長ハ所屬長官ノ認可ヲ經テ兵器ノ製造据附修理及材料ノ加工ヲ内國ノ工場ニ請負ハシメ又ハ加工シタル材料ヲ内國ノ工場ヨリ購買スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ海軍工廠長ハ之カ品名數量金額事由及工場名ヲ明記シ(素ト海軍艦政本部ノ通牒及注文番號アルモノハ該番號トモ)其ノ都度海軍艦政本部長ニ報告スヘシ但シ重要兵器ニ關シテハ海軍工廠長ハ所屬長官ノ認可ヲ經ル前豫メ海軍艦政本部長ノ承認ヲ經ヘシ

○海軍省達第十七號

海軍體操教範海軍銃劍術教範ヲ別冊ノ通定ム

別冊ハ之ヲ要スル向ニ海軍教育本部ヲシテ配附セシム

明治四十三年三月十五日

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第十八號

明治二十八年達第百十九號同二十七年達第百十四號ヲ廢ス

明治四十三年三月十五日

海軍大臣 男爵齋藤實

〔參照〕

明治二十八年六月一日海軍省達第百十九號ハ海軍銃劍術操式同二十七年七月十日同第百十四號ハ海軍體操教範ナリ

○海軍省達第十九號

海軍准士官以上履歷書及身上取扱規則第六條ノ次ニ左ノ通追加ス

明治四十三年三月十五日

海軍大臣 男爵齋藤實

第六條ノ二 兵曹長同相當准士官ノ兵籍ヲ管スル鎮守府司令長官ハ各其ノ級位級勳ヲ至當ト認ムル者アルトキハ級位者ニ在リテハ其ノ都度、級勳者ニ在リテハ毎年四月二十日迄ニ資格ヲ有スヘキ者ハ其ノ年一月十五日限リ十月三十一日迄ニ資格ヲ有スヘキ者ハ七月十五日限リ履歷書兵曹長同相當官ノ級位ハ履ヲ添ヘ之ヲ海軍大臣ニ具申スヘシ  
履歷ヲ添付スルニ及ハス 履ヲ添ヘ之ヲ海軍大臣ニ具申スヘシ  
具申後聘免黜陟其ノ他兵籍上ニ異動ヲ生シタルトキ若ハ級位級勳ノ遷選ヲ取消サントスルトキハ速ニ之ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ

○海軍省達第二十號

海軍無線電報取扱規則附表第一遞信省船舶局名略符號中日本郵船ノ欄因幡丸ノ次ニ左ノ通追加ス

明治四十三年三月十五日

海軍大臣 男爵齋藤實

Y T B 丹波丸

○海軍省達第二十一號

雇員備人規則別表ヲ左ノ通改正ス但シ目下外國航海中ノ軍艦ニ在リテハ内國港灣歸著ノ日迄從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

明治四十三年三月十八日

海軍大臣 男爵齋藤實

(別表)

艦隊	運送隊	要港部 馬公 竹塹 大溪	水雷	海兵團	軍艦					從僕	給仕	刺	夫	割	添	
					准士官艦	士官艦	以上ノ艦	現ノ艦	定員數							
一	一	一	一	一	五	八	九	一六	一七	二四	二五	三二	四一	四八	五八	七二
〇	〇	三	三	四	九	八	七	六	五	四	三	二	一	〇	〇	〇

考	備	艦隊司令官	艦隊司令官	艦隊司令官	艦隊司令官	防備隊	
						艦隊司令官	艦隊司令官
一	從僕ハ司令官官艦隊參謀長團長艦長司令官之ヲ使役ス	一	一	一	一	一	一
二	前項ノ諸職員ハ兼職ノ故ヲ以テ二名又ハ二名以上ノ從僕ヲ使役スルヲ得ス	一	一	一	一	一	一
三	給仕ハ前項外ノ上長官士官准士官之ヲ使役ス	一	一	一	一	一	一
四	俵利生ノ練習ニ充テラレタル軍艦ニ於テハ必要ニ應シ給仕二名刺夫一名ヲ増員スルコトヲ得	一	一	一	一	一	一
五	竹塹及旅順敷設隊ニハ割添各一名ヲ限ラ	一	一	一	一	一	一
六	潜水艇ノ母艦ニハ其ノ附屬セシメラル、潜水艇ノ准士官以上ノ定員數八名毎(端數ハ切上ク)ニ一名ノ割ヲ以テ給仕ヲ増置スルコトヲ得	一	一	一	一	一	一

○海軍省達第二十二號

海軍學銃操式別冊ノ通定

但シ別冊ハ海軍教育本部ヲシテ要スル向ニ配付セシム

明治四十三年三月二十四日

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第二十三號

明治三十六年達第八號銃隊操式附錄學銃操法ノ部ヲ廢ス

明治四十三年三月二十四日

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第二十四號

明治四十三年三月 達 海軍省第二十二號 第二十三號 第二十四號



明治二十五年達第一號モーゼル式拳銃操式草案ヲ廢ス

明治四十三年三月二十四日

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第二十五號

野砲小銃及拳銃射擊規則中ノ通改ム

明治四十三年三月二十四日

海軍大臣 男爵齋藤實

第四十八條 拳銃射擊ハ艦團隊其ノ他各部ニ於テ拳銃ヲ携帶スヘキ配置ニ在ル下士卒ニ之ヲ施行セシム

第四十九條 拳銃射擊ノ距離及一年度一人消耗彈藥包數額ヲ規定スルコト左表ノ如シ

備考	陸式	拳銃ノ種類			距離(米)	彈藥包數
		一	番	形		
一、射擊ニ於ケル動作及射擊法ハ拳銃操式ニ依ルヘシ 二、監督ニ當ル將校ハ試射ノ爲本表以外ニ各艦備付拳銃一挺ニ付三發以内ノ割合ヲ以テ消耗スルコトヲ得	100	50	30	8	6	
	50	50	30	8	6	

第五十條 標的ハ小銃射擊用圈のヲ用ニルモノトス

第五十一條 命中點數算法及射擊成績ノ報告等ハ小銃射擊ニ準ス

第五十二條 五等卒ノ拳銃射擊ハ本則ニ準シ施行ス所轄長ハ其ノ成績表ヲ五等卒卒業試驗成績表

ト共ニ所屬長官ニ進達スルモノトス

第五十三條 艦團隊其ノ他各部ニ於テ拳銃ヲ携帶スヘキ配置ニ在ル准士官以上ニハ各自左記年額

以內ニテ適宜射擊ヲ施行セシメ其ノ方法及結果ヲ報告スヘシ

モーゼル拳銃 三十發

陸式拳銃

二十四發

○海軍省達第二十六號

海軍監獄看守長、海軍監獄看守配置表中「五」ヲ「四」ニ、「十五」ヲ「十四」ニ、「十三」ヲ「十二」ニ改メ明治四

十三年三月三十一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十三年三月二十八日

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第二十七號

本年勅令第五百一十一號ヲ以テ海軍軍人俸給改正相成候處理局長ノ定ムル改正海軍軍人俸給日割表配付ニ至ル間ニ於テ月額又ハ日額計算ヲ要スルモノアルトキハ月額ニ在リテハ年俸ヲ十二分シ錢位未滿ノ端數ヲ切捨テ之ヲ定メ、日額ニ在リテハ支給スヘキ日數ヲ月額(錢位未滿ヲ切捨テタルモノ)ニ乘シ其ノ月ノ現日數ヲ以テ之ヲ除シ錢位未滿ノ端數ヲ切捨テ支給額ヲ定ムヘシ

明治四十三年三月二十八日

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第二十八號

勸勉手當支給細則勸勉手當日額表中等級ノ欄ヲ左ノ通り改メ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

等		判		任		文		官	
月給	級	月給	級	月給	級	月給	級	月給	級
百二十四圓以下		六十五圓以下		四十五圓以下		三十圓以下		二圓以下	
四十四圓以下		三十五圓以下		二十五圓以下		十五圓以下		十圓以下	
三十五圓以下		二十五圓以下		十五圓以下		十圓以下		五圓以下	
二十五圓以下		十五圓以下		十圓以下		五圓以下		三圓以下	
十圓以下		五圓以下		三圓以下		二圓以下		一圓以下	
五圓以下		三圓以下		二圓以下		一圓以下		一圓以下	
三圓以下		二圓以下		一圓以下		一圓以下		一圓以下	
二圓以下		一圓以下		一圓以下		一圓以下		一圓以下	
一圓以下		一圓以下		一圓以下		一圓以下		一圓以下	

明治四十三年三月二十八日

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第二十九號

歳入歳出取扱規程第六十二條中海軍煉炭製造所ノ次ニ臨時海軍建築部支部ヲ追加シ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十三年三月二十八日

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第三十號

明治三十六年達第百二十四號海軍省所管收入及經費ニ係ル支出收入區分及委任仕拂命令官歳入歳收官收入官吏別表中「防備隊司令官若ハ司令ヲ防備隊先任主計官」ニ「防備隊主計長」ヲ×防備隊書記ニ改メ左ノ一欄ヲ追加シ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十三年三月二十八日

海軍大臣 男爵齋藤實

臨時海軍建築部支部ノ支出收入

臨時海軍建築部支部先任主計官

臨時海軍建築部支部書記

○海軍省達第三十一號

委任仕拂命令官代理規程別表中左ノ一欄ヲ追加シ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十三年三月二十八日

海軍大臣 男爵齋藤實

臨時海軍建築部支部先任主計官

臨時海軍建築部支部後任主計官

○海軍省達第三十二號

海軍給與令施行細則中左ノ通改正ス

明治四十三年三月二十八日

海軍大臣 男爵齋藤實

第三條第一項但書ヲ左ノ通改ム

但シ海軍准士官下士任用進級條例第十七條第十八條又ハ海軍卒進級規則第十六條第十七條ニ依リ進級シタルトキハ退團ノ日迄前俸給額ニ依ル

第三條ノ二 給與令第一表備考第三ニ當ル者ノ増給及第四ニ當ル者ノ年俸ハ別ニ辭令ヲ以テ其ノ時々之ヲ定ム

明治四十三年三月 達 海軍省第三十一號 第三十二號

給與令第一表備考第二、第三及第四ニ依レル者同令第七條及第十一條ニ當ル場合ニハ増給以前ノ額ニ依ル

第五條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ  
艦艇乗組ノ者練習又ハ實地研究ノ爲定員外ト爲リ引續服務ノ場合ニハ定員外ト爲リタル翌日ヨ

リ乙額ヲ支給ス  
第六條ノ二 中將ニシテ軍令部長ニ補セラレタルトキハ補職ノ日ヨリ、免セラレタルトキハ其ノ

日迄其ノ俸給ヲ支給ス  
第十一條第二項中「外國及臺灣」ヲ「外國、臺灣及樺太」ニ改ム

第十七條中第六條ヲ削ル

第二十二條中「第十七條」ノ下「第一號乃至第五號」ヲ削ル

第二十六條 給與令第二十三條ノ加俸ハ左ノ區分ニ依リ之ヲ支給ス  
一 在勤應ニ到著又ハ艦船ニ乗組ノ日ヨリ退職退艦退船ノ日迄

二 任用又ハ進級ノトキハ辭令受領若ハ官報ニテ承知ノ日ヨリ但シ任用進級ト同時ニ所屬ヲ轉  
レタルトキハ前官職ノ額ニ依ル

三 上官ノ職務心得ヲ命セラレタルトキハ其ノ職務ニ就キタル日ヨリ、免セラレタルトキハ辭  
令受領若ハ官報ニテ承知ノ日迄但シ職務心得ヲ免セラルト同時ニ所屬ヲ轉レタルトキハ  
退職退艦退船ノ日迄

四 艦船臺灣、關東州ニ在ル官衛部隊所屬ト爲リ回航ノトキハ初メテ其ノ他ノ港灣到著ノ日ヨ  
リ、所屬ヲ解カレ航海ノトキハ其ノ地ノ最終港灣出航ノ日迄

五 艦船臺灣、關東州ニ於テ該地所在ノ官衛部隊所屬ト爲リタルトキハ命令受領ノ日ヨリ、内地

ニ於テ其ノ所屬ヲ解カレタルトキハ命令受領ノ日迄

第二十七條第一號ヲ左ノ通改メ第二號ヲ削リ第三號第四號ヲ第二號第三號ニ改ム

一 私事又ハ入院轉地療養ノ爲臺灣、關東州、韓國及樺太ヲ離ル、トキハ官衛部隊及艦船ノ所在  
地出發ノ翌日ヨリ歸著ノ前日迄

第三十三條第四項第五項ヲ左ノ通改ム

臺灣、關東州及韓國北緯三十七度以北ニ在ル官衛部隊所屬ノ艦船外國ニ航海スルトキハ第二項  
ノ例ニ依ル但シ本邦北緯二十六度以北又ハ韓國北緯三十七度以南ニ航海スルトキハ初メテ本邦

北緯二十六度以北又ハ韓國北緯三十七度以南ノ港灣ニ到著ノ翌日ヨリ最終ノ本邦北緯二十六度  
以北又ハ韓國北緯三十七度以南ノ港灣出航ノ前日迄本邦沿岸北緯二十六度以南清國沿岸及韓國

沿岸北緯三十七度以北ノ加俸ヲ支給セシム  
艦船新ニ臺灣、關東州及韓國北緯三十七度以北ニ在ル官衛部隊所屬ト爲リ回航スルトキハ最終

ノ本邦北緯二十六度以北又ハ韓國北緯三十七度以南ノ港灣出航ノ日ヨリ、其ノ所屬ヲ離レ回航  
スルトキハ初メテ本邦北緯二十六度以北又ハ韓國北緯三十七度以南ノ港灣ニ到著ノ日迄本邦沿

岸北緯二十六度以南清國沿岸韓國北緯三十七度以北ノ加俸ヲ支給ス  
第三十八條中「清國又ハ臺灣」ヲ「清國、關東州、臺灣又ハ樺太」ニ改ム

第四十條 給與令第三十四條第一項ノ加俸ハ第二表同第二項ノ加俸ハ第三表ニ依リ之ヲ支給ス  
第四十條ノ二 前條ノ加俸ハ左ノ區分ニ依リ之ヲ支給ス

一 善行章ヲ授與セラレタルトキハ其ノ日ヨリ、視察セラレタルトキハ其ノ前日迄  
二 教員ヲ命セラレタルトキハ其ノ日ヨリ、免セラレタルトキハ其ノ日迄

三 證狀ヲ授與セラレタルトキハ其ノ日ヨリ效力消滅ノ日迄、褫奪セラレタルトキハ其ノ前日迄、優等章ノ授與決定セラレタルトキハ其ノ日ヨリ返納ノ前日迄、褫奪セラレタルトキハ其ノ前日迄

四 給與令第三十四條第三項ノ場合ニ於テハ、轉官轉職ノ辭令受領ノ翌日ヨリ加俸ヲ支給セズ

第四十三條中「外國及臺灣ヲ」外國臺灣及樺太ニ改ム

第六十五條ヲ削除ス

第八十四條第一項中「筆記及卒ヲ」下士卒ニ改ム

第八十五條第二號ヲ左ノ通改ム

二 冬期關東州、韓國、樺太及大湊ニ在ル部隊ニ勤務ノ下士卒

第九十六條中「下士卒、艦警備人ヲ」軍人軍屬ニ改ム

第一百條第二項中「所屬ヲ轉シタルトキハ」下ニ「貸與品以外ノモノニ就テハ」ヲ加フ

第一百四條第二項中「外國臺灣」ノ下ニ「樺太」ヲ加フ

第二百一十一條中「兵事官ヲ」人事部ニ改メ「經理部」ノ下「衣糧科」ヲ削ル

第二百一十一條ノ二「第十九表ノ二」ノ下ニ「又ハ第十九表ノ三」ヲ加フ

第二百三十四條第五號中「下士卒臺灣」ノ下ニ「關東州、韓國及樺太」ヲ加フ

第二百三十五條第二項ヲ左ノ通改ム

陸上勤務外宿及望樓勤務ノ下士卒、軍港要港外ノ水雷衛所ニ在ル軍人並臺灣、關東州、韓國及樺太ニ在ル官衙ニ在勤スル雇員備人ニハ食料ヲ支給ス

第二百三十六條ヲ左ノ通改ム

艦船關東州ニ在ル官衙部隊所屬ト爲リタルトキハ下士卒ノ食料ハ初メテ其ノ地ノ港灣到著ノ日ヨリ所屬ヲ解カレ其ノ地ノ最終港灣出航ノ日迄第十九表ノ三ニ依リ支給ス

前項ノ艦船本邦ニ航海ノトキハ其ノ地ノ最終港灣出航ノ日迄、歸港ノトキハ初メテ其ノ地ノ港灣到著ノ日ヨリ第十九表ノ三ニ依リ支給ス

第二百六十六條第一項中「給與令第九十四條」ノ下「第一項」ヲ加フ

第九章 燃料

第二百六十八條ノ二 給與令第九十六條ノ二ノ暖房用燃料ハ宿舍ヲ貸與シタル者ニ限り之ヲ給與ス

「第九章雜則」ヲ「第十章雜則」ニ改ム

第一表第十表ヲ別表ノ通改ム

第十四表中防寒服ノ欄ヲ別表ノ通改メ末尾ニ左ノ備考ヲ加フ

結氷期並冬期トハ十一月一日ヨリ翌年四月三十日迄ノ間ニ於ケル相當期間トス

第十七表中在監人「白帶」ノ項患者帶ニ同シヲ「晒木綿長三尺」ニ改メ防寒服、外套ノ項品質制式ノ欄ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ准士官以上ノ者ニ在リテハ袖先ニ曲尺徑五分ノ黃線一條ヲ付シ鈕釦、縋索、附黑角製ヲ黑角製ニ代フ

第十九表ノ二中乙ノ欄「七錢九厘」ヲ「八錢」ニ「十二錢六厘」ヲ「十三錢」ニ改メ備考ノ初メニ左ノ一項ヲ加フ

兼務ノ場合ニ於テ本務ノ食料ト其ノ額ヲ異ニスルトキハ現ニ服務スル所ノ食數ニ應シ之ヲ支給ス

第十九表ノ三ヲ別表ノ通加フ

附則  
本達ハ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス  
(別表)

第一表(第三十四條ニ依リ指揮官ニ支給スル加俸)

官名	艦船日額	驅逐艦及水雷艇日額
大將	二圓五十錢	
中將	二圓二十錢	
少將	一圓八十錢	
大佐	一圓七十錢	一圓五十錢
中佐	一圓	一圓二十錢
少佐	六十錢	一圓

第十表(第八十五條ニ依リ下士卒ニ交付スル防寒服定數)

品目	數量	給與區分
防寒服	二組	前年ノ給與期ニ於テ給與ヲ受ケタル者ニハ一組ヲ給與ス
毛織手袋	二組	
毛織靴下	二組	
備考	結氷期並冬期トハ十一月一日ヨリ翌年四月三十日迄ノ間ニ於ケル相當期間トス	

(第十四表ニ關スル分)

防備	毛織手袋	毛織靴下	毛織長袖襪	毛織襪	帽	フラネル袴下	毛織襪	中長靴	外袴
	一組	一組	一箇	一箇	一箇	一箇	一組	一組	一箇
	同上ニ貸與ス	同上ニ貸與ス	同上ニ貸與ス	同上ニ貸與ス	同上ニ貸與ス	同上ニ貸與ス	同上ニ貸與ス	同上ニ貸與ス	同上ニ貸與ス
潜水艇乗組下士卒定員ニ應ジ準備シ冬期之ニ貸與ス	潜水艇ニ必要ノ數ヲ準備シ該艇乗組進士官以上下士卒甲板上下ノ職務ニ從事スルトキニ限り貸與ス								
左ノ通り準備シ結氷期又ハ冬期甲丙ノ部下士卒及艦管備人定員ノ一割増									
左ノ通り準備シ結氷期又ハ冬期甲丙ノ部下士卒及艦管備人定員ノ一割増									
左ノ通り準備シ結氷期又ハ冬期甲丙ノ部下士卒及艦管備人定員ノ一割増									
左ノ通り準備シ結氷期又ハ冬期甲丙ノ部下士卒及艦管備人定員ノ一割増									
左ノ通り準備シ結氷期又ハ冬期甲丙ノ部下士卒及艦管備人定員ノ一割増									
左ノ通り準備シ結氷期又ハ冬期甲丙ノ部下士卒及艦管備人定員ノ一割増									
左ノ通り準備シ結氷期又ハ冬期甲丙ノ部下士卒及艦管備人定員ノ一割増									
左ノ通り準備シ結氷期又ハ冬期甲丙ノ部下士卒及艦管備人定員ノ一割増									

第十九表ノ三

一食金額		區	別
六十錢	大將	海軍給與令第七十九條ノ二第三號ノ場合ニ在リテ關東州、韓國及樺太ニ在勤スル准士官以上、候補生、文官及同待遇者ニ支給スル食料	
五十錢	中將及相當官 高等文官一等	海軍給與令施行細則第三百三十四條第二號、第三號、第五號又ハ第三百三十五條第二項ノ場合ニ在リテ關東州、韓國、樺太ノ陸上勤務外宿中ノ下士卒及預備員(預備員)ニ支給スル食料	
四十三錢	少將及相當官 高等文官二等		
三十七錢	大佐及相當官 高等文官三等		
三十三錢	中少佐及相當官 高等文官四、五等		
二十七錢	大尉及相當官 高等文官六等		
二十五錢	中少尉及相當官 高等文官七等以下、高等文官待遇者		
二十三錢	兵曹長及相當官、准士官 判任文官		
十八錢	下士 判任文官待遇者		
十六錢	預備員		
十四錢	備人		
乙 十 錢	海軍給與令第八十六條第八十七條第三號海軍給與令施行細則第三百三十四條第二號、第三百三十五條ノ場合ニ在リテ關東州、韓國、樺太ノ陸上勤務外宿中ニ在ラサル下士卒及艦艇備員ニ支給スル食料		
丙 二十 錢	海軍給與令施行細則第三百三十五條第二項ノ場合ニ在リテ關東州、韓國、樺太ノ陸上勤務外宿中ニ在ラサル下士卒ニ支給スル食料		
丁 四 錢	海軍給與令第八十七條第三號ノ場合ニ在リテ關東州、韓國、樺太ニ在勤スル者ニ支給スル夜食料		

備 任用進級ノ場合ニ於テ食料ノ給與ニ異動ヲ生スルトキハ辭令受領者ハ官報ニテ承知ノ日ヨリ相當ノ額ヲ給ス  
兼務又ハ艦船ニ乗組出航ノ場合ニ於テ食料ノ給與ニ異動ヲ生スルトキハ多額ニ付キ之ヲ支給ス

○海軍省達第三十三號

雇員備人給與規則左ノ通改正ス

明治四十三年三月二十九日

海軍大臣 男齋藤實

雇員備人給與規則

- 第一條 雇員備人ノ給料ハ第一表又ハ第二表ノ範圍内トス但シ筆生ニ限り技術優秀特ニ増給ノ必要アル者ニハ所管長官ノ認許ヲ受ケ月給四十圓迄ヲ支給スルコトヲ得
- 第二條 日給ノ雇員備人ノ給料ハ勤務現日數ニ依リ之ヲ支給ス  
公暇日(特令ニ依ル休、忌服、公務ニ起因スル傷痕疾病又ハ傳染病豫防法ノ施行ニ依リ引籠中ノ日數)ハ勤務現日數ニ計算ス
- 第三條 月給ノ雇員公務ニ起因セサル傷痕疾病又ハ事故ニ依リ缺勤三十日ヲ超ユルトキ及留置、收禁、處刑又ハ被告事件ノ爲護送ノトキハ其ノ當日ヨリ出勤ノ前日迄給料ノ支給ヲ停止ス但シ忌服又ハ傳染病豫防法ノ施行ニ依リ引籠中及被告事件不起訴、免訴若ハ無罪ニ歸シタルトキ、被告事件緊閉中死亡シタルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第四條 臺灣、關東州、韓國及樺太ニ在勤スル雇員備人在勤地ニ於テ入院若ハ陸地療養ヲ爲ストキハ傷痕疾病ノ原因故意ニ出テタル場合ヲ除クノ外其ノ間勤務ニ服シタルモノト看做ス其ノ地所 在官衙部隊所屬艦船乗組ノ者臺灣、關東州、韓國及樺太ニ於テ入院若ハ陸地療養ヲ爲ストキ亦同



第三表 臺灣在勤増給表

等	日額			等	日額		
	級	日	額		級	日	額
等	四十圓以下	十	九	等	一圓三十錢以下	十	二十二
	二十五圓以下	十	六		九十五錢以下	十	七
等	二十圓以下	十	二	等	七十錢以下	十	二
	十五圓以下	九	九		四十五錢以下	七	七
等	十圓以下	六	六	等	二十錢以下	三	三

第四表 關東州韓國樺太在勤増給表

等	日額			等	日額		
	級	日	額		級	日	額
等	四十圓以下	二十二	二	等	二圓以下	六	十七
	二十圓以下	十九	九		一圓二十錢以下	五	十五
等	十八圓以下	十六	六	等	一圓以下	四	十五
	十五圓以下	十三	三		八十錢以下	三	十七
等				等	七十錢以下	三	十二
					六十錢以下	二	十七
等				等	五十錢以下	二	十二

第五表 艦船航海増給表

職名	増給		日額	額
	日給六十圓以上人	日給三十圓以上人		
本邦沿岸北緯四十四度以南	四	二	二	二
濟南、亞細亞露領沿岸	四	二	二	二
韓國沿岸北緯三十七度以北	四	二	二	二
東經九十度以東	九	七	五	五
西經百四十度以西	九	七	五	五
北緯六十度以南	九	七	五	五
南緯三十四度以北	九	七	五	五
東經九十度以西	十	八	六	六
東經三十度以東	十	八	六	六
西經百四十度以東	十	八	六	六
西經七十度以西	十	八	六	六
北緯六十度以北	十	八	六	六
南緯三十四度以南	十	八	六	六
東經三十度以西	十	八	六	六
西經七十度以東	十	八	六	六

備考 部隊ニ在勤スル者及艦船乗員ニハ甲額ヲ支給シ其ノ他ノ者ニハ乙額ヲ支給ス



○大藏省達往第三九三五號  
鐵道院會計事務規程中左ノ通改正ス

明治四十三年四月四日

第十七條第一項第七號中「北海道鐵道管理局」ヲ削ル

大藏大臣 侯爵桂太郎

〔參照〕

大藏省達往第四一〇〇號鐵道院會計事務規程(明治四十二年四月一日)抄錄  
第十七條第一項  
仕拂命令官ハ左ニ掲ケタルモノヲシテ帝國鐵道會計現金受拂規則第二條ニ依ル總替拂票ヲ發セシムルコトヲ得  
一 北海道鐵道管理局運輸事務所長

○陸軍第十四號ノ二(官報四月八日)

陸軍武官増俸給與規程別表士官准士官下士増俸給與區分表中左ノ通改正ス

明治四十三年四月一日

陸軍大臣 子爵寺內正毅

士官ノ區畫ヲ別表ノ如ク改ム

備考中第三號ノ「旅團」及「臺灣守備隊司令部」ヲ削リ左ノ一號ヲ加フ  
九 臨時韓國派遣聯大隊本部附下士ハ原所屬隊ニ關セス一團ト爲シ當該隊長ニ於テ支給區分ヲ定ム  
(別表)

階級	各兵科大尉			支給區分	在勤年數	給與人員
	一等主計	一等軍醫	一等藥劑官			
一等	一等	一等	一等	每級三年以上	給與人員	一等給現員百分ノ七
二等	二等	二等	二等			二等給現員百分ノ二

明治四十三年四月 達 大藏省達往第三九三五號 陸軍省陸軍第十四號ノ二

官					
一等獸醫	各兵科中尉	二等主計	二等軍醫	二等藥劑官	二等獸醫
給給	給給	給給	給給	給給	給給
各兵科各部各官毎					
每級二年以上	二年以上 現員三分の一				

○陸軍第十五號  
兵器取扱規則第一表輜重兵器具中「携行蹄鐵工具」携帶蹄鐵工具「分屯隊用蹄鐵器具」ヲ削リ獸醫材  
料取扱規則第二條中「消耗品」ヲ「消耗品並蹄鐵工具」ニ第十五條中「第一表」ヲ「第一表第一表ノ二」  
改メ同規則ニ左表ヲ加ヘ明治四十三年度ヨリ之ヲ施行ス  
明治四十三年四月五日  
陸軍大臣 子爵寺内正毅

第一表ノ二 蹄鐵工具定數表

部	品目	定數
騎兵甲聯隊	野砲兵聯隊	一五
	山砲兵大隊	一〇
騎兵乙聯隊	重砲兵聯隊	七
	山砲兵大隊	六
騎兵大隊	騎兵實施學校	三
	騎兵團駐劄憲兵隊	三
騎兵中隊	大 學 校	二
	士官學校	二
獨立守備大隊	士官學校	二
	砲工學校	二
砲兵射擊學校	砲工學校	二
	中央幼年學校	二
砲兵隊	中央幼年學校	二
	臺灣砲兵隊	二

携帶蹄鐵工具	一五	一〇	七	六	三	二
--------	----	----	---	---	---	---

○陸軍第十六號  
一等看護長ニシテ明治四十二年勅令第三號附則ニ依リ現ニ特別給乙額ヲ受クル者ニハ明治四十三年  
年四月一日以降一等給ヲ給ス  
明治四十三年四月十八日  
陸軍大臣 子爵寺内正毅

○陸軍第十七號  
陸軍各隊陣營具定數表及附圖中左ノ通改正ス  
明治四十三年四月二十五日  
陸軍大臣 子爵寺内正毅

○陸軍第十八號  
陸軍給與令細則中左ノ通改正ス  
明治四十三年四月二十五日  
陸軍大臣 子爵寺内正毅

第二十條中第三項ヲ左ノ如ク改ム  
通譯加俸ハ通譯ヲ命シタル翌日ヨリ之ヲ免シタル當日迄給ス  
第十一表中山砲兵及電信ノ項ヲ左ノ如ク改ム

山砲兵	大隊本部	一五〇五〇
中 隊		三三〇〇
砲 隊		二八〇〇〇
電信	隊本部	一八〇〇〇
中 隊		二八〇〇〇

第十四表中山砲兵及電信ノ項ヲ左ノ如ク改ム

明治四十三年四月 陸軍省陸軍第十六號 陸軍第十七號 陸軍第十八號

山	大隊本部	三九二〇	〇二二〇	一六三〇	五六七〇
砲	中隊	八三〇〇	四八八〇	一八四〇〇	三二六〇〇
兵	隊本部	八〇〇〇	一一〇〇	一八〇〇〇	二七一〇〇
電	隊本部	一〇七六〇	六三〇〇	一八〇〇	一八八六〇
借	隊本部				

○陸軍第十九號

雇員備人給料支給規則中左ノ通改正ス

明治四十三年四月二十五日

陸軍大臣 子爵寺内正毅

第一條 第一項中「月給金二十五圓」ヲ「月額四十圓」ニ改ム  
第八條 日割計算ノ法ハ其ノ月ノ現日數ニ依ル但シ計算ノ結果仕拂額ニ錢位未滿ノ端數ヲ生スルトキハ之ヲ切捨ツ

〔參照〕

陸軍第二十號 雇員備人給料支給規則(明治三十三年三月十七日)抄録

第一條 第一項 雇員ノ給料ハ月給又ハ日給トシ其ノ月額金二十五圓ヲ最上限トス但シ臺灣樺太及韓國駐軍部隊ニ在テハ當該給與規則則ノ規定ニ依ル  
第八條 日割計算ノ法ハ其ノ支給スヘキ日數ヲ月額ニ乘シ其ノ月ノ現日數ヲ以テ除シ錢位未滿切捨支給ス但シ第五條及第六條ノ場合ニ在リテハ月額ヲ二分シ之ニ支給スヘキ日數ヲ乘シ其ノ月ノ現日數ヲ以テ除シ(毛位以下切捨)之ヲ月額ノ内ヨリ控除シ錢位未滿切捨支給額ヲ得

○陸軍第二十號

臺灣島及澎湖島駐軍陸軍部隊給與規則細則中左ノ通改正ス

明治四十三年四月二十五日

陸軍大臣 子爵寺内正毅

第二十四條 第一項中「月額三十五圓」ヲ「月額五十圓」ニ改ム

○陸軍第二十一號

滿洲韓國樺太駐軍陸軍部隊給與細則中左ノ通改正ス

明治四十三年四月二十五日

陸軍大臣 子爵寺内正毅

第七條 雇員ノ給料ハ月額五十圓 備人ノ給料支給規則備給表及明治二十ノ給料ハ日額一圓二十錢ヲ最上限トス但シ醫師通譯又ハ技術者及特別ノ役務ヲ爲サシムル者ノ給料ハ此ノ限ニ在ラス

○海軍省達第三十四號

吳鎮守府在籍

水雷艇 第六號

水雷艇 第七號

右帝國水雷艇籍ヨリ除カル

水雷艇 第十號

水雷艇 第十二號

水雷艇 第十三號

明治四十三年四月一日

水雷艇 第十五號

水雷艇 第十七號

水雷艇 第十八號

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第三十五號

艦艇類別等級別表中水雷艇ノ欄内「第六號」「第七號」「第十號」「第十二號」「第十三號」「第十五號」「第十七號」「第十八號」「第十九號」及「第二十號」ヲ削ル

明治四十三年四月一日

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第三十六號

右海軍機關學校附屬ニ改ム

明治四十三年四月一日

橫須賀海軍港務部附屬

汽船 由良川丸

右海軍機關學校附屬ニ改ム

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第三十七號  
明治三十六年十一月連第三百二十一號通常物品出納命令官會計官吏表中左ノ通り改正ス  
明治四十三年四月一日  
海軍大臣 男爵齋藤實

一、品名ノ欄海軍用地經營用物品ノ項中 防備隊主計長  
ノ一項ヲ追加ス 防備隊先任主計官  
ニ改メ同表中末項ニ左

臨時海軍建築部支部 臨時海軍建築部支部  
所屬物品 先任主計官 後任主計官

○海軍省達第三十八號  
海軍機關學校規則中左ノ通改ム  
明治四十三年四月五日  
海軍大臣 男爵齋藤實

第四條 修學期間ハ之ヲ三學年ニ分チ毎年九月十一日ニ始マリ翌年九月十日ニ終ル  
第十七條 校長ハ前年九月十一日ヨリ其年九月十日迄ノ教育報告ヲ作り意見ヲ附シ之ヲ十月三十  
一日迄ニ海軍教育本部長ニ提出スヘシ

〔參照〕

海軍省達第四十四號海軍機關學校規則(明治四十二年三月三十日)抄録  
第四條 修學期間ハ之ヲ三學年ニ分チ第一學年ハ七月一日ニ始マリ翌年七月二十日ニ終リ第二學年ハ七月二十一日ニ始マ  
リ翌年七月二十日ニ終リ第三學年ハ七月二十一日ニ始マリ翌年十一月二十日ニ終ル  
第十七條 校長ハ前年七月二十一日ヨリ其年七月二十日迄ノ教育報告ヲ作り意見ヲ附シ之ヲ九月三十日迄ニ海軍教育本  
部長ニ提出スヘシ

○海軍省達第三十九號  
海軍機關少尉候補生實務練習規則中左ノ通改ム  
明治四十三年四月五日  
海軍大臣 男爵齋藤實

第二條 海軍機關少尉候補生實務練習ハ之ヲ二期ニ分チ其ノ第一期ハ特定ノ練習艦ニ乗組マシメ  
凡八箇月ノ練習ヲ以テ其ノ課業ヲ卒ヘシ其ノ第二期ハ第一期ノ實務練習ヲ卒リタル者ヲシテ  
在役各艦ニ分乗セシメ更ニ實務ニ就テ練習セシム但シ第二期ニ在リテハ場合ニ依リ第一豫備艦  
ニ分乗セシムルコトヲ得

海軍機關少尉候補生病氣其ノ他ノ事故ニ依リ前項ノ順序ニ從ヒ實務ノ練習ヲ行ハシムルコト能  
ハサルトキハ第二期實務練習ヲ先ニ第一期實務練習ヲ後ニスルコトヲ得

第七條 練習艦二隻以上ノトキハ練習ニ關シ首席將校其ノ統一ヲ圖リ練習艦隊ナルトキハ司令官  
之ニ當リ前條ノ報告ハ之ヲ取纏メ合併シテ順序ヲ定メ意見ヲ附シテ海軍教育本部長ニ報告(移  
牒)シ海軍教育本部長ハ之ヲ海軍大臣ニ進達スヘシ

附則

第十條 明治四十三年勅令第九十四號附則ニ依リ卒業ノ海軍機關少尉候補生ニ限リ本則第一期  
ノ實務練習ヲ約六箇月迄短縮スルコトヲ得

〔參照〕

海軍省達第三百三十六號海軍少尉候補生實務練習規則(明治四十一年十一月十九日)抄録  
第二條 海軍少尉候補生實務練習ハ之ヲ二期ニ分チ其ノ第一期ハ特定ノ練習艦ニ乗組マシメ凡八箇月間ノ練習ヲ以テ其ノ  
課業ヲ卒ヘシ其ノ第二期ハ第一期ノ實務練習ヲ卒リタル者ヲシテ在役各艦ニ分乗セシメ更ニ實務ニ就テ練習セシム但  
シ第二期ニ在リテハ場合ニ依リ第一豫備艦ニ分乗セシムルコトヲ得  
海軍少尉候補生病氣其ノ他ノ事故ニ依リ前項ノ順序ニ從ヒ實務ノ練習ヲ行ハシムルコト能ハサルトキハ第二期實務練習  
ヲ先ニ第一期實務練習ヲ後ニスルコトヲ得  
第七條 練習艦二隻以上ノトキハ練習ニ關シ首席將校其ノ統一ヲ圖リ練習艦隊ナルトキハ司令官之ニ當リ前條ノ報告ハ之  
ヲ取纏メ合併シテ順序ヲ定メ意見ヲ附シ海軍教育本部長ニ報告(移牒)シ海軍教育本部長ハ之ヲ大臣ニ進達スヘシ

○海軍省達第四十號  
電氣計器檢定ニ關スル取扱方左ノ通定ム

明治四十三年四月十二日

海軍大臣 男爵齋藤實

- 一、各工廠、造兵廠、工作部及修理工場ハ電氣單位測定用トシテ常ニ正確ナル基本器ヲ備ヘ置クハ
- 二、艦團其他ノ各部ハ毎年一回工廠、造兵廠、工作部若ハ修理工場ニ請求シテ兵器又ハ器具トシテ使用セル電氣計器ノ目盛修正ヲ行フヘシ

○海軍省達第四十一號

氣象觀測通報規程中左ノ通追加シ本年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十三年四月十四日

海軍大臣 男爵齋藤實

第十二條 無線電信裝置ヲ有スル艦船ハ航海中海上氣象ニ關シテ海岸局ト通信ヲ交換スヘシ其ノ取扱ハ中央氣象臺所定ノ海上氣象電報規定ニ依ルモノトス

海岸局ヨリ艦船ニ警報ヲ發スルハ艦船カ海岸局ヲ呼出シタル場合若ハ艦船カ海岸局ノ通信距離内ニ在ルコト明瞭ニシテ容易ニ通達シ得ル場合ニ限ル

海上氣象電報ハ編隊航行中ハ旗艦若ハ便宜ノ一艦ニ於テ之カ發受ヲ擔任スヘシ

○海軍省達第四十二號

職工人夫給與規則第四條中「二圓五十錢」ヲ「三圓」ト改ム

明治四十三年四月十四日

海軍大臣 男爵齋藤實

〔參照〕

海軍省達第三號職工人夫規則(明治三十三年一月二十日)抄錄

第四條第一項

職工ノ賃錢ハ二圓五十錢ヲ最上限トシ其ノ平均額ハ毎年度定ムル所ニ依ルヘシ

○海軍省達第四十三號

職工賃錢等級表中特別級及備考ヲ左ノ通改ム

特別一等	三圓	特別二等	二圓七十錢	特別三等	二圓五十錢
特別四等	二圓三十錢	特別五等	二圓十錢	特別六等	二圓
特別七等	一圓九十錢	特別八等	一圓八十錢	特別九等	一圓七十錢
特別十等	一圓六十錢	特別十一等	一圓五十錢		

備考 經理部衣糧科職工ノ最上額ハ四等、女工ノ最上額ハ十六等トス

明治四十三年四月十四日

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第四十四號

海軍服裝規則第十六條中但書ヲ削ル

明治四十三年四月二十二日

海軍大臣 男爵齋藤實

〔參照〕

海軍省達第二百二號海軍服裝規則(明治二十九年十一月二十日)抄錄

第十六條 候補生生徒及軍樂員ノ劍帶ハ上表ノ下ニ締メ下士卒ノ劍帶ハ上表ノ外ニ締ムヘシ但三等下士以下ニシテ通常軍服若クハ夏服ヲ着用スルトキハ上表ノ内ニ締ムヘシ

○海軍省達第四十五號

委任仕拂命令官代理規程別表中「海軍經理部先任課長、先任部員」ヲ「海軍經理部先任課長、主計官先任部員」ト改ム

明治四十三年四月二十六日

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第四十六號

海軍無線電報取扱規約附表第一遞信省船舶局名略符號中日本郵船ノ欄丹波丸ノ次ニ左ノ通追加ス

明治四十三年四月二十七日

海軍大臣 男爵齋藤實

Y K M 録倉丸

○海軍省達第四十七號

海軍卒進級規則中左ノ一條ヲ加フ

明治四十三年四月二十七日

海軍大臣 男爵齋藤實

第二條ノ二 五等卒ハ海軍五等卒教育規則ニ定ムル修業ヲ終リタルトキ四等卒ニ進級セシム

○海軍省達第四十八號

東宮武官タル海軍佐尉官中一名ハ參謀官ト定メラレタル處之ヲ廢セラル

明治四十三年四月三十日

海軍大臣 男爵齋藤實

○陸軍省達第二十二號

陸軍將校同相當官實役停年名簿及服役停年名簿編纂規則中左ノ通改正ス

明治四十三年五月二日

陸軍大臣 子爵寺內正毅

第三條第四號及第四條第三號中「休職停職」ヲ「待命休職停職」ニ改ム

〔參照〕

陸軍省達第二十二號陸軍將校同相當官實役停年名簿及服役停年名簿編纂規則(明治三十六年八月六日)抄錄

第三條 實役停年名簿ハ左ノ各號ニ依リ編纂ス

四 休職停職ノ將校同相當官ハ將官同相當官各兵科各部毎ニ各官ニ區分ス

第四條 前條各官ノ順序ハ左ノ各號ニ依ル

三 休職停職ヨリ就職シタル者ニシテ他ニ同停年者アルトキハ先任者ヲ上位ニ列ス

○陸軍省達第二十三號

明治二十九年陸軍第四十九號ハ之ヲ廢止ス

明治四十三年五月六日

陸軍大臣 子爵寺內正毅

〔參照〕

明治三十九年六月二日陸軍第四十九號ハ樺太守備步兵大隊、濟南駐屯軍獨立守備大隊、旅順鎮守隊重砲兵大隊ニ屬スル下士卒ノ兵籍及身上異動ニ關スル取扱準據方ナリ

○陸軍省達第二十四號

明治四十三年陸軍第三號中鍛冶谷澤支部ノ欄内冬師山出張所ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

明治四十三年五月二十八日

陸軍大臣 子爵寺內正毅

山内出張所 山形縣北村山郡大高根村

〔參照〕

明治四十三年二月陸軍第三號ハ軍馬補充部支部同派出部及出張所ノ名稱及位置ナリ

○海軍省達第四十九號  
 明治四十年九月入校セル海軍機關學校生徒ノ修學期間ヲ三年三箇月ト定メ明治四十三年十一月二  
 十八日ヲ以テ第三學年ノ終期トス  
 明治四十三年五月五日  
 海軍大臣 男爵齋藤實

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第五十號

海軍大臣 男爵齋藤實

明治三十八年三月達第四十二號海軍探炭所管轄海軍指定炭山中漆生海軍炭山ヲ削除ス  
 明治四十三年五月五日

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第五十一號

海軍大臣 男爵齋藤實

守衛備人被服規則中左ノ通改正ス  
 明治四十三年五月九日

別表職名ノ欄中「守衛」ヲ削リ兵器手ノ部ノ前ニ左ノ一部ヲ加フ

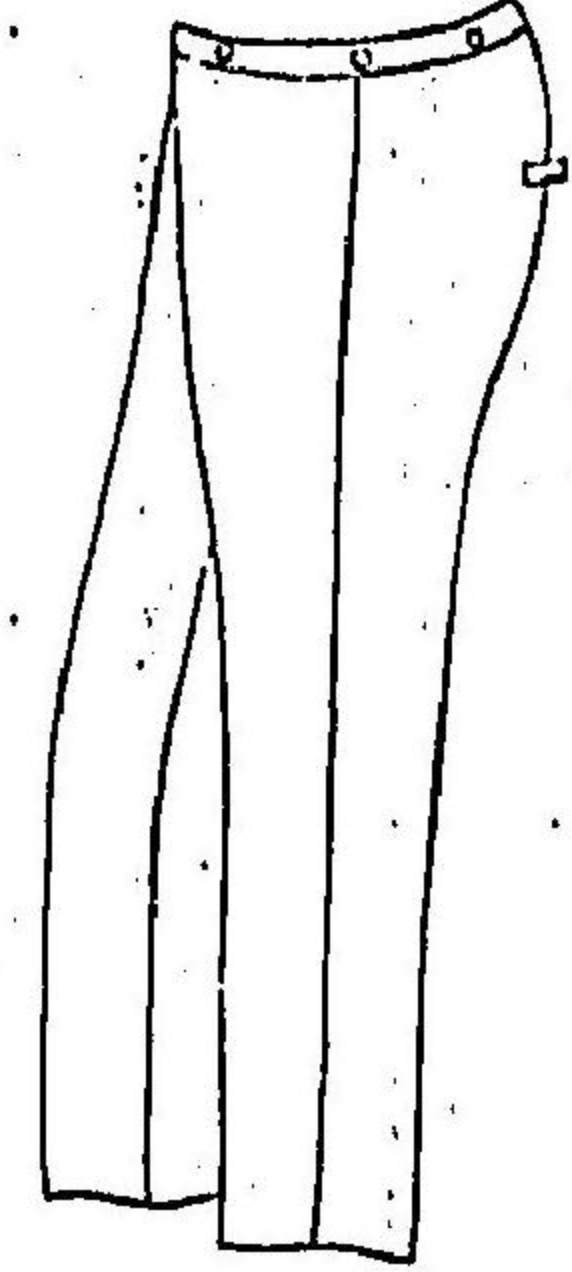
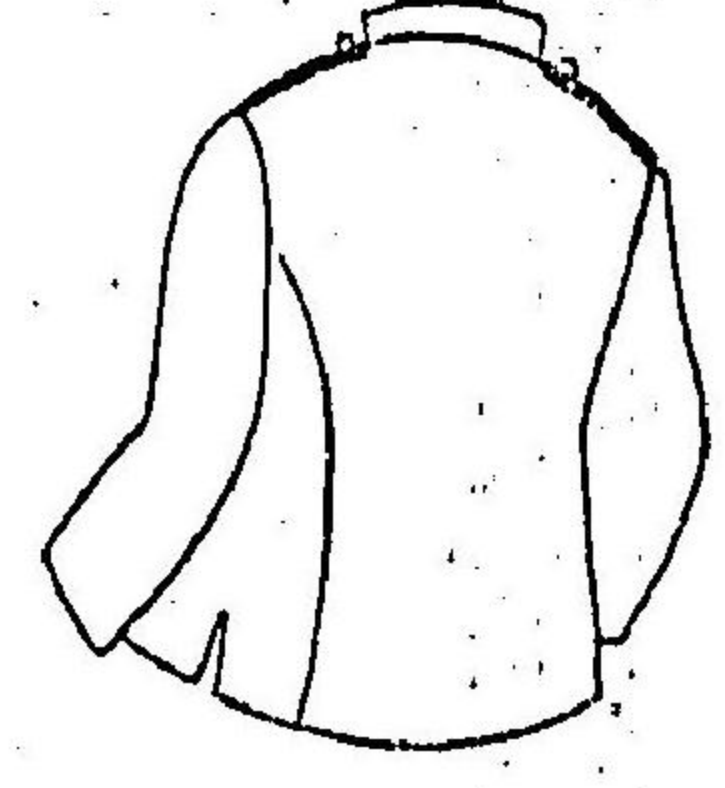
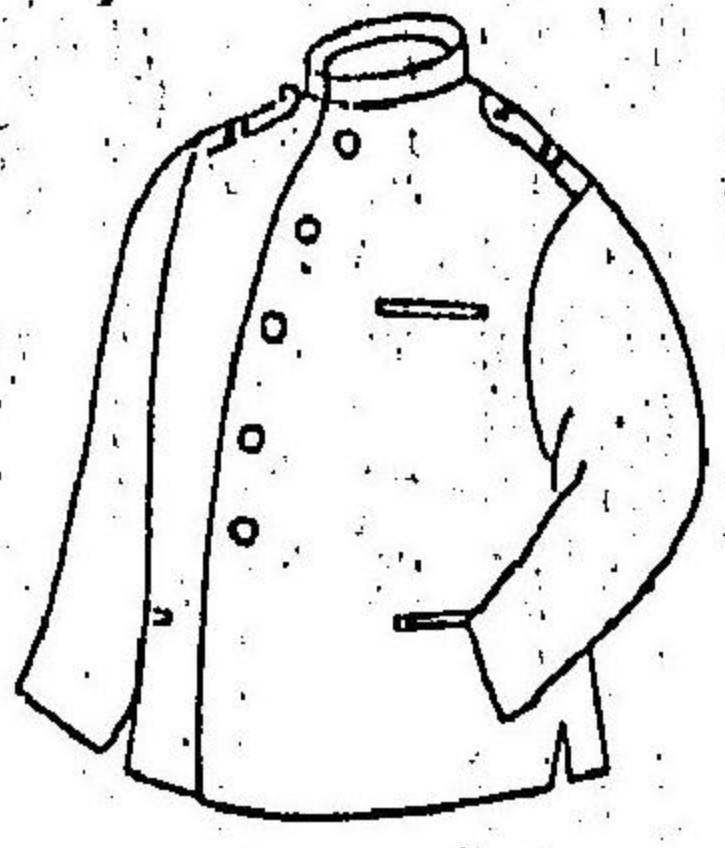
守衛	
常服	地質紺、セルシ長シヤケット製胸一重整襟鈕金色櫻花徑七分五箇一行圖ノ如シ
夏服	地質晒綾木綿其他總テ常服ニ同シ
肩章	常服及夏服ニ附著スルモノニシテ紺細紗製長サ約四寸幅一寸六分トシ中央ニ幅一 分ノ鍍銀製波形二條ヲ附ス又胸ニ近ク金色櫻花徑五分ノ鈕一箇ヲ附ス圖ノ如シ
帽	紺絨大形形黒革底附纒革止メ金色鍍附小鈕二箇ヲ附シ前サハ高サ一寸五分幅 一寸二分ノ鍍銀製楕圓形ニ白銅鍍製ノ縁及鍍ヲ打込ス圖ノ如シ
帽日覆	晒綾木綿承巾ヲ附ス
外套	地質五號絨胸二重整襟黒角鈕五箇宛二行取巾附
長靴	黒色革製
半靴	黒色革製

兵器手ノ部常服ノ項中背廣製裏地絹吳絨ヲ「長シヤケット」製ニ改メ帽日覆外套長靴及半靴ノ項

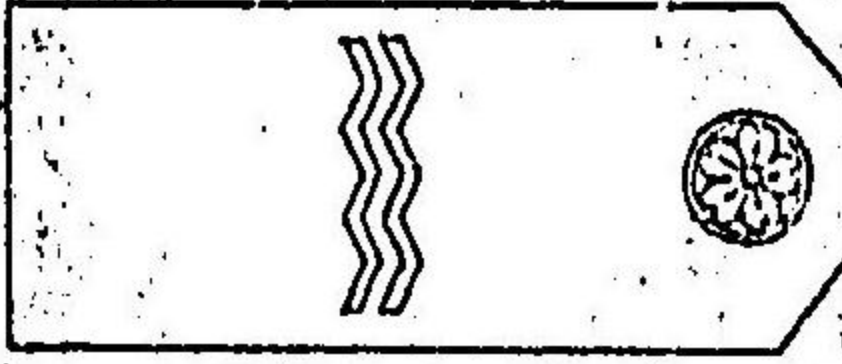
ヲ「守衛」ニ同シニ改ム

從僕乃至印刷工ノ部常服ノ項中背廣製ヲ「長シヤケット」製ニ、帽ノ項中「小鈕」二箇ヲ附スヲ「小  
 鈕」二箇ヲ附シ前章ハ鍍銅製ノ圓形ニ白銅鍍製ノ縁及鍍ヲ打出シ徑一寸二分トスニ改ム  
 大工乃至給仕（艦隊部隊使役ノ者ヲ除ク）ノ部中「守衛」ヲ「兵器手」ニ改ム  
 別圖ノ首ニ左圖ヲ加ヘ常服、鈕釦及前章ノ圖中「守衛」ヲ削ル

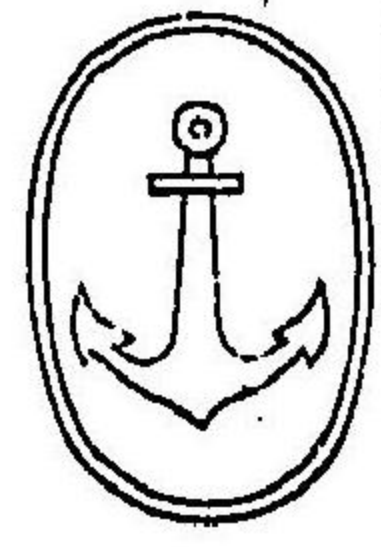
守衛常服



守衛肩章

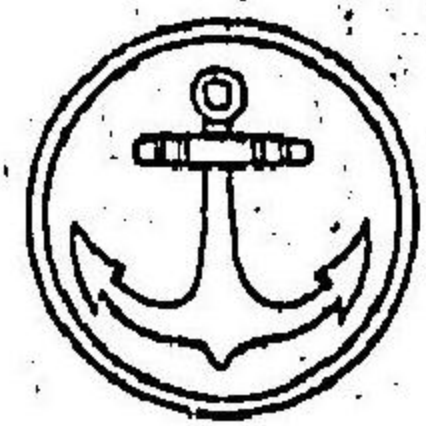


守衛帽徽章



同從僕乃至印刷工ノ部帽ノ圖ノ次ニ左圖ヲ加フ

前章



附則

本達ハ明治四十三年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

○海軍省達第五十二號

留別需品支庫ヲ廢ス

明治四十三年五月十七日

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第五十三號

海軍無線電報取扱規約附表第一海軍艦(船)名略符號中海防艦ノ欄「G K O 金剛」ヲ削除シ同表遞信省船舶局名略符號中日本郵船ノ欄鎌倉丸ノ次ニ左ノ通追加ス

明治四十三年五月二十日

海軍大臣 男爵齋藤實

Y S D 佐 渡 丸

○海軍省達第五十四號

海軍里程表中別冊ノ通改正シ明治四十三年六月十日ヨリ之ヲ施行ス但シ別冊ハ之ヲ要スル向ハ經理局ヨリ配付セム

明治四十三年五月二十五日

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第五十五號

海軍砲術學校規則左ノ通改正ス

明治四十三年五月三十日

海軍大臣 男爵齋藤實

海軍砲術學校規則

第一條 校長ハ教務規程其ノ他執務ニ關スル細則ヲ設ケ海軍教育本部長ノ認可ヲ經テ之ヲ實施ス

第二條 海軍砲術學校ノ紀律ハ軍艦ノ例ニ準ス

第三條 海軍砲術學校ノ職員文官及雇員ハ校內ニ起臥スルモノトス

第四條 校長ハ砲術ノ事ニ關シテハ努メテ海軍各部ト連絡ヲ保チ教官以下ヲシテ絶ニス之カ調査研究ニ從事セシメ又艦團其ノ他各部ヨリノ質疑ニ應スルコトヲ得

第五條 校長ハ操式教範其ノ他砲術ノ事ニ關シテ改正又ハ制定ヲ要スト認メタルトキハ案ヲ具シテ海軍教育本部長ニ提出スヘシ

第六條 校長ハ學生練習生ノ終業期ニ於テ教官ヲ會同シ教育ノ經過成績及進歩並學生練習生ニ關スル事項ヲ考查シ之カ記録ヲ整理保存スヘシ

第七條 校長ハ學生練習生ノ終業期ニ於テ學生ノ學業考課表ヲ調製シ又學生練習生ノ卒業成績表ニ意見ヲ附シ試験問題ト共ニ海軍教育本部長ニ進達スヘシ

第八條 校長ハ卒業成績順序ハ何人中ノ何番ナル字句ヲ用ヒ之ヲ本人ノ履歴表ニ記入スヘシ

第九條 校長ハ前年四月一日以後其ノ年三月末日迄ノ教育報告ヲ作り意見ヲ附シ四月末日迄ニ海軍教育本部長ニ進達スヘシ

第十條 校長ハ翌會計年度中ニ於ケル學生練習生ノ出入期日ヲ豫定シ毎年一月末日迄ニ海軍教育



本部長ニ進達スヘシ

第十一條 海軍砲術學校條例第十五條第三號ニ依リ特修科學生ヲランコトヲ志願スル者ハ將校ニ在リテハ海軍大臣ニ兵曹長上等兵曹ニ在リテハ在籍鎮守府司令長官ニ各順序ヲ經テ願書ヲ差出スヘシ

第十二條 兵曹長上等兵曹ヲ特修科學生ニ採用スヘキ員數及時期ハ海軍大臣之ヲ告達ス

鎮守府司令長官ハ前項ノ告達ニ從ヒ前條ノ出願者中ヨリ選抜シタル者及其ノ鎮守府在籍ノ兵曹長上等兵曹ニシテ特ニ砲術ヲ修習セシムルノ必要アリト認メタル者ニ海軍砲術學校特修科學生ヲ命シ其ノ人名ヲ海軍大臣ニ報告シ同時ニ之ヲ海軍教育本部長ニ通報スヘシ

第十三條 特修科學生タル兵曹長上等兵曹卒業シタルトキハ各其ノ在籍鎮守府ニ復職セシムヘシ

第十四條 海軍教育本部長臨時講習科ヲ設クルノ必要ヲ認メタルトキハ講習員ノ範圍其ノ科目及期限ヲ定メ海軍大臣ニ具申スヘシ

講習員ノ召集ハ海軍大臣之ヲ告達ス

講習終ルトキハ校長ハ之ヲ海軍教育本部長ニ報告スヘシ

第十五條 練習生ヲ左ノ二種ニ區別ス

- 一 普通科砲術練習生
- 二 高等科砲術練習生

第十六條 普通科砲術練習生ハ海軍一、二等水兵及進級停年ヲ超過シタル海軍三等水兵ニシテ左ノ諸號ニ適合スル者ノ中ヨリ之ヲ選抜ス

- 一 身體強健視力聴力完全ニシテ品行方正ナル者
- 二 掌砲兵ト爲スニ適當ナル技能學力ヲ有スト認ムル者
- 三 卒業後四箇年以上現役ニ服スヘキ者又ハ服スヘキコトヲ誓約スル者

第十七條 高等科砲術練習生ハ海軍兵曹及進級停年ヲ超過シタル海軍一等水兵ニシテ普通科一等掌砲證狀ヲ有シ左ノ諸號ニ適合スル者ノ中ヨリ之ヲ選抜ス

- 一 身體強健視力聴力完全ニシテ品行方正ナル者
- 二 掌砲ノ要務ヲ執ラシムルニ適當ナル技能學力ヲ有スト認ムル者
- 三 普通科一等掌砲證狀ヲ授與シタル日ヨリ一箇年以上勤務ニ服シタル者
- 四 卒業後三箇年以上現役ニ服スヘキ者又ハ服スヘキコトヲ誓約スル者

第十八條 練習生ニ採用スヘキ員數ハ鎮守府毎ニ區分シ毎年十二月海軍大臣之ヲ告達ス

普通科砲術練習生ヲ採用スルニハ海軍教育本部長ハ前項ノ告達ニ基キ便宜數回ニ分チ採用員數及入校期限ヲ定メ之ヲ各鎮守府司令長官ニ通知スヘシ

鎮守府司令長官ハ前項ノ通知ニ從ヒ艦團其ノ他各部當該鎮守府在籍下士卒ノ勤務スルモノニ在リテハ其ノ所屬ノ如何ヲ問ハス以下後之ノ長ヲシテ練習生志願者ニ就キ海軍教育本部長ノ定ムル試験標準ニ依リ試験ヲ行ヒ本則第十六條ニ適合スル者ヲ選抜シ其ノ員數ヲ具申セシムヘシ

鎮守府司令長官ハ前項ノ具申ニ基キ採用スヘキ員數ヲ定メ入校期限ト共ニ之ヲ艦團其ノ他各部ノ長ニ達ス艦團其ノ他各部ノ長ハ更ニ選抜ヲ行ヒ採用スヘキ者ヲ決定シ所見表別表第一ヲ添ヘ之ヲ校長ニ通知シ期日内ニ入校セシムヘシ

鎮守府司令長官ハ前項ニ依リ練習生ノ採用員數ヲ定メタルトキハ其ノ候補者ノ總數及採用員數ヲ海軍砲術學校長ニ通知スヘシ

高等科砲術練習生ヲ採用スルニハ海軍教育本部長ハ本條第一項ノ告達ニ基キ便宜數回ニ分チ採用員數及其ノ候補者選出期限ヲ定メテ之ヲ各鎮守府司令長官ニ通知スヘシ

鎮守府司令長官ハ前項ノ通知ニ從ヒ艦團其ノ他各部ノ長ヲシテ本則第十七條ニ適合スル者ヲ選抜シ選抜順序ヲ附シ所見表別表第一ト共ニ選出期限内ニ校長ニ通知セシム校長ハ告達員數以內ニ於

テ更ニ選拔ヲ行ヒ其ノ採用人名及所屬ヲ海軍教育本部長ニ報告スヘシ

海軍教育本部長ハ前項ノ報告ニ依リ入校期限ヲ定メテ之ヲ鎮守府司令長官ニ通知スヘシ

鎮守府司令長官ハ前項ノ通知ニ從ヒ艦團其ノ他各部ノ長ヲシテ期日内ニ入校セシムヘシ

第十九條 校長ハ練習生入校シタルトキハ本則第十六條第十七條ニ依リ誓約書第二號ヲ徴シ之ヲ在籍鎮守府ノ人事部長ニ移牒スヘシ

第二十條 練習生ニシテ傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ卒業ノ見込ナキトキハ校長之ヲ免シ各其ノ在籍鎮守府ノ海兵團ニ入團セシメ且之ヲ各其ノ前所屬ノ艦團其ノ他各部ノ長ニ通知シ海軍教育本部長ニ報告スヘシ

第二十一條 練習生ニシテ怠慢又ハ品行不正等ノ爲練習生タルニ不適當ト認ムル者ハ校長之ヲ免シ理由ヲ附シ各其ノ前所屬ノ艦團其ノ他各部ニ復歸セシメ之ヲ海軍教育本部長ニ報告スヘシ

第二十二條 校長ハ本則第二十條第二十一條ニ該當スル者アルトキハ之ヲ在籍鎮守府ノ人事部長ニ通知シ人事部長ハ其ノ誓約書ヲ本人ニ返付スヘシ

第二十三條 練習生卒業シタルトキハ左ノ區別ニ從ヒ證狀ヲ授與ス

一 普通科砲術練習生ハ 普通科掌砲證狀

二 高等科砲術練習生ハ 高等科掌砲證狀

掌砲證狀ハ卒業ノ成績ニ依リ各之ヲ一等二等ニ分ツ

第二十四條 練習生卒業シタルトキハ各其ノ前所屬ノ艦團其ノ他各部ニ復歸セシムヘシ

但シ在籍鎮守府司令長官ノ請求アルトキハ其ノ指定ノ艦團其ノ他各部ニ轉勤セシムルコトヲ得

第二十五條 本則第二十一條第二十四條ニ依リ復歸セシムヘキ前所屬艦團各部外國又ハ遠隔ノ地ニ在ルカ或ハ艦艇ニシテ所在不定ナルトキハ之ヲ在籍鎮守府ノ海兵團ニ入團セシムルコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ之ヲ前所屬ノ艦團其ノ他各部ノ長ニ通知スヘシ

第二十六條 本則第二十條第二十一條第二十四條第二十五條ニ依リ艦團其ノ他各部ニ復歸若ハ轉勤セシムヘキ者又ハ在籍鎮守府ノ海兵團ニ入團セシムヘキ者ニシテ事故アリテ出發セシムルコト能ハサルトキハ最近ノ海兵團ニ入團セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ各其ノ前所屬ノ艦團其ノ他各部ノ長ニ通知スヘシ

第二十七條 二等掌砲證狀ヲ有シ二箇年以上ヲ經過シ實務ノ成績優等ト認ムル者アルトキハ所轄長ニ於テ適當ナル檢定試験ヲ行ヒ其ノ試験問題及答解書ノ實業ニ在リテハ其並所見表別表第一添

ハ海軍砲術學校長ニ一等掌砲證狀授與ノ請求ヲ爲スヘシ  
校長前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ銓衡ノ上一等證狀ヲ授與スルコトヲ得  
前項ニ依リ證狀ヲ授與セラレタル者アリタルトキハ所轄長ハ本人在籍鎮守府司令長官ニ、校長ハ海軍教育本部長ニ之ヲ報告スヘシ

第二十八條 所轄長ハ海軍特修兵條例第七條ニ依リ證狀ヲ視奪シタルトキハ之ヲ本人在籍鎮守府司令長官ニ報告スルト同時ニ海軍砲術學校長ニ通知シ校長ハ之ヲ海軍教育本部長ニ報告スヘシ

第二十九條 海軍砲術學校學生練習生海軍豫備生徒タル商船學校學生及臨時講習科ヲ履修スル者入校シタルトキハ校長ハ之ヲ海軍教育本部長ニ報告スヘシ

第三十條 海軍砲術學校學生練習生ハ校内ニ起臥セシメ臨時講習科ヲ履修スル者ハ通學又ハ校内ニ起臥セシム但シ學生ハ場合ニ依リ通學セシムルコトヲ得  
海軍豫備生徒タル商船學校學生ハ通學セシム

第三十一條 校長ハ海軍各學校學生練習生ニシテ本校ニ於テ修學スル者アルトキハ其ノ修學ヲ終リタル後成績ヲ各其ノ所屬學校長ニ通報スヘシ

第三十二條 毎年八月一日ヨリ八月三十一日迄ヲ夏季休業トシ十二月二十一日ヨリ翌年一月九日迄ヲ冬季休業トス但シ校長ハ教務ノ都合ニ依リ海軍教育本部長ノ認可ヲ經テ此ノ時期ヲ多少伸

縮變更スルコトヲ得

第三十三條 海軍砲術學校學生練習生ノ修業期間ヲ左ノ如ク種別ス但シ時宜ニ依リ多少伸縮セシムルコトアルヘシ

- 一 高等科學生 六箇月
  - 二 普通科學生 四箇月乃至六箇月
  - 三 特修科學生 四箇月乃至六箇月
  - 四 高等科砲術練習生 六箇月
  - 五 普通科砲術練習生 七箇月
  - 六 商船學校學生 四箇月
- 第三十四條 戰時又ハ事變ニ際シ必要ト認ムルトキハ海軍大臣ハ練習生ノ教育ヲ中止シテ之ヲ退學セシムルコトアルヘシ

附則

第三十五條 本則ハ明治四十三年六月一日ヨリ之ヲ實施ス

第三十六條 従前ノ掌砲證狀ハ之ヲ本則ノ證狀ト看做ス

第三十七條 本則實施ノ際現ニ海軍砲術學校ニ在學スル練習生ハ總テ之ヲ本則ニ依ル練習生ト看做ス

(別表第一)

海軍砲術學校練習生候補者所見表

普通(高等)科砲術練習生ト爲スヘキ者カ又ハ二等證狀ヨリ一等證狀ニ進ムヘキ者カ此ノ所ニ記入スヘシ

身	體	眼力(視力ノ程度ヲモ併記シ身體検査ヲ爲シタル取附官ノ捺印ヲ要ス)	入籍	新番	官職氏名及年齢
---	---	----------------------------------	----	----	---------

海軍武官考課表規則ニ準シ記入スヘシ

見所	分隊長(艇長)										服役年數	現役滿期ノ年月日ヲ記ス(但シ海軍砲術學校規則第十六條第十七條ニ依リ卒業後四箇年三箇年)	善行章行狀	證狀等級及授與年月日	賞罰			
	學理	業務	實業			學性	品行	品性	功勞	勳章								
			評	業	注											砲銃射擊	技能	勳章
年月日	學理	業務	評	業	注	砲銃射擊	技能	勳章	功勞	勳章	功勞	勳章	功勞	勳章	功勞	勳章	功勞	勳章
分隊長(艇長) 官 氏 名 ㊟	學理	業務	評	業	注	砲銃射擊	技能	勳章	功勞	勳章	功勞	勳章	功勞	勳章	功勞	勳章	功勞	勳章

見所長轄所	見所長轄所
年月日	年月日
所轄長 官 氏 名	砲術長(副砲術長) 官 氏 名

(別表第二)

服役誓約書

今般普通科(高等科)砲術練習生ニ御採用相成候ニ就テハ海軍砲術學校規則第十六條(第十七條)ニ依リ卒業後四年(三年)以上誓テ服役可仕候也

明治 年 月 日

入籍番號

官(職)

氏

名

海軍砲術學校長殿

○海軍省達第五十六號

海軍水雷學校規則左ノ通改正ス

明治四十三年五月三十日

海軍大臣 男爵齋藤實

海軍水雷學校規則

第一條 校長ハ教務規程其ノ他執務ニ關スル細則ヲ設ケ海軍教育本部長ノ認可ヲ經テ之ヲ實施ス

第二條 海軍水雷學校ノ紀律ハ軍艦ノ例ニ準ス

第三條 海軍水雷學校ノ職員文官及雇員ハ校内ニ起臥スルモノトス

第四條 校長ハ水雷術及電信術ノ事ニ關シテハ努メテ海軍各部ト連絡ヲ保チ教官以下ヲシテ絶エ

第五條 校長ハ操式教範其ノ他水雷術電信術ノ事ニ關シテ改正又ハ制定ヲ要スト認メタルトキハ案

第六條 校長ハ學生練習生ノ終業期ニ於テ教官ヲ會同シ教育ノ經過成績及進歩並學生練習生ニ

第七條 校長ハ學生練習生ノ終業期ニ於テ學生ノ學業考課表ヲ調製シ又學生練習生ノ卒業成績表

第八條 校長ハ學生練習生ノ卒業式ヲ舉行セントスルトキハ海軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第九條 校長ハ前年四月一日以後其ノ年三月末日迄ノ教育報告ヲ作り意見ヲ附シ四月末日迄ニ海

軍教育本部長ニ進達スヘシ

第十條 校長ハ翌會計年度中ニ於ケル學生練習生ノ出入期日ヲ豫定シ毎年一月末日迄ニ海軍教育

本部長ニ進達スヘシ

第十一條 海軍水雷學校條例第十五條第三號ニ依リ特修科學生ヲランコトヲ志願スル者ハ將校ニ

第十二條 兵曹長上等兵曹ヲ特修科學生ニ採用スヘキ員數及時期ハ海軍大臣之ヲ告達ス

鎮守府司令長官ハ前項ノ告達ニ從ヒ前條ノ出願者中ヨリ選拔シタル者及其ノ鎮守府在籍ノ兵曹

長上等兵曹ニシテ特ニ水雷術又ハ電信術ヲ修習セシムルノ必要アリト認メタル者ニ海軍水雷學校特修科學生ヲ命シ其ノ八名ヲ海軍大臣ニ報告シ同時ニ之ヲ海軍教育本部長ニ通報スヘシ

第十三條 特修科學生タル兵曹長上等兵曹卒業シタルトキハ各其ノ在籍鎮守府ニ復歸セシムヘシ  
第十四條 海軍教育本部長臨時講習科ヲ設クルノ必要ヲ認メタルトキハ講習員ノ範圍其ノ科目及期限ヲ定メ海軍大臣ニ具申スヘシ

講習員ノ召集ハ海軍大臣之ヲ告達ス  
講習終ルトキハ校長ハ之ヲ海軍教育本部長ニ報告スヘシ

第十五條 練習生ヲ左ノ四種ニ區別ス

- 一 普通科水雷術練習生
- 二 高等科水雷術練習生
- 三 普通科電信術練習生
- 四 高等科電信術練習生

第十六條 普通科水雷術練習生ハ海軍一、二等水兵及進級停年ヲ超過シタル海軍二等水兵ニシテ左ノ諸號ニ適合スル者ノ中ヨリ之ヲ選拔ス

- 一 身體強健視力聽力完全ニシテ品行方正ナル者
  - 二 掌水雷兵ト爲スニ適當ナル技能學力ヲ有スト認ムル者
  - 三 卒業後四箇年以上現役ニ服スヘキ者又ハ服スヘキコトヲ誓約スル者
- 第十七條 高等科水雷術練習生ハ海軍兵曹及進級停年ヲ超過シタル海軍一等水兵ニシテ普通科一等掌水雷證狀ヲ有シ左ノ諸號ニ適合スル者ノ中ヨリ之ヲ選拔ス
- 一 身體強健視力聽力完全ニシテ品行方正ナル者
  - 二 掌水雷ノ要務ヲ執ラシムルニ適當ナル技能學力ヲ有スト認ムル者

三 普通科一等掌水雷證狀ヲ授與シタル日ヨリ一箇年以上勤務ニ服シタル者

四 卒業後三箇年以上現役ニ服スヘキ者又ハ服スヘキコトヲ誓約スル者

第十八條 普通科電信術練習生ハ海軍一等水兵以下三等水兵以上ニシテ左ノ諸號ニ適合スル者ノ中ヨリ之ヲ選拔ス

- 一 身體強健視力聽力完全ニシテ品行方正ナル者
  - 二 稟性鋭敏ニシテ理解力ニ富ミ技術發達ノ見込アル者
  - 三 海軍三等水兵ヲ命セラレタル日ヨリ六箇月以上海上勤務ニ服シタル者
  - 四 卒業後四箇年以上現役ニ服スヘキ者又ハ服スヘキコトヲ誓約スル者
- 第十九條 高等科電信術練習生ハ海軍兵曹一、二等水兵ニシテ普通科一等掌電信證狀ヲ有シ左ノ諸號ニ適合スル者ノ中ヨリ之ヲ選拔ス
- 一 身體強健視力聽力完全ニシテ品行方正ナル者
  - 二 掌電信ノ要務ヲ執ラシムルニ適當ナル技能學力ヲ有スト認ムル者
  - 三 卒業後三箇年以上現役ニ服スヘキ者又ハ服スヘキコトヲ誓約スル者

第二十條 練習生ニ採用スヘキ員數ハ鎮守府毎ニ區分シ毎年十二月海軍大臣之ヲ告達ス

普通科水雷術(電信術)練習生ヲ採用スルニハ海軍教育本部長ハ前項ノ告達ニ基キ便宜數回ニ分チ採用員數及入校期限ヲ定メ之ヲ各鎮守府司令長官ニ通知スヘシ  
鎮守府司令長官ハ前項ノ通知ニ從ヒ艦團其ノ他各部(當該鎮守府在籍下士卒ノ勤務スルモノニ在リテハ其ノ所屬ノ如何ヲ問ハス)以下級之ノ長ヲシテ練習生志願者ニ就キ海軍教育本部長ノ定ムル試験標準ニ依リ試験ヲ行ヒ普通科水雷術練習生ニ在リテハ本則第十六條ニ普通科電信術練習生ニ在リテハ本則第十八條ニ適合スル者ヲ選拔シ其ノ員數ヲ具申セシムヘシ  
鎮守府司令長官ハ前項ノ具申ニ基キ採用スヘキ員數ヲ定メ入校期限ト共ニ之ヲ艦團其ノ他各部

ノ長ニ達ス艦團其ノ他各部ノ長ハ更ニ選抜ヲ行ヒ採用スヘキ者ヲ決定シ所見表第一ヲ添ヘ之ヲ校長ニ通知シ期日内ニ入校セシムヘシ

鎮守府司令長官ハ前項ニ依リ練習生ノ採用員數ヲ定メタルトキハ其ノ候補者ノ總數及採用員數ヲ海軍水雷學校長ニ通知スヘシ

高等科水雷術(電信術)練習生ヲ採用スルニハ海軍教育本部長ハ本條第一項ノ告達ニ基キ便宜數回ニ分チ採用員數及其ノ候補者選出期限ヲ定メテ之ヲ各鎮守府司令長官ニ通知スヘシ

鎮守府司令長官ハ前項ノ通知ニ從ヒ艦團其ノ他各部ノ長ヲシテ高等科水雷術練習生ニ在リテハ本則第十七條ニ、高等科電信術練習生ニ在リテハ本則第十九條ニ適合スル者ヲ選抜シ選抜順序ヲ附シ所見表第一ト共ニ選出期限内ニ校長ニ通知セシム校長ハ告達員數以内ニ於テ更ニ選抜ヲ行ヒ其ノ採用人名及所屬ヲ海軍教育本部長ニ報告スヘシ

海軍教育本部長ハ前項ノ報告ニ依リ入校期限ヲ定メテ之ヲ鎮守府司令長官ニ通知スヘシ

鎮守府司令長官ハ前項ノ通知ニ從ヒ艦團其ノ他各部ノ長ヲシテ期日内ニ入校セシムヘシ

第二十一條 校長ハ練習生入校シタルトキハ本則第十七條乃至第十九條ニ依リ誓約書第一表ヲ徴シ之ヲ在籍鎮守府ノ人事部長ニ移牒スヘシ

第二十二條 練習生ニシテ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ卒業ノ見込ナキトキハ校長之ヲ免シ各其ノ在籍鎮守府ノ海兵團ニ入團セシメ且之ヲ各其ノ前所屬ノ艦團其ノ他各部ノ長ニ通知シ海軍教育本部長ニ報告スヘシ

第二十三條 練習生ニシテ怠慢又ハ品行不正等ノ爲練習生タルニ不適當ト認ムル者ハ校長之ヲ免シ理由ヲ附シ各其ノ前所屬ノ艦團其ノ他各部ニ復歸セシメ之ヲ海軍教育本部長ニ報告スヘシ

第二十四條 校長ハ本則第二十二條第二十三條ニ該當スル者アルトキハ之ヲ在籍鎮守府ノ人事部長ニ通知シ人事部長ハ其ノ誓約書ヲ本人ニ返付スヘシ

第二十五條 水雷術練習生卒業シタルトキハ左ノ區別ニ從ヒ證狀ヲ授與ス

一 普通科水雷術練習生ハ 普通科掌水雷證狀

二 高等科水雷術練習生ハ 高等科掌水雷證狀

掌水雷證狀ハ卒業ノ成績ニ依リ各之ヲ一等二等ニ分ツ

第二十六條 電信術練習生卒業シタルトキハ左ノ區別ニ從ヒ證狀ヲ授與ス

一 普通科電信術練習生ハ 普通科掌電信證狀

二 高等科電信術練習生ハ 高等科掌電信證狀

掌電信證狀ハ卒業ノ成績ニ依リ各之ヲ一等二等ニ分ツ

第二十七條 練習生卒業シタルトキハ各其ノ前所屬ノ艦團其ノ他各部ニ復歸セシムヘシ但シ在籍鎮守府司令長官ノ請求アルトキハ其ノ指定ノ艦團其ノ他各部ニ轉勤セシムルコトヲ得

第二十八條 本則第二十三條第二十七條ニ依リ復歸セシムヘキ前所屬艦團各部外國又ハ遠隔ノ地ニ在ルカ或ハ艦艇ニシテ所在不定ナルトキハ之ヲ在籍鎮守府ノ海兵團ニ入團セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ前所屬ノ艦團其ノ他各部ノ長ニ通知スヘシ

第二十九條 本則第二十二條第二十三條第二十七條第二十八條ニ依リ艦團其ノ他各部ニ復歸若ハ轉勤セシムヘキ者又ハ在籍鎮守府ノ海兵團ニ入團セシムヘキ者ニシテ事故アリテ出發セシムルコト能ハサルトキハ最近ノ海兵團ニ入團セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ各其ノ前所屬ノ艦團其ノ他各部ノ長ニ通知スヘシ

第三十條 二等掌水雷證狀若ハ二等掌電信證狀ヲ有シ二箇年以上ヲ經過シ實務ノ成績優等ト認ムル者アルトキハ所屬長ニ於テ適當ナル檢定試験ヲ行ヒ其ノ試験問題及答解書其ノ作業ノ實況詳細所見表第一ヲ添ヘ海軍水雷學校長ニ一等掌水雷證狀若ハ一等掌電信證狀授與ノ請求ヲ爲スヘシ

校長前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ銓衡ノ上一等證狀ヲ授與スルコトヲ得  
前項ニ依リ證狀ヲ授與セラレタル者アリタルトキハ所轄長ハ本人在籍鎮守府司令長官ニ校長  
ハ海軍教育本部長ニ之ヲ報告スヘシ

第三十一條 所轄長ハ海軍特修兵條例第七條ニ依リ證狀ヲ授與シタルトキハ之ヲ本人在籍鎮守府  
司令長官ニ報告スルト同時ニ海軍水雷學校長ニ通知シ校長ハ之ヲ海軍教育本部長ニ報告スヘシ  
第三十二條 海軍水雷學校學生練習生及臨時講習科ヲ履修スル者入校シタルトキハ校長ハ之ヲ海  
軍教育本部長ニ報告スヘシ

第三十三條 海軍水雷學校學生練習生ハ校內ニ起臥セシメ臨時講習科ヲ履修スル者ハ通學又ハ校  
內ニ起臥セシム但シ學生ハ場合ニ依リ通學セシムルコトヲ得

第三十四條 校長ハ海軍各學校學生練習生ニシテ本校ニ於テ修學スル者アルトキハ其ノ修學ヲ終  
リタル後成績ヲ各其ノ所屬學校長ニ通報スヘシ

第三十五條 毎年八月一日ヨリ八月三十一日迄ヲ夏季休業トシ十二月二十一日ヨリ翌年一月九日  
迄ヲ冬期休業トス但シ校長ハ教務ノ都合ニ依リ海軍教育本部長ノ認可ヲ經テ此ノ時期ヲ多少伸  
縮變更スルコトヲ得

第三十六條 海軍水雷學校學生練習生ノ修業期間ヲ左ノ如ク種別ス但シ時宜ニ依リ多少伸縮セシ  
ムルコトアルヘシ

- 一 高等科學生 六箇月
- 二 普通科學生 四箇月乃至六箇月
- 三 特修科學生 四箇月乃至六箇月
- 四 高等科水雷術練習生 六箇月
- 五 普通科水雷術練習生 六箇月

六 高等科電信術練習生 六箇月  
七 普通科電信術練習生 一箇年  
第三十七條 戰時又ハ事變ニ際シ必要ト認ムルトキハ海軍大臣ハ練習生ノ教育ヲ中止シテ之ヲ退  
學セシムルコトアルヘシ

附 則

第三十八條 本則ハ明治四十三年六月一日ヨリ之ヲ實施ス

第三十九條 従前ノ掌水雷證狀ハ之ヲ本則ノ掌水雷證狀ト看做ス

第四十條 本則實施ノ際現ニ普通科一等又ハ二等掌信證狀ヲ有スル者ハ本則ノ普通科一等又ハ  
二等掌信證狀ヲ授與セラレタル者ト看做シ現ニ高等科一等又ハ二等掌信證狀ヲ有スル者ハ本  
則ノ高等科一等又ハ二等掌信證狀ヲ授與セラレタル者ト看做ス

現ニ高等科一等又ハ二等掌信證狀ヲ有スル者ニシテ高等科信術練習規則第二十七條ニ依リ檢  
定試験ノ結果高等科掌信證狀ヲ授與セラレサル者ハ本則ノ高等科一等又ハ二等掌信證狀ヲ  
授與セラレタル者ト看做ス

第四十一條 本則實施ノ際現ニ高等科又ハ普通科掌水雷證狀ヲ有シ特ニ電信術ニ長スト認ムル者  
アルトキハ所轄長ハ海軍水雷學校練習生候補者ノモトニ準シ所見表ヲ作り明治四十三年七月三  
十一日迄ニ之ヲ海軍水雷學校長ニ送附スヘシ但シ艦船外國派遣中ニ係リ本項ノ期日内ニ送附ス  
ルコト能ハサル場合ニ於テハ成ルヘク速ニ此ノ手續ヲ爲スヘシ

海軍水雷學校長ハ試験期日ヲ指定シ檢定問題ヲ當該所轄長ニ送附スヘシ  
所轄長ハ海軍水雷學校長ノ指定スル期日ニ於テ同校長ノ送附シタル問題ヲ用ヒ檢定試験ヲ行ヒ  
其ノ答案ヲ同校長ニ送附スヘシ  
海軍水雷學校長ハ前項ノ答案ヲ審査シ銓衡ノ上適當ト認ムルトキハ之ニ高等科一等又ハ二等掌

電信證狀若ハ普通科一等又ハ二等電信證狀ヲ授與スヘシ  
 海軍水雷學校長前項ニ依リ證狀ヲ授與シタルトキハ之ヲ本人ノ在籍鎮守府司令長官ニ通報スル  
 ト同時ニ海軍教育本部長ニ報告スヘシ  
 第四十二條 本則實施ノ際現ニ海軍水雷學校ニ在學スル水雷術練習生ハ總テ之ヲ本則ニ依ル水雷  
 術練習生ト看做ス  
 第四十三條 本則實施ノ際現ニ海軍水雷學校ニ在學スル普通科通信術練習生ハ之ヲ普通科電信術  
 練習生、高等科通信術練習生ハ之ヲ高等科電信術練習生ト看做ス  
 前項ノ練習生ノ中適當ト認ムル者アルトキハ高等科信號術練習規則第三條ニ適合スル者ニ限リ  
 海軍水雷學校長ハ橫須賀海兵團長ト合議ノ上之ニ高等科信號術練習生ヲ命シ橫須賀海兵團ニ入  
 シレムルコトヲ得  
 前項ノ場合ニ於テハ海軍水雷學校長ハ之ヲ本人ノ在籍鎮守府司令長官及本人前所屬ノ艦團其ノ  
 他各部ノ長ニ通報シ同時ニ海軍教育本部長ニ報告シ橫須賀海兵團長ハ之ヲ橫須賀鎮守府司令長  
 官ヲ經テ海軍大臣ニ報告スヘシ  
 第四十四條 本則改正以前ニ授與セラレタル普通科電信證狀ヲ有シ高等科電信術練習生ヲ命セ  
 ラレタル者ニ限リ其ノ修業期間ヲ一箇年迄延長スルコトヲ得  
 第四十五條 當分ノ内海軍水雷學校ニ於テ掌電機兵ヲ養成ス但シ之ニ關シテハ海軍工機學校規則  
 ノ規定ヲ準用ス  
 (別表第一)

海軍水雷學校練習生候補者所見表  
(普通(高等)科水雷術(電信術)練習生ト  
 爲スヘキ者カ又ハ二等證狀ヨリ一等證  
 狀ニ進ムヘキ者カ此ノ所ニ記スヘシ)  
 身 體 視力聴力ノ程度ヲモ併記シ身體検査ヲ爲  
 シタル軍醫官ノ捺印ヲ要ス 入籍 番號  
 官職氏名及年齡

海軍武官考課表規則ニ準シ記入スヘシ

見 所 (長 艇) 長 隊 分	學 理	務 業	實 績	性 質	品 行	服 役 年 數	證 狀 等 級 及 授 與 年 月 日	賞 罰
							現 役 滿 期 ノ 年 月 日	
							記 入	
年 月 日	方 力	點 務	水 雷 發 射 電 信	勤 怠	行 爲	現 役 滿 期 ノ 年 月 日	記 入	
分隊長(艇長) 官 氏 名	優 越 劣 ノ 三 種 ニ 區 分 ス	實 績 評 點 規 定 ニ 準 シ 記 入 ス				但シ海軍水雷學校規則第十六條第十七條第十八條 <small>(第十九條ニ依リ本表後四箇年三箇年二箇年一箇年ノ間ニ於テ        此ノ所ニ記スヘキ者ハ其ノ修業期間ノ満了ノ日ニ於テ        記入スヘシ)</small>		
	讀 書 數 學 作 文 ノ 試 驗 成 績 ヲ 百 分 比 ニ テ 記 入 シ 入 籍 前 ニ 於 ケ ル 學 校 ノ 修 業 程 度 ヲ 記 入 ス							



見所長總所	見所長總所
年月日	年月日
所轄長	水雷長(驅逐艦長)
官 氏 名	官 氏 名

(別表第二)

服役誓約書

某儀

今般普通科(高等科)水雷術(電信術)練習生ニ御採用相成候ニ就テハ海軍水雷學校規則第十六條(第十七條(第十八條(第十九條)ニ依リ卒業後四箇年(三箇年)以上誓テ服役可仕候也

明治 年 月 日

入籍番號

官(職)

氏

名

海軍水雷學校長殿

○海軍省達第五十七號  
海軍工機學校規則左ノ通改正ス

明治四十三年五月三十日

海軍大臣 男齋藤實

海軍工機學校規則

第一條 校長ハ教務規程其ノ他執務ニ關スル細則ヲ設ケ海軍教育本部長ノ認可ヲ經テ之ヲ實施ス

第二條 海軍工機學校ノ規律ハ軍艦ノ例ニ準ス

第三條 海軍工機學校ノ職員文官及雇員ハ校内ニ起臥スルモノトス

第四條 校長ハ機關術其ノ他技術工藝ノ事ニ關シテハ努メテ海軍各部ト連絡ヲ保チ教官以下ヲシテ絶ニス之カ調査研究ニ從事セシメ又艦團其ノ他各部ヨリノ質疑ニ應スルコトヲ得

第五條 校長ハ操式教範其ノ他機關術等ノ事ニ關シ改正又ハ制定ヲ要スト認メタルトキハ案ヲ具シテ海軍教育本部長ニ提出スヘシ

第六條 校長ハ學生練習生ノ終業期ニ於テ教官ヲ會同シ教育ノ經過、成績及進歩並學生練習生ニ關スル事項ヲ考査シ之カ記録ヲ整理保存スヘシ

第七條 校長ハ學生練習生ノ終業期ニ於テ學生ノ學業考課表ヲ調製シ又學生練習生ノ卒業成績表ニ意見ヲ附シ試験問題ト共ニ海軍教育本部長ニ進達スヘシ

第八條 校長ハ學生練習生ノ卒業式ヲ舉行セントスルトキハ海軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第九條 校長ハ前年四月一日以後其ノ年三月末日迄ノ教育報告ヲ作り意見ヲ附シ四月末日迄ニ海軍教育本部長ニ進達スヘシ

第十條 校長ハ翌會計年度中ニ於ケル學生練習生ノ出入期日ヲ豫定シ毎年一月末日迄ニ海軍教育本部長ニ進達スヘシ

第十一條 海軍工機學校條例第十五條第二號ニ依リ特修科學生ヲランコトヲ志願スル者ハ機關官ニ在リテハ海軍大臣ニ、機關兵曹長船匠長上等機關兵曹及船匠師ニ在リテハ在籍鎮守府司令長官ニ各順序ヲ經テ願書ヲ差出スヘシ

第十二條 機關兵曹長船匠長上等機關兵曹船匠師ヲ特修科學生ニ採用スヘキ員數及時期ハ海軍大臣之ヲ告達ス

鎮守府司令長官ハ前項ノ告達ニ從ヒ前條ノ出願者中ヨリ選抜シタル者及其ノ鎮守府在籍ノ機關兵曹長船匠長上等機關兵曹船匠師ニシテ特ニ機關術又ハ其ノ他ノ技術工藝ヲ修習セシムルノ必要アリト認メタル者ニ海軍工機學校特修科學生ヲ命シ其ノ人名ヲ海軍大臣ニ報告シ同時ニ之ヲ海軍教育本部長ニ通報スヘシ

第十三條 特修科學生タル機關兵曹長船匠長上等機關兵曹船匠師卒業シタルトキハ各其ノ在籍鎮守府ニ復歸セシムヘシ

第十四條 海軍教育本部長臨時講習科ヲ設クルノ必要ヲ認メタルトキハ講習員ノ範圍其ノ科目及期限ヲ定メ海軍大臣ニ具申スヘシ

講習員ノ召集ハ海軍大臣之ヲ告達ス  
講習終ルトキハ校長ハ之ヲ海軍教育本部長ニ報告スヘシ

第十五條 練習生ヲ左ノ六種ニ區別ス

- 一 普通科掌機練習生
- 二 高等科掌機練習生
- 三 普通科掌電機練習生
- 四 高等科掌電機練習生
- 五 掌工練習生
- 六 船匠練習生

第十六條 普通科掌機練習生及普通科掌電機練習生ハ海軍一二等機關兵及進級停年ヲ超過シタル海軍三等機關兵ニシテ左ノ諸號ニ適合スル者ノ中ヨリ之ヲ選抜ス

- 一 身體強健視力聴力完全ニシテ品行方正ナル者
- 二 掌機兵又ハ掌電機兵ト爲スニ適當ナル技能學力ヲ有スト認ムル者

三 卒業後四箇年以上現役ニ服スヘキ者又ハ服スヘキコトヲ誓約スル者

第十七條 高等科掌機練習生ハ普通科一等掌機證狀ヲ有スル海軍機關兵曹高等科掌電機練習生ハ普通科一等掌電機證狀ヲ有スル海軍機關兵曹ニシテ各左ノ諸號ニ適合スル者ノ中ヨリ之ヲ選抜ス

- 一 身體強健視力聴力完全ニシテ品行方正ナル者
- 二 掌機又ハ掌電機ノ要務ヲ執ラシムルニ適當ナル技能學力ヲ有スト認ムル者
- 三 普通科一等掌機證狀又ハ普通科一等掌電機證狀ヲ授與シタル日ヨリ一箇年以上勤務ニ服シタル者
- 四 卒業後三箇年以上現役ニ服スヘキ者又ハ服スヘキコトヲ誓約スル者

第十八條 掌工練習生ハ海軍一等機關兵以下三等機關兵以上ニシテ左ノ第一第二第三號又ハ第一第二第四號ニ適合スル者ノ中ヨリ之ヲ選抜ス

- 一 身體強健視力聴力完全ニシテ品行方正ナル者
- 二 掌工兵ト爲スニ適當ナル技能ヲ有スト認ムル者
- 三 卒業後四箇年以上現役ニ服スヘキ者又ハ服スヘキコトヲ誓約スル者
- 四 工業伎倆ノ素養優等ニシテ卒業後二箇年以上現役ニ服スヘキ者又ハ服スヘキコトヲ誓約スル者

第十九條 船匠練習生ハ海軍三等船匠手以下二等木工以上及進級停年ヲ超過シタル海軍三等木工ニシテ左ノ諸號ニ適合スル者ノ中ヨリ之ヲ選抜ス

- 一 身體強健視力聴力完全ニシテ品行方正ナル者
- 二 船匠術ノ實修ヲ爲スニ適當ナル技能學力ヲ有スト認ムル者
- 三 卒業後四箇年以上現役ニ服スヘキ者又ハ服スヘキコトヲ誓約スル者

第二十條 練習生ニ採用スヘキ員數ハ鎮守府毎ニ區分シ毎年十二月海軍大臣之ヲ告達ス  
 普通科掌機(掌電機)練習生、掌工練習生及船匠練習生ヲ採用スルニハ海軍教育本部長ハ前項ノ  
 告達ニ基キ便宜數回ニ分チ採用員數及入校期限ヲ定メ之ヲ各鎮守府司令長官ニ通知スヘシ  
 鎮守府司令長官ハ前項ノ通知ニ從ヒ艦團其ノ他各部(當該鎮守府在籍下士卒ノ勤務スルモノニ在  
 ノ長ヲシテ練習生志願者ニ就キ海軍教育本部長ノ定ムル試驗標準ニ依リ試驗ヲ行ヒ普通科掌機  
 (掌電機)練習生ニ在リテハ本則第十六條、掌工練習生ニ在リテハ本則第十八條船匠練習生ニ在  
 リテハ本則第十九條ニ適合スル者ヲ選抜シ其ノ員數ヲ具申セシムヘシ但シ本則第十八條第四號  
 ニ該當スル練習生採用ノ場合ニ在リテハ特ニ試驗ヲ行ハス海軍五等卒教育規則第十條及本則第  
 四十條ニ定ムル工業技術標準合格ノ者ニ就キ選抜ヲ行フモノトス  
 鎮守府司令長官ハ前項ノ具申ニ基キ採用スヘキ員數ヲ定メ入校期限ト共ニ之ヲ艦團其ノ他各部  
 ノ長ニ達ス艦團其ノ他各部ノ長ハ更ニ選抜ヲ行ヒ採用スヘキ者ヲ決定シ所見表別表第一ヲ添ヘ之ヲ  
 校長ニ通知シ期日內ニ入校セシムヘシ  
 鎮守府司令長官ハ前項ニ依リ練習生ノ採用員數ヲ定メタルトキハ其ノ候補者ノ總數及採用員數  
 ヲ海軍工機學校長ニ通知スヘシ  
 高等科掌機(掌電機)練習生ヲ採用スルニハ海軍教育本部長ハ本條第二項ノ告達ニ基キ便宜數回  
 ニ分チ採用員數及其ノ候補者選出期限ヲ定メテ之ヲ各鎮守府司令長官ニ通知スヘシ  
 鎮守府司令長官ハ前項ノ通知ニ從ヒ艦團其ノ他各部ノ長ヲシテ本則第十七條ニ適合スル者ヲ選  
 拔シ選抜順序ヲ附シ所見表別表第一ト共ニ選出期限內ニ校長ニ通知セシム校長ハ告達員數以內ニ於  
 テ更ニ選抜ヲ行ヒ其ノ採用人名及所屬ヲ海軍教育本部長ニ報告スヘシ  
 海軍教育本部長ハ前項ノ報告ニ依リ入校期限ヲ定メテ之ヲ鎮守府司令長官ニ通知スヘシ  
 鎮守府司令長官ハ前項ノ通知ニ從ヒ艦團其ノ他各部ノ長ヲシテ期日內ニ入校セシムヘシ

第二十一條 校長ハ練習生入校シタルトキハ本則第十六條乃至第十九條ニ依リ誓約書別表ヲ徵  
 シ之ヲ在籍鎮守府ノ人事部長ニ移牒スヘシ  
 第二十二條 掌工兵ト爲スヘキ練習生入校シタルトキハ校長ハ所要ニ從ヒ各自ノ所見表ニ鑑ミ鍛  
 冶工術機械工術銅鐵工術若ハ兵器工術ノ專修ヲ命スヘシ  
 校長ハ本則第十八條第四號ニ該當スル練習生入校シタルトキハ其ノ素養程度ニ應シ本則第四十  
 條ニ指定セル範圍內ニ於テ修業期間ヲ定メ之ヲ海軍教育本部長ニ報告スヘシ  
 第二十三條 練習生ニシテ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ卒業ノ見込ナキトキハ校長之ヲ免シ各其ノ  
 在籍鎮守府ノ海兵團ニ入團セシメ且之ヲ各其ノ前所屬ノ艦團其ノ他各部ノ長ニ通知シ海軍教育  
 本部長ニ報告スヘシ  
 第二十四條 練習生ニシテ怠慢又ハ品行不正等ノ爲練習生タルニ不適當ト認ムル者ハ校長之ヲ免  
 シ理由ヲ附シ各其ノ前所屬ノ艦團其ノ他各部ニ復歸セシメ之ヲ海軍教育本部長ニ報告スヘシ  
 第二十五條 校長ハ本則第二十三條第二十四條ニ該當スル者アルトキハ之ヲ在籍鎮守府ノ人事部  
 長ニ通知シ人事部長ハ其ノ誓約書ヲ本人ニ返付スヘシ  
 第二十六條 掌機練習生卒業シタルトキハ左ノ區別ニ從ヒ證狀ヲ授與ス  
 一 普通科掌機練習生ハ 普通科掌機證狀  
 二 高等科掌機練習生ハ 高等科掌機證狀  
 掌機證狀ハ卒業ノ成績ニ依リ各之ヲ一等二等二分ツ  
 第二十七條 掌電機練習生卒業シタルトキハ左ノ區別ニ從ヒ證狀ヲ授與ス  
 一 普通科掌電機練習生ハ 普通科掌電機證狀  
 二 高等科掌電機練習生ハ 高等科掌電機證狀  
 掌電機證狀ハ卒業ノ成績ニ依リ各之ヲ一等二等二分ツ

第二十八條 掌工練習生卒業シタルトキハ掌工證狀ヲ授與ス

掌工證狀ハ卒業ノ成績ニ依リ之ヲ一等等ニ分ツ

本則第十八條第四號ニ該當スル掌工練習生卒業シタルトキハ之ニ二證狀ヲ授與ス

第二十九條 船匠練習生卒業シタルトキハ船匠證狀ヲ授與ス

船匠證狀ハ卒業ノ成績ニ依リ之ヲ一等等ニ分ツ

第三十條 練習生卒業シタルトキハ各其ノ前所屬ノ艦團其ノ他各部ニ復歸セシムヘシ但シ在籍

鎮守府司令長官ノ請求アルトキハ其ノ指定ノ艦團其ノ他各部ニ轉勤セシムルコトヲ得

第三十一條 本則第二十四條第三十條ニ依リ復歸セシムヘキ前所屬艦團各部外國又ハ遠隔ノ地ニ

在ルカ或ハ艦艇ニシテ所在不定ナルトキハ之ヲ在籍鎮守府ノ海兵團ニ入團セシムルコトヲ得此

ノ場合ニ於テハ之ヲ前所屬ノ艦團其ノ他各部ノ長ニ通知スヘシ

第三十二條 本則第二十三條第二十四條第三十條第三十一條ニ依リ艦團其ノ他各部ニ復歸若ハ轉

勤セシムヘキ者又ハ在籍鎮守府ノ海兵團ニ入團セシムヘキ者ニシテ事故アリテ出發セシムルコ

ト能ハサルトキハ最近ノ海兵團ニ入團セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ各其ノ前所屬ノ

艦團其ノ他各部ノ長ニ通知スヘシ

第三十三條 二等掌機證狀二等掌電機證狀二等掌工證狀二等船匠證狀ヲ有シ二箇年以上ヲ經過シ

實務ノ成績優等ト認ムル者アルトキハ所轄長ニ於テ適當ナル檢定試験ヲ行ヒ其ノ試験問題及答

解書ノ實業ニ在リテハ其ノ並所見表別表ヲ添ヘ海軍工機學校長ニ一等掌機證狀一等掌電機證狀一

等掌工證狀若ハ一等船匠證狀授與ノ請求ヲ爲スヘシ

校長前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ銓衡ノ上二等證狀ヲ授與スルコトヲ得

前項ニ依リ證狀ヲ授與セラレタル者アリタルトキハ所轄長ハ本人在籍鎮守府司令長官ニ校長

ハ海軍教育本部長ニ之ヲ報告スヘシ

第三十四條 所轄長ハ海軍特修兵條例第七號ニ依リ證狀ヲ褫奪シタルトキハ之ヲ本人在籍鎮守府

司令長官ニ報告スルト同時ニ海軍工機學校長ニ通知シ校長ハ之ヲ海軍教育本部長ニ報告スヘシ

第三十五條 海軍工機學校學生練習生及臨時講習科ヲ履修スル者入校シタルトキハ校長ハ之ヲ海

軍教育本部長ニ報告スヘシ

第三十六條 海軍工機學校學生練習生ハ校内ニ起臥セシメ臨時講習科ヲ履修スル者ハ通學又ハ校

内ニ起臥セシム但シ學生ハ場合ニ依リ通學セシムルコトヲ得

第三十七條 校長ハ海軍各學校學生練習生ニシテ海軍工機學校ニ於テ修學スル者アルトキハ其ノ

修學ヲ終リタル後成績ヲ各其ノ所屬學校長ニ通報スヘシ

第三十八條 毎年八月一日ヨリ八月三十一日迄ヲ夏季休業トシ十二月二十一日ヨリ翌年一月九日

迄ヲ冬季休業トス但シ校長ハ職務ノ都合ニ依リ海軍教育本部長ノ認可ヲ經テ此ノ時期ヲ多少伸

縮變更スルコトヲ得

第三十九條 海軍工機學校學生練習生ノ修業期間ヲ左ノ如ク種別ス但シ時宜ニ依リ多少伸縮セシ

ムルコトアルヘシ

一 普通科學生 六箇月

二 特修科學生 六箇月

三 高等科掌機練習生 六箇月

四 普通科掌機練習生 一箇年

五 高等科掌電機練習生 六箇月

六 普通科掌電機練習生 一箇年

七 掌工練習生 一年六箇月

八 同 六箇月以内

九 船匠練習生

一箇年

第四十條 艦團其ノ他各部ノ長ハ部下機關兵ニシテ工業伎倆ノ素養優等ナリト認メタル者アルトキハ其ノ伎倆ノ査定ヲ最寄海兵團長ニ請求スルコトヲ得

海兵團長前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ海軍五等卒教育規則第十條ニ準シテ其ノ伎倆ヲ査定シ合格不合格ヲ決定シ之ヲ請求所轄長ニ通知スヘシ

艦團其ノ他各部ノ長ハ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ合格ノ者ニ在リテハ各本人ノ履歴表ニ「何々工業、査定標準合格」ノ旨ヲ記入シ之ヲ本人在籍鎮守府司令長官ニ報告シ鎮守府司令長官ハ其ノ工業種別並員數ヲ海軍教育本部長ニ通知スヘシ

第四十一條 戰時又ハ事變ニ際シ必要ト認ムルトキハ海軍大臣ハ練習生ノ教育ヲ中止シテ之ヲ退學セシムルコトアルヘシ

附則

第四十二條 本則ハ明治四十三年六月一日ヨリ之ヲ實施ス

第四十三條 従前ノ掌機證狀、掌電機證狀、掌工證狀及船匠證狀ハ之ヲ本則ノ證狀ト看做ス

海軍機關術練習所條例ニ依リ授與シタル掌機證狀ハ授與ノ日ヨリ起算シ四箇年間仍其ノ效力ヲ有ス

第四十四條 本則實施ノ際現ニ海軍工機學校ニ在學スル練習生及海軍水雷學校ニ在學スル掌電機練習生ハ總テ之ヲ本則ニ依ル練習生ト看做ス

(別表第一)

海軍工機學校練習生候補者所見表

身	體	視力、聴力ノ程度ヲモ併記シ身體検査ヲ爲シタル軍醫官ノ捺印ヲ要ス	入籍番號	官職氏名及年齢
---	---	---------------------------------	------	---------

見所(及)	兄 所 (長 艇) 長 隊 分	品 性 舉 實 務 理 學	置 本 人 選 拔 當 時 ノ 適 否	年 月 日	年 月 日	年 月 日	現 役 期 間 ノ 年 月 日 ヲ 記 入 ス	賞 罰	善 行 事 行 狀	證 狀 等 級 及 授 與 年 月 日	服 役 年 數	分 隊 長 (艇 長)			兄 所 (長 艇) 長 隊 分											
												勤 意	技 能	注 意	勤 助	實 績	評 點	解 力	學 力	職 務	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日
												學工練習生ト爲スヘキ者ニ在リテハ試験ヲ課シタル工作物ノ種類、製作成績、修業シタルニ適スル工業並入籍前ノ就業ノ經歷ヲモ併記スヘシ	實務評點規定ニ準シ記入スヘシ	優、良、劣ノ三種ニ区分スヘシ	體操、算學、作文ノ試験成績(學工練習生ヲ除ク)ヲ各百分比ニテ記入シ入籍前ニ於ケル學校ノ修業程度ヲ記入スヘシ	本人選拔當時ノ適否	年月日	年月日	現役期間ノ年月日ヲ記入ス(但シ海軍工機學校規則第六條ノ規定ニ依リテ在籍前ニ於ケル學校ノ修業程度ヲ記入スヘキ者ハ其ノ在籍前ノ年月日ヲ併記スヘシ)	賞 罰	善 行 事 行 狀	證 狀 等 級 及 授 與 年 月 日	服 役 年 數	分 隊 長 (艇 長)	兄 所 (長 艇) 長 隊 分	兄 所 (長 艇) 長 隊 分
				年月日	年月日	年月日	現役期間ノ年月日ヲ記入ス	賞 罰	善 行 事 行 狀	證 狀 等 級 及 授 與 年 月 日	服 役 年 數	分 隊 長 (艇 長)	兄 所 (長 艇) 長 隊 分	兄 所 (長 艇) 長 隊 分	兄 所 (長 艇) 長 隊 分	兄 所 (長 艇) 長 隊 分										
				年月日	年月日	年月日	現役期間ノ年月日ヲ記入ス	賞 罰	善 行 事 行 狀	證 狀 等 級 及 授 與 年 月 日	服 役 年 數	分 隊 長 (艇 長)	兄 所 (長 艇) 長 隊 分	兄 所 (長 艇) 長 隊 分	兄 所 (長 艇) 長 隊 分	兄 所 (長 艇) 長 隊 分										

明治四十三年五月 達 海軍省第五十七號 海軍工機學校規則

見所長轉所	年月日	所轄長	官	氏	名	名
-------	-----	-----	---	---	---	---

(別表第二)

服役誓約書

某儀

今般普通科掌機練習生(普通科掌機練習生)(高等科掌機練習生)(工機練習生)(船匠練習生)ニ御採用相成候ニ就テハ海軍工機學校規則第十六條(第十七條)(第十八條)(第十九條)ニ依リ卒業後四箇年(三箇年)(二箇年)以上誓テ服役可仕候也

明治 年 月 日

入籍番號

官(職)

氏

名

海軍工機學校長殿

○海軍省達第五十八號  
海軍經理學校規則左ノ通改正ス

明治四十三年五月三十日

海軍大臣 男爵齋藤實

海軍經理學校規則

第一條 校長ハ業務規程其ノ他執務ニ關スル細則ヲ設ケ海軍省經理局長ノ認可ヲ經テ之ヲ實施ス

第二條 校長ハ修業期及學年ノ終ニ於テ學生、生徒及練習生ノ試驗成績表ヲ作り意見ヲ附シ海軍省經理局長ニ提出ス

第三條 校長ハ前年九月十一日ヨリ其ノ年九月十日迄ノ教育報告ヲ作り意見ヲ附シ十月末日迄ニ海軍省經理局長ニ提出ス

第四條 校長ハ前年四月一日ヨリ其ノ年三月三十一日迄ノ教育報告ヲ作り四月三十日迄ニ海軍省經理局長ニ提出ス

第五條 校長ハ學生、生徒及練習生ノ卒業式ヲ舉行セムトスルトキハ海軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六條 海軍經理學校ノ職員(文官及庶員)ハ必要ニ應ニ校內ニ起臥スルモノトス

第七條 甲種學生及選科學生ハ通學トシ乙種學生、丙種學生、生徒及練習生ハ校內ニ起臥セシム

第八條 海軍經理學校ノ紀律ハ軍艦ノ例ニ準ス

第九條 學生ノ修業期ヲ左ノ如ク種別ス但シ時宜ニ依リ多少伸縮セシムルコトアルヘシ

- 一 甲種學生 一箇年
- 二 中少主計タル乙種學生 六箇月
- 三 少主計候補生タル乙種學生 一箇年
- 四 丙種學生 八箇月
- 五 選科學生 約一箇年

前項ノ内甲種學生、選科學生、少主計候補生タル乙種學生ヲ除クノ外其ノ修業期中ニハ夏季及冬季休業日數ヲ算入セス

第十條 選科學生ヲラムコトヲ志願スル者ハ入學後研究セムトスル學科ヲ選擇シ順序ヲ經テ願書ヲ海軍大臣ニ差出スヘシ海軍大臣ハ海軍省經理局長ヲシテ志願者ノ學識性行ニ鑑ミ其ノ所志ヲ遂行シ得ヘキ者タルヤ否ヲ覈査セシム

第十一條 校長ハ選科學生ノ研究學科ニ就キ其ノ指導者ヲ指定スヘシ

第十二條 選科學生ハ終業期ニ於テ自己ノ研究セシ學科ニ就キ研究成績ヲ記述シ之ヲ校長ニ提出

スヘシ校長ハ之ヲ審査シ意見ヲ附シ海軍省經理局長ニ進達スヘシ  
第十三條 校長ハ生徒入學志願者ノ體格検査及學術試験ヲ行ヒ其ノ成績ヲ勘査シ成績順序ヲ定メ海軍省經理局長ニ提出シ其ノ指定ニ依リ豫定ノ人員ニ入校ヲ命ス但シ入校ヲ命スルニ先キ更ニ體格ノ検査ヲ行フヘシ

校長ハ前項但書ニ依リ施行スル體格検査ニ合格セサル者及入校ノ時期ニ後レタル者アルトキハ海軍省經理局長ノ認可ヲ經テ其ノ入校ヲ止メ前ト同一ノ手續ニ依リ之ニ對スル人員ヲ採用ス但シ止ムヲ得サル事情ニ依リ入校ノ期ニ後レタル者ニシテ授業ニ支障ナシト認メタルトキハ之ヲ採用スルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テハ海軍省經理局長ハ速ニ之ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ

第十四條 生徒ノ學年ハ三學年ニ分テ毎年九月十一日ニ始マリ翌年九月十日ニ終ル

第十五條 生徒ニハ第一學年第二學年ノ終ニ大試験ヲ行ヒ第三學年ノ終ニ卒業試験ヲ行フ

第十六條 校長ハ生徒ニ對シ學年中途ニ於テ適宜小試験ヲ行ヒ又學科ニ依リテハ平常ノ實績ニ依リ評點ヲ附與スルコトヲ得

第十七條 生徒大試験ノ得點ニ前條ノ得點ヲ加ヘタルモノヲ以テ該學年ニ於ケル修業成績トス

第十八條 生徒卒業試験ノ得點ニ第三學年ニ於ケル第十六條ノ得點及第一、第二學年ノ修業成績得點ヲ加ヘタルモノヲ以テ卒業成績トス

卒業成績ノ及第落第ハ第三學年ニ於ケル得點ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 校長ハ生徒懲戒規則ヲ定メ海軍省經理局長ノ認可ヲ經テ之ヲ實施スヘシ

第二十條 修業成績優等者ハ品行特ニ善良ニシテ衆人ノ模範トナルヘキ生徒ニハ大試験終了ノ際之ニ學術優等章若ハ品行善良章ヲ與フ

第二十一條 學術優等章ヲ有スル生徒ニシテ修業成績落第ナルガ又ハ品行善良章ヲ有スル生徒ニ

レテ生徒懲戒規則ニ觸ルルコトアルトキハ之ヲ剝奪ス  
第二十二條 生徒修業成績又ハ卒業成績ニ落第シタル者ニシテ小試験等ノ成績又ハ前學年ノ修業成績ヲ考査シ卒業ノ目途アル者ニハ一學年ヲ延期修學セシム但シ卒業試験ニ在リテハ再試験ヲ行フコトヲ得  
傷痕ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ大試験又ハ卒業試験ヲ受ケルコト能ハサル者ハ一學年ヲ延期修業セシム又ハ臨時試験ヲ行フコトヲ得  
前二項ノ場合ニ於テハ校長ハ海軍省經理局長ニ報告シ海軍省經理局長ハ之ヲ海軍大臣ニ進達スヘシ

第二十三條 前條ノ延期ハ一學年ニ止マルト雖傷痕ヲ受ケタル者又ハ自己ノ不攝生ニ依ラサル疾病ニ罹ル者ニシテ學術品行殊ニ優等ナル者ハ特別ノ詮議ニ附スルコトヲ得

第二十四條 海軍經理學校練習生ハ之ヲ左ノ三種ニ區別ス  
一 甲種練習生  
二 乙種練習生  
三 丙種練習生

第二十五條 甲種練習生ハ左ノ諸號ニ適合スル海軍筆記又ハ厨宰ノ中ヨリ之ヲ選拔ス  
一 身體強健ニシテ品行方正ナル者  
二 海軍入籍以來滿二箇年ヲ經過シタル者  
三 卒業後三箇年以上現役ニ服スヘキ者又ハ服スヘキコトヲ誓約スル者  
四 採用試験ニ合格シタル者又ハ乙種練習生效程ヲ卒業シタル者

第二十六條 乙種練習生ハ左ノ諸號ニ適合スル海軍一、二、三等主廚ノ中ヨリ之ヲ選拔ス  
一 身體強健ニシテ品行方正ナル者

二 卒業後三箇年以上現役ニ服スヘキ者又ハ服スヘキコトヲ誓約スル者

三 採用試験ニ合格シタル者

第二十七條 丙種練習生ハ海軍筆記タラムコトヲ志願スル一、二等卒ニシテ左ノ諸號ニ適合スル者ノ中ヨリ之ヲ選抜ス

一 身體強健ニシテ品行方正ナル者

二 採用試験ニ合格シタル者

第二十八條 練習生ノ修業期ヲ左ノ如ク種別ス但シ時宜ニ依リ多少伸縮セシムルコトアルヘシ

甲種練習生 八箇月

乙種練習生 五箇月

丙種練習生 五箇月

第二十九條 練習生卒業シタルトキハ左ノ區別ニ從ヒ之ニ証狀又ハ證書ヲ授與ス

甲種練習生ハ 掌記証狀

乙種練習生ハ 掌廚証狀

丙種練習生ハ 筆記適任證書

第三十條 掌記証狀及掌廚証狀ハ卒業ノ成績ニ依リ各之ヲ一、二等ニ分ツ

第三十一條 練習生ニ採用スヘキ員數ハ毎年鎮守府毎ニ海軍大臣之ヲ告達ス

第三十二條 前條ノ告達アリタルトキハ海軍省經理局長ハ便宜數回ニ分チ採用スヘキ員數及候補者選抜期限ヲ定メ之ヲ各鎮守府司令長官ニ通知スヘシ

鎮守府司令長官ハ前項ノ通知ニ從ヒ艦團其ノ他各部ニ該鎮守府在籍下士卒ノ勤務スルモノニ在リテハ其ノ所屬ノ如何ヲ問ハス以下之ニ依リ之ヲ選抜シ甲種練習生及乙種練習生ニ在リテハ所見表別表ヲ添ヘ之ヲ長ヲシテ練習生ニ適スル者ヲ選抜シ甲種練習生及乙種練習生ニ在リテハ所見表別表ヲ添ヘ校長ニ通牒セシメ丙種練習生ニ在リテハ約一箇月筆記ノ業務ヲ見習ハシメ筆記タルニ適スルコトヲ確認シタルトキ所見表別表ヲ添ヘ校長ニ通牒セシムヘシ

第三十三條 校長ハ前條ノ通牒ヲ得タルトキハ練習生ノ選抜人員中試験ヲ要スル者ニ對シ試験問題ヲ密封シ各所轄長ニ送附スヘシ

各所轄長ハ試験ヲ行ヒ其ノ答解書ヲ校長ニ送附スヘシ

試験ハ各地同日ニ行フモノニシテ其ノ期日ハ試験問題ノ封筒ニ記スルモノトス

第三十四條 校長ハ鎮守府毎ニ採用シ得ヘキ者ヲ各練習生ニ區別シ順序ニ依リ官(職)氏名ヲ列記シ採用員數ノ定限ヲ附シ入校期日ヲ定メ當該鎮守府司令長官ニ通牒スヘシ

第三十五條 鎮守府司令長官前條ノ通牒ヲ得タルトキハ所要ノ人員ヲ選抜シ各所轄長ニ通達シ該長ヲシテ指定ノ期日ニ入校ヲ命セシムヘシ

第三十六條 校長ハ練習生入校シタルトキハ誓約書別表ヲ徵シ之ヲ在籍鎮守府海軍人事部長ニ移牒スヘシ

第三十七條 校長ハ練習生入校シタルトキハ其ノ人員ヲ海軍省經理局長ニ報告スヘシ修業期中退學ヲ命シタル者アルトキ亦同シ

第三十八條 甲種練習生採用試験科目ハ左ノ如シ

一 國語及漢文 講讀、作文

二 算術 四則、分數、比例

三 庶務 海軍公用文書ノ取扱方並海軍諸官衙ノ性質及組織大要

四 給與法 俸給、手當、旅費、被服、糧食ノ經理大要

第三十九條 乙種練習生及丙種練習生採用試験科目ハ左ノ如シ

一 國語及作文 講讀、作文

二 算術 四則、分數、比例

トヲ確認シタルトキ所見表別表ヲ添ヘ校長ニ通牒セシムヘシ

第三十三條 校長ハ前條ノ通牒ヲ得タルトキハ練習生ノ選抜人員中試験ヲ要スル者ニ對シ試験問題ヲ密封シ各所轄長ニ送附スヘシ

各所轄長ハ試験ヲ行ヒ其ノ答解書ヲ校長ニ送附スヘシ

試験ハ各地同日ニ行フモノニシテ其ノ期日ハ試験問題ノ封筒ニ記スルモノトス

第三十四條 校長ハ鎮守府毎ニ採用シ得ヘキ者ヲ各練習生ニ區別シ順序ニ依リ官(職)氏名ヲ列記シ採用員數ノ定限ヲ附シ入校期日ヲ定メ當該鎮守府司令長官ニ通牒スヘシ

第三十五條 鎮守府司令長官前條ノ通牒ヲ得タルトキハ所要ノ人員ヲ選抜シ各所轄長ニ通達シ該長ヲシテ指定ノ期日ニ入校ヲ命セシムヘシ

第三十六條 校長ハ練習生入校シタルトキハ誓約書別表ヲ徵シ之ヲ在籍鎮守府海軍人事部長ニ移牒スヘシ

第三十七條 校長ハ練習生入校シタルトキハ其ノ人員ヲ海軍省經理局長ニ報告スヘシ修業期中退學ヲ命シタル者アルトキ亦同シ

第三十八條 甲種練習生採用試験科目ハ左ノ如シ

一 國語及漢文 講讀、作文

二 算術 四則、分數、比例

三 庶務 海軍公用文書ノ取扱方並海軍諸官衙ノ性質及組織大要

四 給與法 俸給、手當、旅費、被服、糧食ノ經理大要

第三十九條 乙種練習生及丙種練習生採用試験科目ハ左ノ如シ

一 國語及作文 講讀、作文

二 算術 四則、分數、比例



第四十條 練習生ニシテ最終ノ試験ニ落第シタル者及傷痕ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ若ハ其ノ他ノ事故ノ爲ニ在校不適當ト認めル者アリタルトキハ學生ニ在リテハ之ヲ海軍省經理局長ニ稟申シ練習生ニ在リテハ之ヲ免シ其ノ在籍鎮守府ノ海兵團ニ入團セシメ其ノ旨ヲ當該鎮守府司令長官ニ移牒スヘシ

前項ニ依リ練習生ヲ免セラレタルトキハ人事部長ハ誓約書ヲ本人ニ返附スヘシ

第四十一條 練習生卒業シタルトキハ校長ハ之ヲ其ノ在籍鎮守府ノ海兵團ニ入團セシメ其ノ試験成績表ヲ當該鎮守府司令長官ニ移牒スヘシ

第四十二條 二等掌記証狀又ハ二等掌廚証狀ヲ有シ二箇年以上ヲ經過シ實務ノ成績優等ト認めルモノアルトキハ所轄長ハ所見表別表ヲ添ヘ其ノ人名ヲ校長ニ通知スヘシ

校長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ時期ヲ定メ試験問題ヲ祕封シ各所轄長ニ送附ス所轄長ハ試験ヲ行ヒ其ノ答解書ヲ校長ニ送附ス校長ハ之ヲ調査シ其ノ成績ト所見表トニ依リ檢定ノ上一等掌記証狀又ハ一等掌廚証狀ヲ授與スヘシ但シ試験ハ各地同日ニ行フヘキモノニシテ其ノ期日ハ試験問題ノ封筒ニ記スルモノトス若シ特別ノ事情ニ依リ其ノ期日ニ於テ試験ヲ行フコト能ハサルトキハ所轄長ハ試験問題漏洩ノ虞ナキ限りハ其ノ期日ニ拘ラス試験ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ所轄長ハ其ノ事情ヲ校長ニ通知スヘシ

前項ニ依リ更ニ証狀ヲ授與セラレタル者アルトキハ校長ハ之ヲ海軍省經理局長ニ、所轄長ハ之ヲ所屬長官ニ報告スヘシ

第四十三條 所轄長ハ海軍特修兵條例第七條ニ依リ証狀ヲ視察シタルトキハ之ヲ海軍經理學校長ニ通知シ校長ハ之ヲ海軍省經理局長ニ進達スヘシ

第四十四條 毎年八月一日ヨリ八月三十一日迄(生徒ハ七月二十一日ヨリ九月十日迄)ヲ夏季休業トシ十二月二十一日ヨリ翌年一月九日迄ヲ冬季休業トス但シ校長ハ教務ノ都合ニ依リ海軍省經理

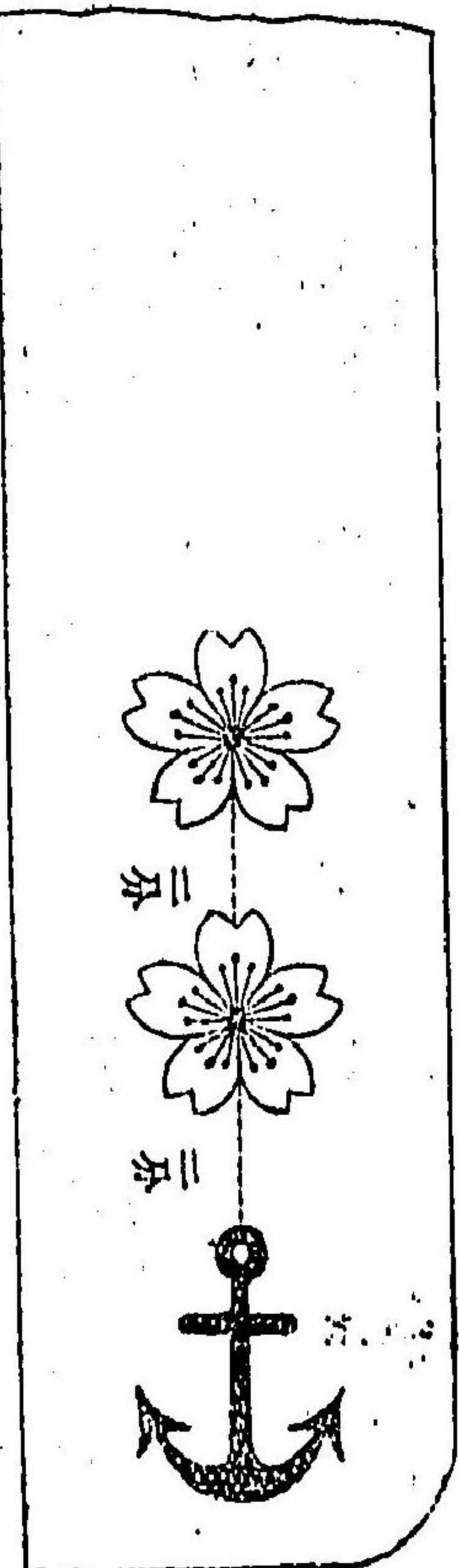
理局長ノ認可ヲ經テ此ノ時期ヲ伸縮變更スルコトヲ得

第四十五條 本則第二十條ニ掲グル學術優等章及品行善良章ハ通常禮服ノ左右襟ニ附著スルモノニシテ其ノ制式ハ左圖ノ如シ

學術優等章 徑五分ノ金「モール」製櫻花 一箇  
品行善良章 徑五分ノ銀「モール」製櫻花 一箇  
第一學年大試験終了ノ際與フルモノハ花ノ蕊ヲ黑色トシ第二學年大試験終了ノ際與フルモノハ花ノ蕊ヲ赤色トス

圖例(二箇ヲ與フルトキ)

原形



第四十六條 學生ノ學用品ハ自辨トス但シ書籍及器械等ハ其ノ種類ニ依リ貸與スルコトアルヘシ

第四十七條 戰時又ハ事變ニ際シ必要ト認めルトキハ海軍大臣練習生ノ教育ヲ中止シ之ヲ退學セシムルコトアルヘシ

附則 第四十八條 本則ハ明治四十三年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

第四十九條 從前ノ掌記證狀及筆記適任證狀ハ之ヲ本則ノ掌記證狀及筆記適任證書ト看做ス  
 第五十條 本則施行ノ際現ニ海軍經理學校ニ在學スル甲種及丙種練習生ハ之ヲ本則ニ依ル甲種  
 及丙種練習生ト看做ス  
 舊規則ニ依リ採用シタル乙種練習生ニハ掌廚證狀ヲ授與セス

(別表其一)

海軍經理學校練習生候補者所見表		入籍番號	官職氏名及年齡	賞罰	現役滿期ノ年月日ヲ記ス(卒業後三箇年以上現役ニ居ルハキ)	服役年數	體	品行	品	性	舉	實	務	學	見
何	術	術	算	術	作文	何	能	志	勤	實	勤	志	能	術	何

分隊長	主計長	所長
年月日	年月日	年月日
官 氏 名	官 氏 名	官 氏 名

(別表其二)

服役誓約書

今般海軍經理學校甲(乙)種練習生ニ採用相成候ニ就テハ卒業後三箇年以上誓テ服役可仕候也  
 明治 年 月 日  
 (入籍番號) 氏 名  
 海軍經理學校長宛

○海軍省達第五十九號  
 運用術練習艦規則左ノ通改正ス  
 明治四十三年五月三十日  
 運用術練習艦規則

海軍大臣 男齋藤實

- 第一條 運用術練習艦ハ練習艦中ニ就キ海軍大臣之ヲ指定ス
- 第二條 本練習艦ハ海軍兵曹水兵ニ運用術ヲ教授シ且斯術ノ改良進歩ヲ圖ル所トス
- 第三條 本練習艦ニ於テハ前條ノ外航海術ノ初歩ヲ教授シ又海軍大學校航海術專修學生ヲシテ羅針ノ修正及艦ノ運用ニ關スル實習ヲ行ハシム
- 第四條 海軍教育本部長ハ海軍大臣ノ認可ヲ經テ本練習艦ノ教育綱領ヲ定ムヘシ
- 第五條 練習艦長ハ教務規程ヲ設ケ海軍教育本部長ノ認可ヲ經テ之ヲ實施スヘシ
- 第六條 練習艦長ハ部下職員ノ中ヲ指定シ教授ヲ掌ラシムヘシ
- 第七條 練習艦長ハ運用術及航海術ノ事ニ關シテハ努メテ海軍各部ト連絡ヲ保チ部下職員ヲシテ絶ニス之カ調査研究ニ從事セシムヘシ
- 第八條 練習艦長ハ效範其ノ他運用術航海術ノ事ニ關シテ改正又ハ制定ヲ要スト認メタルトキハ案ヲ具シテ海軍教育本部長ニ提出スヘシ
- 第九條 練習艦長ハ練習生ノ終業期ニ於テ必要ナル部下職員ヲ會同シ教育ノ經過、成績及進歩並練習生ニ關スル事項ヲ考査シ之カ記録ヲ整理保存スヘシ
- 第十條 練習艦長ハ練習生ノ終業期ニ於テ其ノ卒業成績表ニ意見ヲ附シ試験問題ト共ニ海軍教育本部長ニ報告スヘシ
- 第十一條 練習艦長ハ卒業式ヲ舉行セントスルトキハ海軍教育本部長ノ認可ヲ受クヘシ
- 第十二條 練習艦長ハ前年四月一日以後其ノ年三月末日迄ノ教育報告ヲ作り意見ヲ附シ四月末日迄ニ海軍教育本部長ニ進達スヘシ
- 第十三條 練習艦長ハ翌會計年度中ニ於ケル練習生ノ出入期日ヲ豫定シ毎年一月末日迄ニ海軍教育本部長ニ進達スヘシ
- 第十四條 練習艦ニ臨時講習科ヲ設ケ海軍兵曹長、上等兵曹ニ所要ノ講習ヲ爲サシムルコトアルヘシ

- 海軍教育本部長臨時講習科ヲ設ケルノ必要ヲ認メタルトキハ講習員ノ範圍、其ノ科目及期限ヲ定メ海軍大臣ニ具申スヘシ
- 講習員ノ召集ニ海軍大臣之ヲ告達ス
- 第十五條 練習艦長ハ講習終ルトキハ之ヲ海軍教育本部長ニ報告スヘシ
- 一 身體強健視力聴力完全ニシテ品行方正ナル者
- 二 操舵其ノ他運用術ニ關スル要務ヲ執ラシムルニ適當ナル技能學力ヲ有スト認ムル者
- 三 卒業後三箇年以上現役ニ服スヘキ者又ハ服スヘキコトヲ誓約スル者
- 第十六條 練習生ニ採用スヘキ人員ハ鎮守府毎ニ區分シ毎年十二月海軍大臣之ヲ告達ス
- 海軍教育本部長ハ前項ノ告達ニ基キ便宜撤回ニ分チ採用員數及乘艦期限ヲ定メ之ヲ各鎮守府司令長官ニ通知スヘシ
- 鎮守府司令長官ハ前項ノ通知ニ從ヒ艦團其ノ他各部管轄鎮守府在籍下士卒ノ勤務スルモノニテ其ノ所屬ノ如何ヲ問ハス以下撤之ノ長ラシテ練習生志願者ニ就キ海軍教育本部長ノ定ムル試験標準ニ依リ試験ヲ行ヒ本則第十五條ニ適合スル者ヲ選拔シ其ノ人員ヲ具申セシムヘシ
- 鎮守府司令長官ハ前項ノ具申ニ依リ採用スヘキ員數ヲ定メ乘艦期限ト共ニ之ヲ艦團其ノ他各部ノ長ニ達ス艦團其ノ他各部ノ長ハ更ニ選拔ヲ行ヒ採用スヘキ者ヲ決定シ所見表別表第一ヲ添ヘシ
- 練習艦長ニ通知シ期日內ニ乘艦セシムヘシ
- 鎮守府司令長官ハ前項ニ依リ練習生ノ採用員數ヲ定メタルトキハ其ノ候補者ノ總數及採用員數ヲ練習艦長ニ通知スヘシ
- 第十七條 練習艦長ハ練習生乘艦シタルトキハ本則第十五條ニ依リ誓約書別表第二ヲ徴シ之ヲ在籍鎮守府ノ人事部長ニ移牒スヘシ

第十八條 練習生ニシテ傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ卒業ノ見込ナキトキハ練習艦長之ヲ免シ各其ノ在籍鎮守府ノ海兵團ニ入團セシメ且之ヲ各其ノ前所屬ノ艦團其ノ他各部ノ長ニ通知シ海軍教育本部長ニ報告スヘシ

第十九條 練習生ニシテ怠慢又ハ品行不正等ノ爲練習生タルニ不適當ト認ムル者ハ練習艦長之ヲ免シ理由ヲ附シ各其ノ前所屬ノ艦團其ノ他各部ニ復歸セシメ之ヲ海軍教育本部長ニ報告スヘシ

第二十條 練習艦長ハ本則第十八條第十九條ニ該當スル者アルトキハ之ヲ在籍鎮守府ノ人事部長ニ通知シ人事部長ハ其ノ誓約書ヲ本人ニ返付スヘシ

第二十一條 練習生卒業シタルトキハ之ニ掌帆證狀ヲ授與ス

第二十二條 練習生卒業シタルトキハ各其ノ前所屬ノ艦團其ノ他各部ニ復歸セシムヘシ但シ在籍鎮守府司令長官ノ請求アルトキハ其ノ指定スル艦團其ノ他各部ニ轉勤セシムルコトヲ得

第二十三條 本則第十九條第二十二條ニ依リ復歸セシムヘキ前所屬ノ艦團各部外國又ハ遠隔ノ地ニ在ルカ或ハ艦艇ニシテ所在不定ナルトキハ之ヲ在籍鎮守府ノ海兵團ニ入團セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ前所屬ノ艦團其ノ他各部ノ長ニ通知スヘシ

第二十四條 本則第十八條第十九條第二十二條第二十三條ニ依リ艦團其ノ他各部ニ復歸若ハ轉勤セシムヘキ者又ハ在籍鎮守府ノ海兵團ニ入團セシムヘキ者ニシテ事故アリ出發セシムルコト能ハサルトキハ最近ノ海兵團ニ入團セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ各其ノ前所屬ノ艦團其ノ他各部ノ長ニ通知スヘシ

第二十五條 二等掌帆證狀ヲ有シ二箇年以上ヲ經過シ實務ノ成績優等ト認ムル者アルトキハ所轄長ニ於テ適當ナル檢定試験ヲ行ヒ其ノ試験問題及答解書ノ作業ノ實況詳細並所見表別表ヲ添ヘ練習艦長ニ一等掌帆證狀授與ノ請求ヲ爲スヘシ

練習艦長前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ銓衡ノ上一等證狀ヲ授與スルコトヲ得前項ニ依リ證狀ヲ授與セラレタル者アリタルトキハ所轄長ハ木人在籍鎮守府司令長官ニ、練習艦長ハ海軍教育本部長ニ之ヲ報告スヘシ

第二十六條 所轄長ハ海軍特修兵條例第七條ニ依リ證狀ヲ視奪シタルトキハ之ヲ木人在籍鎮守府司令長官ニ報告スルト同時ニ運用術練習艦長ニ通知シ練習艦長ハ之ヲ海軍教育本部長ニ報告スヘシ

第二十七條 練習生及臨時講習科ヲ履修スヘキ者乗艦シタルトキハ練習艦長ハ之ヲ海軍教育本部長ニ報告スヘシ

第二十八條 練習艦長ハ海軍各學校ノ學生練習生ニシテ本艦ニ於テ修學スル者アルトキハ其ノ修學ヲ終リタル後成績ヲ各其ノ所屬學校長ニ通知スヘシ

第二十九條 練習生ノ修業期間ヲ約六箇月トス但シ時宜ニ依リ多少伸縮セシムルコトアルヘシ

第三十條 練習艦長ハ海軍教育本部長ノ認可ヲ受ケ練習生ヲ他ノ軍艦、海軍諸學校、工廠、港務部等ニ派遣シ修學セシムルコトヲ得

第三十一條 練習艦長ハ練習生ノ異動及第十八條第十九條第二十七條ニ依リ海軍教育本部長ニ報告スヘキ事項ハ同時ニ之ヲ所屬長官ニ報告スヘシ

第三十二條 戰時又ハ事變ニ際シ必要ト認ムルトキハ海軍大臣ハ練習生ノ教育ヲ中止セシムルコトアルヘシ

附則

第三十三條 本則ハ明治四十三年六月一日ヨリ之ヲ實施ス

第三十四條 本則實施ノ際現ニ一等又ハ二等運用術修業證狀ヲ有スル者ハ本則ノ一等又ハ二等掌帆證狀ヲ有スル者ト看做ス

明治四十三年五月 海軍省第五十九號 運用術練習艦規則

一三一

第三十五條 本則實施ノ際現ニ運用術練習艦ニ在ル練習生ハ總テ之ヲ本則ニ依ル練習生ト看做シ  
 本則第十七條ニ準シ誓約書ヲ徴スヘシ  
 (別表其一)

海軍武官考課表規則ニ準シ記入スヘシ

身 體		實 績	服 役 年 數	分 隊 長 (長 艇)				品 性	學 業	實 務	理 解 力
體 質	視力聴力ノ程度ヲモ併記シ身體検査ヲ爲シタル平均官ノ捺印ヲ要ス			現役年數	水砲	技 能	勤 勉				
現役年數	現役年數	現役年數	現役年數	現役年數	現役年數	現役年數	現役年數	現役年數	現役年數	現役年數	
現役年數	現役年數	現役年數	現役年數	現役年數	現役年數	現役年數	現役年數	現役年數	現役年數	現役年數	

所 見	所 見	所 見
分隊長(艇長) 官 氏 名 ①	前任事務分隊長(副艦長) 官 氏 名 ②	所轄長 官 氏 名 ③

(別表其二)

**服役誓約書**

今般運用術練習生ニ御採用相成候ニ就テハ運用術練習艦規則第十五條ニ依リ卒業後三箇年以上醫ヲ  
 服役可仕候也

明治 年 月 日

入籍番號 \_\_\_\_\_ 氏 名 ④

運用術練習艦長殿

○海軍省達第六十號  
高等科信號術練習規則左ノ通定ム

明治四十三年五月三十日

海軍大臣 男爵齋藤實

高等科信號術練習規則

- 第一條 掌信號兵ト爲スヘキ高等科信號術練習生ハ橫須賀海兵團ニ於テ教育ス
- 第二條 高等科信號術練習生ノ員數ハ所要ノ時期ニ於テ鎮守府毎ニ區分シ海軍大臣之ヲ告達ス
- 第三條 高等科信號術練習生ハ海軍二等兵曹以下ニテ普通科一等掌信號證狀若ハ一等掌角證狀ヲ有シ左ノ諸號ニ適合スル者ノ中ヨリ之ヲ選抜ス
  - 一 身體強健視力聽力完全ニシテ品行方正ナル者
  - 二 掌信號ノ要務ヲ執ラシムルニ適當ナル技能學力ヲ有スト認ムル者
  - 三 普通科一等掌信號證狀ヲ授與シタル日ヨリ六箇月以上若ハ一等掌角證狀ヲ授與シタル日ヨリ一箇年以上海上勤務ニ服シタル者
  - 四 卒業後三箇年以上現役ニ服スヘキ者又ハ服スヘキコトヲ誓約スル者
- 第四條 高等科信號術練習生ノ採用スルニハ橫須賀鎮守府司令長官ハ第二條ノ告達ニ基キ便宜數回ニ分チ採用員數及入團期限ヲ定メ之ヲ各鎮守府司令長官ニ通知スヘシ
- 鎮守府司令長官ハ前項ノ通知ニ從ヒ艦團共ノ他各部當該鎮守府在籍トキハ其ノ所屬ノ如何ヲ問ハス以下做之ノ長ヲシテ本則第三條ニ適合スル者ヲ選抜シ其ノ員數ヲ具申セシムヘシ
- 鎮守府司令長官ハ前項ノ具申ニ基キ採用スヘキ員數ヲ定メ入團期限ト共ニ之ヲ艦團共ノ他各部ノ長ニ達ス艦團共ノ他各部ノ長ハ更ニ選抜ヲ行ヒ採用スヘキ者ヲ決定シ所見表別表一ヲ添ヘ之ヲ橫須賀海兵團長ニ通知シ期日內ニ同團ニ入ラシムヘシ
- 鎮守府司令長官ハ前項ニ依リ練習生ノ採用員數ヲ定メタルトキハ其ノ候補者ノ總數及採用員數

ヲ橫須賀鎮守府司令長官ニ通知スヘシ

第五條 橫須賀海兵團長ハ高等科信號術練習生入團シタルトキハ本則第三條ニ依リ誓約書別表二ヲ做シ之ヲ在籍鎮守府ノ人事部長ニ移牒スヘシ

第六條 高等科信號術練習生入團シタルトキハ橫須賀海兵團長ハ之ヲ橫須賀鎮守府司令長官ニ報告シ橫須賀鎮守府司令長官ハ之ヲ海軍教育本部長ニ通報スヘシ

第七條 高等科信號術練習生ノ修業期間ハ普通科一等掌信號證狀ヲ有スル者ニ在リテハ約六箇月、一等掌角證狀ヲ有スル者ニ在リテハ約七箇月ニシテ之ニ教授スヘキ科目左ノ如シ

本科

- 一 信號器具
  - 帝國海軍諸旗章、帝國海軍信號用各種燈、セマホア其ノ他ノ信號器具、舟艇兵器筐及夜中信號筐
- 二 信號法
  - 帝國海軍諸信號法、萬國船舶信號法、氣象信號法、海上衝突豫防法ニ依ル信號法、速力回轉舵柄信號法「モール」ス符號
- 三 勤務及諸規定
  - 艦船ノ識別、外國海軍ノ主ナル旗章、東洋ニ於ケル主ナル内外汽船會社ノ旗章及船舶煙突塗色識別、艦隊ノ陣形及排列名稱、艦橋諸通信器具取扱法、救難浮標、諸法規中旗章ニ關スル事項摘要、當直艦ノ規定海上衝突豫防法兵備品經理規程軍港開港規定ノ摘要、軍艦職員勤務令中關係事項、滿艦飾ニ關スル心得、航泊日誌甲板日誌信號誌記註心得、水路諸測器取扱法、水路圖誌概要、海上氣象概要、航路標識概要等
- 四 電氣器具

電氣及磁氣ノ概要、電池、電鍍、電氣通信機共ノ他、艦橋裝備電氣器具ノ構造大意、白熱電燈及探照燈ノ概要

五 本科第一號ヨリ第三號ニ至ル教授法概要

別科

銃隊教練、陸戰要務、端舟通船漕方、口達傳令及報告法、普通學、體育ニ關スル諸技

第八條 高等科信號術練習生ノ教育ハ各海兵團ニ於ケル普通科信號術練習生ノ教育ト善ク連繫ヲ保ツヲ要ス

第九條 卒業試験ハ終業期ニ於テ行フ

卒業試験ニハ別科ノ外全學期間ニ教授シタル各科目ヲ試験ス

第十條 卒業試験ノ及第點數ハ各科全點數ノ十分ノ四以上ヲ得共ノ點數ヲ合算シ總點數ノ十分ノ五以上トス

卒業試験ノ成績順序ハ何人中ノ何番ナル字句ヲ用ヒ之ヲ本人ノ履歷表ニ記入スヘシ

第十一條 高等科信號術練習生ニシテ傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ卒業ノ見込ナキトキハ横須賀海兵團長之ヲ免シ各共ノ在籍鎮守府ノ海兵團ニ入團セシメ且之ヲ各共ノ前所屬ノ艦團共ノ他各部ノ長ニ通知シ横須賀鎮守府司令長官ニ報告スヘシ

第十二條 高等科信號術練習生ニシテ怠慢又ハ品行不正等ノ爲練習生タルニ不適合ト認ムル者ハ横須賀海兵團長之ヲ免シ理由ヲ附シ各共ノ前所屬ノ艦團共ノ他各部ニ復歸セシメ之ヲ横須賀鎮守府司令長官ニ報告スヘシ

第十三條 横須賀海兵團長ハ本則第十一條第十二條ニ該當アル者アルトキハ之ヲ在籍鎮守府人事部長ニ通知シ人事部長ハ其ノ誓約書ヲ本人ニ返付スヘシ

第十四條 高等科信號術練習生卒業シタルトキハ高等科掌信號證狀ヲ授與ス

高等科掌信號證狀ハ卒業ノ成績ニ應シ左ノ如ク分ツ

一 試験全點數十分ノ八以上ヲ得タル者ヲ一等トス

二 試験全點數十分ノ八未満十分ノ五以上ヲ得タル者ヲ二等トス

第十五條 高等科信號術練習生卒業シタルトキハ各共ノ前所屬ノ艦團共ノ他各部ニ復歸セシムヘシ但シ在籍鎮守府司令長官ノ要求アルトキハ其ノ指定ノ艦團共ノ他各部ニ轉勤セシムルコトヲ得

第十六條 高等科信號術練習生ニシテ卒業試験ニ落第シタルトキハ若干日間落第シタル科目ヲ復習セシメ共ノ科目ニ就キ再試験ヲ行ヒ及第ノ者ニハ高等科二等掌信號證狀ヲ授與スルモノトス

第十七條 横須賀海兵團長ハ本則ニ依リ高等科信號術練習生教育ニ關スル細則及教程ヲ定メ横須賀鎮守府司令長官ノ認可ヲ經テ之ヲ實施スヘシ但シ横須賀鎮守府司令長官ハ之ヲ認可スルニ先テ海軍教育本部長ニ合議スルヲ要ス

第十八條 横須賀海兵團長ハ高等科信號術練習生教育主任ヲ定メ細則及教程實施ノ責ニ任セシムヘシ

第十九條 卒業試験ノ成績ハ横須賀海兵團長之ニ意見ヲ附シ横須賀鎮守府司令長官ニ報告シ横須賀鎮守府司令長官ハ之ヲ海軍教育本部長ニ移牒スヘシ

第二十條 横須賀海兵團長ハ終業期ニ於テ關係アル部下職員ヲ會同シ教育ノ經過、成績及進歩並練習生ニ關スル事項ヲ考查シ之カ記録ヲ整理保存スヘシ

第二十一條 本則第十二條第十五條ニ依リ復歸セシムヘキ前所屬艦團各部外國又ハ遠隔ノ地ニ在ルカ或ハ艦艇ニシテ所在不定ナルトモハ之ヲ在籍鎮守府ノ海兵團ニ入團セシムルコトヲ得前項ノ場合ニ於テハ之ヲ前所屬ノ艦團共ノ他各部ノ長ニ通知スヘシ

第二十二條 本則第十一條第十二條第十五條第二十一條ニ依リ艦團其ノ他各部ニ復歸若ハ轉勤セシムヘキ者又ハ在籍鎮守府ノ海兵團ニ入團セシムヘキ者ニテ事故アリテ出發セシムルコト能ハサルトキハ最近ノ海兵團ニ入團セシムルカ若ハ其ノ儘在團セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ各其ノ前所屬ノ艦團其ノ他各部ノ長ニ通知スヘシ

第二十三條 高等科二等掌信號證狀ヲ有シ二箇年以上ヲ經過シ實務ノ成績優等ト認ムル者アルトキハ所轄長ニ於テ適當ナル檢定試験ヲ行ヒ其ノ試験問題及答解書ノ作業ニ在リテハ其別表ヲ添ヘ横須賀海兵團長ニ高等科一等掌信號證狀授與ノ請求ヲ爲スヘシ  
 第一表  
 横須賀海兵團長前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ銓衡ノ上一等證狀ヲ授與スルコトヲ得前項ニ依リ證狀ヲ授與セラレタル者アリタルトキハ所轄長ハ本人在籍鎮守府司令長官ニ横須賀海兵團長ハ横須賀鎮守府司令長官ニ之ヲ報告シ横須賀鎮守府司令長官ハ之ヲ海軍教育本部長ニ通報スヘシ

第二十四條 所轄長ハ海軍特修兵條例第七條ニ依リ證狀ヲ褫奪シタルトキハ之ヲ本人在籍鎮守府司令長官ニ報告スルト同時ニ横須賀海兵團長ニ通知スヘシ  
 第二十五條 戰時又ハ事變ニ際シ必要ト認ムルトキハ海軍大臣ハ練習生ノ教育ヲ中止セシムルコトアルヘシ

附則

第二十六條 本則ハ明治四十三年六月一日ヨリ之ヲ實施ス  
 第二十七條 本則實施ノ際現ニ高等科掌信號證狀ヲ有シ特ニ信號術ニ長スト認ムル者アルトキハ所轄長ハ本則ニ依リ高等科信號術練習生候補者ノモノニ準シ所見表ヲ作り明治四十三年七月三十一日迄ニ之ヲ横須賀海兵團長ニ送附スヘシ但シ艦船外國派遣中ニ係リ本項ノ期日內ニ送附スルコト能ハサル場合ニ於テハ成ルヘク速ニ此ノ手續ヲ爲スヘシ

横須賀海兵團長ハ試験期日ヲ指定シ檢定問題ヲ當該所轄長ニ送附スヘシ  
 所轄長ハ横須賀海兵團長ノ指定スル期日ニ於テ同團長ノ送附シタル問題ヲ用ヒ檢定試験ヲ行ヒ其ノ答案ヲ同團長ニ送附スヘシ  
 横須賀海兵團長ハ前項ノ答案ヲ審査シ銓衡ノ上適當ト認ムルトキハ之ニ高等科一等又ハ二等掌信號證狀ヲ授與スヘシ  
 横須賀海兵團長前項ニ依リ證狀ヲ授與シタルトキハ之ヲ本人在籍鎮守府司令長官ニ通報スルト同時ニ横須賀鎮守府司令長官ヲ經テ海軍大臣ニ報告スヘシ  
 本條ノ檢定試験手續ヲ終ル迄高等科掌信號證狀ハ仍其ノ效力ヲ有スルモノトス  
 (別表第一)

横須賀海兵團高等科信號術練習生候補者所見表

(進ムヘキ者ナルトキハ其ノ旨ヲ此ノ所ニ記入スヘシ)

身		視力聴力ノ程度ヲモ併記シ身體檢査ヲ爲シタル軍醫官ノ捺印ヲ要ス	入籍番號	官職氏名及年齢
普行章行狀			賞	罰
證狀等級及授與年月日				
服役年數		現役滿期ノ年月日ヲ記ス(高等科信號術練習生候補者ニ依リ本條ニ依リ本條三箇年以上ニ滿スル者ハ其ノ旨ヲ併記スヘシ)		
分	品	行	賞	罰
性	助			
助				



見所(長)	見所(長)					見所(長)	見所(長)	見所(長)	見所(長)	見所(長)
	實	務	注	信	技					
學	評	業	務	點	力	力	力	力	力	力
本人選抜當時ノ適否	實務評點規定ニ準シ記入スヘシ				優、劣ノ三種ニ區分スヘシ	附帶數學作文ノ學力ヲ百分比ニテ記入シ入籍前ニ於ケル學校ノ修業程度ヲモ併記スヘシ				
年月日	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日
所轄長 官 氏 名	分隊長(艇長) 官 氏 名	航海長(函送艦長) 官 氏 名	所轄長 官 氏 名	所轄長 官 氏 名	所轄長 官 氏 名	所轄長 官 氏 名	所轄長 官 氏 名	所轄長 官 氏 名	所轄長 官 氏 名	所轄長 官 氏 名

(別表第二)

服役誓約書

今般高等科信號術練習生ニ御採用相成候ニ就テハ高等科信號術練習規則第三條ニ依リ卒業後三箇年  
以上醫ヲ服役可仕候也

横須賀海兵團長殿

入籍番號 官(職) 氏 名

○海軍省達第六十一號

普通科信號術練習規則左ノ通定

明治四十三年五月三十日

海軍大臣 男齋藤實

普通科信號術練習規則

- 第一條 掌信號兵ト爲スヘキ普通科信號術練習生ハ海兵團ニ於テ教育ス
- 第二條 普通科信號術練習生ノ員數ハ所要ノ時期ニ於テ鎮守府毎ニ區分シ海軍大臣之ヲ告達ス
- 第三條 普通科信號術練習生採用ノ告達アリタルトキハ海兵團長ハ新ニ命シタル四等水兵ノ中  
リ左ノ諸號ニ適合スル者ヲ選抜シ之ヲ命スルモノトス
  - 一 身體強健視力聽力完全ニシテ品行方正ナル者
  - 二 稟性鋭敏活潑ニシテ理解力ニ富ミ言語明瞭ナル者
  - 三 尋常小學校卒業(舊學制高等二學年)程度ノ學力アル者
- 第四條 普通科信號術練習生ヲ命シタルトキハ海兵團長ハ其ノ員數ヲ鎮守府司令長官ニ報告スヘ

第五條 普通科信號術練習生ノ修業期間ハ約五箇月ニシテ之ニ教授スヘキ科目左ノ如シ

本科

一 信號器具

帝國海軍諸旗章、帝國海軍信號用各種燈「セマホア」電氣裝置其ノ他ノ信號器具、舟艇兵器筐及夜中信號筐

二 信號法

帝國海軍諸信號法、萬國船舶信號法、氣象信號法、海上衝突豫防法ニ依ル信號法、速力回轉舵柄信號法「モーリス」符號

三 勤務及諸規定

艦船ノ識別、艦隊陣形及排列ノ名稱、外國海軍ノ主ナル旗章、艦橋諸通信器具取扱法、救難浮標、海軍旗章條例當直艦ノ規定及軍港要港開港規定ノ摘要、軍艦職員勤務令中關係事項、滿艦飾ニ關スル心得、甲板日誌及信號誌記註心得、水路測器取扱心得等

四 砲術

銃隊教練、陸戰要務、小銃射擊

別科

本科第一號ヨリ第三號ニ至ル教授法概要、電氣ノ大意、電池概要、電線並電鑰喇叭術喇叭術ニ關スル心得、端舟通船漕方、旗旋繙繙方、口達傳令及報告法、普通學假名遣、英字、體育ニ關スル諸技

第六條 普通科信號術練習生ノ教育ハ橫濱海兵團ニ於ケル高等科信號術練習生ノ教育ト善ク連繫ヲ保ツヲ要ス

第七條 卒業試験ハ終業期ニ於テ行フ

卒業試験ニハ別科ノ外全學期間ニ教授シタル各科目ヲ試験ス

第八條 卒業試験ノ及第點數ハ各科全點ノ十分ノ四以上ヲ得其ノ點數ヲ合算シ總點數ノ十分ノ五以上トス

卒業試験ノ成績順序ハ何人中ノ何番ナル字句ヲ用ヒ之ヲ本人ノ履歷表ニ記入スヘシ

第九條 普通科信號術練習生卒業シタルトキハ普通科掌信號證狀ヲ授與ス

普通科掌信號證狀ハ試験ノ成績ニ應シ左ノ如ク分ツ

一 試験全點數十分ノ八以上ヲ得タル者ヲ一等トス

二 試験全點數十分ノ八未満十分ノ五以上ヲ得タル者ヲ二等トス

第十條 普通科信號術練習生ニシテ卒業試験ニ落第シタルトキハ若干日間落第シタル科目ヲ復習セシメ其ノ科目ニ就キ再試験ヲ行ヒ及第ノ者ニハ普通科二等掌信號證狀ヲ授與スルモノトス

第十一條 海兵團長ハ本則ニ依リ普通科信號術練習生教育ニ關スル細則又教程ヲ定メ鎮守府司令長官ノ認可ヲ經テ之ヲ實施スヘシ但シ鎮守府司令長官ハ之ヲ認可スルニ先チ海軍教育本部長ニ

合議スルヲ要ス

第十二條 海兵團長ハ普通科信號術練習生教育主任ヲ定メ細則及教程實施ノ責ニ任セシムヘシ

第十三條 卒業試験ノ成績ハ海兵團長之ニ意見ヲ附シテ鎮守府司令長官ニ報告シ鎮守府司令長官ハ之ヲ海軍教育本部長ニ移牒スヘシ

第十四條 海兵團長ハ終業期ニ於テ關係アル部下職員ヲ會同シ教育ノ經過、成績及進歩並練習生ニ關スル事項ヲ考査シ之カ記録ヲ整理保存スヘシ

第十五條 普通科信號術練習生左ニ掲クル諸號ノ一ニ該ルト認ムルトキハ海兵團長之ヲ免シ鎮守府司令長官ニ報告スヘシ

一 傷痕ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ卒業ノ見込ナキトキ

二 怠慢又ハ品行不正等ノ爲象信號兵タルニ適セスト認ムルトキ

第十六條 普通科二等掌信號證狀ヲ有シ二箇年以上ヲ經過シ實務ノ成績優等ト認ムル者アルトキハ所轄長ニ於テ適當ナル檢定試験ヲ行ヒ其ノ試験問題及答解書ノ實業ニアリテハ其ノ所見表ヲ信號術練習規則ヲ添ヘ本人在籍鎮守府ノ海兵團長ニ普通科一等掌信號證狀授與ノ請求ヲ爲スヘシ

海兵團長前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ詮衡ノ上一等證狀ヲ授與スルコトヲ得

前項ニ依リ證狀ヲ授與セラレタル者アリタルトキハ所轄長ハ本人在籍鎮守府司令長官ニ報告シ該長官ハ之ヲ海軍教育本部長ニ通報スヘシ

第十七條 所轄長ハ海軍特修兵條例第七條ニ依リ證狀ヲ視奪シタルトキハ之ヲ本人在籍鎮守府司令長官ニ報告スルト同時ニ同鎮守府ノ海兵團長ニ通知スヘシ

附則

第十八條 本則ハ明治四十三年六月一日ヨリ實施ス

第十九條 信號練習生規則ニ本則實施ノ日ヨリ廢止ス

第二十條 本則實施ノ際現ニ一等信號證狀ヲ有スル者ハ本則ノ普通科一等掌信號證狀ヲ、二等信號證狀ヲ有スル者ハ本則ノ普通科二等掌信號證狀ヲ授與セラレタル者ト看做ス

第二十一條 本則實施ノ際現ニ海兵團ニテ修業中ノ信號術練習生ハ本則ニ依ル普通科信號術練習生ト看做ス但シ其ノ教程ハ舊信號練習生規則ニ依ルモノトス

○海軍省達第六十二號

喇叭術練習規則左ノ通定ス

明治四十三年五月三十日

海軍大臣 男爵齋藤實

喇叭術練習規則

第一條 露角兵ト爲スヘキ喇叭術練習生ハ海兵團ニ於テ教育ス

第二條 喇叭術練習生ノ員數ハ所要ノ時期ニ於テ鎮守府毎ニ區分シ海軍大臣之ヲ告達ス

第三條 喇叭術練習生採用ノ告達アリタルトキハ海兵團長ハ新ニ命シタル四等水兵ノ中ヨリ左ノ諸號ニ適合スル者ヲ選拔シテ之ヲ命スルモノトス

一 身體強健視力聽力完全齒列正整ニシテ品行方正ナル者

二 稟性銳敏活潑ナル者

三 尋常小學校第四學年卒業程度ノ學力アル者

第四條 喇叭術練習生ヲ命シタルトキハ海兵團長ハ其ノ員數ヲ鎮守府司令長官ニ報告スヘシ

第五條 喇叭術練習生ノ修業期間ハ約五箇月ニシテ之ニ教授スヘキ科目左ノ如シ

本科

- 一 喇叭術
  - 喇叭攜帶及取扱法 喇叭譜調 海軍喇叭譜吹奏譜ノ綴方及番方
- 二 砲術
  - 銃隊教練 銃砲隊隨伴教練 陸戰要務 小銃射擊

別科

信號術 信號助手トシテ、端舟通船漕方、艦橋諸通信器具取扱法、日達傳令及報告法、普通學、體育ニ關スル諸技

第六條 卒業試驗ハ終業期ニ於テ行フ

卒業試驗ニハ別科ノ外全學期間ニ教授シタル各科目ヲ試験ス

第七條 卒業試驗ノ及第點數ハ各科全點數ノ十分ノ四以上ヲ得其ノ點數ヲ合算シ總點數ノ十分ノ五以上トス

卒業試驗ノ成績順序ハ何人中ノ何番ナル字句ヲ用ヒ之ヲ本人ノ履歷表ニ記入スヘシ

第八條 喇叭術練習生卒業シタルトキハ掌角證狀ヲ授與ス

掌角證狀ハ試験ノ成績ニ應シ左ノ如ク分ツ

一 試験全點數十分ノ八以上ヲ得タル者ヲ一等トス

二 試験全點數十分ノ八未満十分ノ五以上ヲ得タル者ヲ二等トス

第九條 喇叭術練習生ニシテ卒業試験ニ落第シタルトキハ若干日間落第シタル科目ヲ復習セシメ

其ノ科目ニ就キ再試験ヲ行ヒ及第ノ者ニハ二等掌角證狀ヲ授與スルモノトス

第十條 海兵團長ハ本則ニ依リ喇叭術練習生教育ニ關スル細則及教程ヲ定メ鎮守府司令長官ノ認

可ヲ經テ之ヲ實施スヘシ但シ鎮守府司令長官ハ之ヲ認可スルニ先テ海軍教育本部長ニ合議スル

ヲ要ス

第十一條 海兵團長ハ喇叭術練習生教育主任ヲ定メ細則及教程實施ノ責ニ任セシムヘシ

第十二條 卒業試験ノ成績ハ海兵團長之ニ意見ヲ附シテ鎮守府司令長官ニ報告シ鎮守府司令長官

ハ之ヲ海軍教育本部長ニ移牒スヘシ

第十三條 海兵團長ハ終業期ニ於テ關係アル部下職員ヲ會同シ教育ノ經過成績及進歩並練習生

ニ關スル事項ヲ考查シ之カ記録ヲ整理保存スヘシ

第十四條 喇叭術練習生左ニ掲クル諸號ノ一ニ該ルト認ムルトキハ海兵團長之ヲ免シ鎮守府司令

長官ニ報告スヘシ

一 傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ卒業ノ見込ナキトキ

二 怠慢又ハ品行不正等ノ爲掌角兵タルニ適セスト認ムルトキ

第十五條 二等掌角證狀ヲ有シ二箇年以上ヲ經過シ實務ノ成績優等ト認ムル者アルトキハ所轄長

ニ於テ適當ナル檢定試験ヲ行ヒ其ノ試験問題及答解書ノ實業ニ在リテハ其立所見表高等科信號術

ニ添ヘ本人在籍鎮守府ノ海兵團長ニ一等掌角證狀授與ノ請求ヲ爲スヘシ

海兵團長前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ銓衡ノ上一等證狀ヲ授與スルコトヲ得

前項ニ依リ證狀ヲ授與セラレタル者アリタルトキハ所轄長ハ本人在籍鎮守府司令長官ニ報告シ

該長官ハ之ヲ海軍教育本部長ニ通報スヘシ

第十六條 所轄長ハ海軍特修兵條例第七條ニ依リ證狀ヲ視奪シタルトキハ之ヲ本人在籍鎮守府司

令長官ニ報告スルト同時ニ同鎮守府ノ海兵團長ニ通知スヘシ

附則

本則ハ明治四十三年六月一日ヨリ實施ス

○海軍省達第六十二號

海軍軍樂練習規則左ノ通定ス

明治四十三年五月三十日

海軍大臣 男爵齋藤實

海軍軍樂練習規則

第一條 本則ニ依リ教育スル海軍軍樂手海軍軍樂生ヲ軍樂練習生ト稱ス

第二條 軍樂練習生ハ横須賀海兵團ニ於テ教育ス

第三條 軍樂練習生ハ分テ左ノ三種トス

一 普通科軍樂練習生

二 特修科軍樂練習生

三 專科軍樂練習生

第四條 普通科軍樂練習生ハ海軍五等軍樂生ノ教程ヲ經テ海軍四等軍樂生ニ進級シタル後横須賀

海兵團長之ヲ命ス

第五條 特修科軍樂練習生ハ海軍軍樂手及進級停年ヲ超過シタル海軍一等軍樂生ニシテ左ノ諸號

ニ適合スル者ノ中ヨリ之ヲ選拔ス

明治四十三年五月 海軍省第六十三號 海軍軍樂練習規則

一 身體強健ニシテ品行方正ナル者

二 將來軍樂教員ニ充テ又ハ奏樂指揮ノ職ヲ執ラシムルニ適スト認ムル者

三 卒業後三箇年以上現役ニ服スヘキ者又ハ服スヘキコトヲ誓約スル者

第六條 專科軍樂練習生ハ海軍軍樂手以下進級停年ヲ超過シタル海軍三等軍樂生以上ニシテ左ノ諸號ニ適合スル者ノ中ヨリ之ヲ選拔ス

一 身體強健ニシテ品行方正ナル者

二 絃樂ノ練習ニ適當ナル技能ヲ有スト認ムル者又ハ技術秀逸ニシテ音樂上ノ理論ヲ修ムルニ適當ナリト認ムル者

三 卒業後四箇年以上現役ニ服スヘキ者又ハ服スヘキコトヲ誓約スル者

第七條 特修科軍樂練習生ノ員數ハ毎年四月、專科軍樂練習生ノ員數ハ所要ノ時期ニ於テ海軍大臣之ヲ告達ス

第八條 特修科軍樂練習生及專科軍樂練習生ヲ採用スルニハ横須賀鎮守府司令長官ハ其ノ候補者選出期限ヲ定メ艦隊ノ長ヲシテ特修科軍樂練習生ニ在リテハ本則第五條、專科軍樂練習生ニ在リテハ本則第六條ニ適合スル者ヲ選拔シ所見表別表第一ト共ニ選出期日內ニ横須賀海兵團長ニ通知セシム横須賀海兵團長ハ告達員數以內ニ於テ更ニ選拔ヲ行ヒ其ノ採用人名及所屬ヲ横須賀鎮守府司令長官ニ報告スヘシ

横須賀鎮守府司令長官ハ前項ノ報告ニ依リ入團期限ヲ定メ艦隊長ヲシテ該期日內ニ入團セシムヘシ

第九條 横須賀海兵團長ハ前條ノ練習生入團シタルトキハ本則第五條又ハ第六條ニ依リ誓約書別表第二ヲ徵シ之ヲ横須賀鎮守府ノ人事部長ニ移牒スヘシ

第十條 軍樂練習生ノ修業期間及之ニ教授スヘキ科目左ノ如シ

一 普通科軍樂練習生 約一箇年

本科

管樂 樂器奏法、合奏

理論 音樂通論、樂譜書法

唱歌 音階、音程 第四度ヨリ 第八度迄

外國語 獨文綴字及音樂上ノ用語讀法

別科

無銃教練、手旗信號、口達傳令及報告法、體育ニ關スル諸技

二 特修科軍樂練習生 約八箇月

本科

管樂 合奏、奏樂指揮法、各種樂器教授法

理論 和聲論

唱歌 音階、音程

別科

普通科軍樂練習生ニ同シ

三 專科軍樂練習生 約二箇年

木科

第一種 (絃樂)

絃樂 樂器奏法、管絃樂合奏

唱歌 音階、音程

第二種 (理論)

音樂 別科 「ピアノ」管絃樂合奏 和聲論、對位法

普通科軍樂練習生ニ同シ

第十一條 卒業試験ハ終業期ニ於テ行フ

卒業試験ニハ別科ノ外全學期間ニ教授シタル各科目ヲ試験ス

第十二條 卒業試験ノ及第點數ニ各科全點數ノ十分ノ四以上ヲ得其ノ點數ヲ合算シ總點數ノ十分ノ五以上トス

卒業試験ノ成績順序ハ何人中ノ何番ナル字句ヲ用ヒ之ヲ本人ノ履歷表ニ記入スヘシ

第十三條 特修科軍樂練習生及專科軍樂練習生卒業シタルトキハ左ノ區別ニ從ヒ之ニ證狀ヲ授與ス

特修科軍樂練習生ハ 特修科軍樂修業證狀

專科軍樂練習生ハ 第一種(第二種)專科軍樂修業證狀

第十四條 練習生ニシテ卒業試験ニ落第シタルトキハ若干日間落第シタル科目ヲ復習セシメ其ノ科目ニ就キ再試験ヲ行フ但シ特修科軍樂練習生及專科軍樂練習生之ニ及第シタルトキハ前條ニ準シテ證狀ヲ授與ス

第十五條 橫須賀海兵團長ハ本則ニ依リ軍樂練習生教育ニ關スル細則及教程ヲ定メ橫須賀鎮守府司令長官ノ認可ヲ經テ之ヲ實施スヘシ但シ橫須賀鎮守府司令長官ハ之ヲ認可スルニ先テ海軍教育本部長ニ合議スルヲ要ス

第十六條 橫須賀海兵團長ハ軍樂練習生教育主任ヲ定メ細則及教程實施ノ責ニ任セシムヘシ

第十七條 軍樂練習生ノ卒業成績ハ橫須賀海兵團長之ニ意見ヲ附シテ橫須賀鎮守府司令長官ニ報告シ告シ橫須賀鎮守府司令長官ハ之ヲ海軍教育本部長ニ移牒スヘシ

第十八條 橫須賀海兵團長ハ終業期ニ於テ關係アル部下職員ヲ會同シ教育ノ經過、成績及進歩並練習生ニ關スル事項ヲ考查シ之カ記録ヲ整理保存スヘシ

第十九條 特修科軍樂練習生及專科軍樂練習生ニシテ左ノ各號ノ一ニ該ルトキハ橫須賀海兵團長之ヲ免シ且之ヲ各其ノ前所屬ノ艦隊長ニ通知シ橫須賀鎮守府司令長官ニ報告スヘシ

一 傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ卒業ノ見込ナキトキ

二 怠慢又ハ品行不正等ノ爲練習生タルニ適セスト認ムルトキ

第二十條 橫須賀海兵團長ハ前條ニ該當スル者アルトキハ之ヲ橫須賀鎮守府ノ人事部長ニ通知シ人事部長ハ其ノ誓約書ヲ本人ニ返付スヘシ

第二十一條 所轄長海軍特修兵條例第七條ニ依リ證狀ヲ褫奪シタルトキハ之ヲ橫須賀鎮守府司令長官ニ報告スルト同時ニ橫須賀海兵團長ニ通知スヘシ

第二十二條 橫須賀海兵團長ハ橫須賀鎮守府司令長官ノ認可ヲ受ケ軍樂練習生ヲ官立音樂學校ニ派遣シ修業セシムルコトヲ得

附則 第二十三條 本則ハ明治四十三年六月一日ヨリ之ヲ實施ス

第二十四條 海軍軍樂練習生規則ハ本則實施ノ日ヨリ廢止ス

第二十五條 常分ノ内特修科軍樂練習生及專科軍樂練習生ノ教育ハ東京ニ於テ行フ

第二十六條 本則實施ノ際現ニ絃樂練習中ノ者ハ之ヲ專科軍樂練習生、高等科練習生ハ之ヲ特修科軍樂練習生ト看做シ本則第九條ニ準シ誓約書ヲ做スヘシ

第二十七條 本則實施ノ際現ニ軍樂教員適任證書及高等科軍樂卒業證書ヲ有スル者ハ本則ノ特修科軍樂修業證狀ヲ授與セラレタル者ト看做ス

(別表第一)

見所長隊分	見所長隊軍			現役年數	現役満期ノ年月日ヲ記入ス <small>(海軍省令ノ規定ニ準シ記入スヘシ)</small>	身 體 檢 査 ヲ 爲 シ タル 軍 醫 官 ノ 捺 印 ヲ 要 ス	行 平 行 狀	入 籍 證 明 書 及 年 齡	實 罰
	品 行	性 質	勤 怠						
年月日									
分隊長 官 氏 名	軍樂隊長 官 氏 名								

特修科(專科)軍樂練習生候補者所見表  
(專科軍樂練習生ト爲スヘキ者ニ在リテハハ統樂又ハ理論ヲ專修スヘキ者ナルカヲ記入スヘシ)

海軍武官考課表規則ニ準シ記入スヘシ

(別表第二)

見所長轄所	年月日	所轄長 官 氏 名

服役誓約書

今般特修科(專科)軍樂練習生ニ御採用相成候ニ就テハ軍樂練習規則第五條(第六條)ニ依リ卒業後三箇年(四箇年)以上誓テ服役可仕候也

明治 年 月 日

入籍證號

官(職) 氏 名

横須賀海兵團長職

○海軍省達第六十四號

海軍學生生徒練習生及特修兵ニ授與スル證書及證狀書式別紙ノ通定

本達ハ來ル六月二日ヨリ施行ス

明治四十三年五月三十日

海軍大臣 男爵齋藤實

(別紙)

(第一號書式)

第 號  
卒業證書  
官 氏 名  
海軍大學校甲種(乙種)機關(學生教程卒業)證書  
年月日  
海軍大學校長官位勳功爵氏名 [印]

(第三號書式)

第 號  
卒業證書  
海軍兵學校(普通科)生徒  
氏 名  
海軍兵學校(普通科)教程卒業證書  
年月日  
海軍兵學校長官位勳功爵氏名 [印]

(第二號書式)

第 號  
修業證書  
官 氏 名  
海軍大學校專修學生トシテ航海術(船用機關計器科)  
(船用電氣工學科)教程修業證書  
年月日  
海軍大學校長官位勳功爵氏名 [印]

(第四號書式)

第 號  
修業證書  
官 氏 名  
海軍砲術學校高等科(普通科)特修科(學生教程修業)證書  
年月日  
海軍砲術學校長官位勳功爵氏名 [印]

(第五號書式)

第 號  
修業證書  
官 氏 名  
海軍水雷學校高等科(普通科)學生教程修業證書  
年月日  
海軍水雷學校長官位勳功爵氏名 [印]

(第六號書式)

第 號  
修業證書  
官 氏 名  
海軍水雷學校特修科水雷術(電信術)教程修業證書  
年月日  
海軍水雷學校長官位勳功爵氏名 [印]

(第七號書式)

第 號  
修業證書  
官 氏 名  
海軍工機學校普通科(特修科)學生教程(海軍水雷學校  
學生教程)修業證書  
年月日  
海軍工機學校長官位勳功爵氏名 [印]

(第八號書式)

第 號  
卒業證書  
官 氏 名  
海軍軍醫學校軍醫學生(練習學生)教程卒業證書  
年月日  
海軍軍醫學校長官位勳功爵氏名 [印]



(第九號書式)

第 號  
修業證書  
官 氏 名  
海軍經理學校甲種學生(乙種學生)(丙種學生)教程修業  
ノ證書  
年月日  
海軍經理學校長官位勳功爵氏名 [印]

(第十號書式)

第 號  
高等科(普通科)掌砲證書  
官(職)氏 名  
高等科(普通科)砲術練習生教程卒業ヲ證シ本證書ヲ授  
ク  
成績 何人中ノ何番  
年月日  
海軍砲術學校長官位勳功爵氏名 [印]

(第十一號書式)

第 號  
高等科(普通科)掌水雷證書  
官(職)氏 名  
高等科(普通科)水雷術練習生教程卒業ヲ證シ本證書ヲ  
授ク  
成績 何人中ノ何番  
年月日  
海軍水雷學校長官位勳功爵氏名 [印]

(第十二號書式)

第 號  
掌帆證書  
官(職)氏 名  
運用術練習生教程卒業ヲ證シ本證書ヲ授ク  
成績 何人中ノ何番  
年月日  
運用術練習艦長官位勳功爵氏名 [印]

(第十三號書式)

第 號  
高等科掌信號證書  
官(職)氏 名  
高等科信號術練習生教程卒業ヲ證シ本證書ヲ授ク  
成績 何人中ノ何番  
年月日  
横須賀海兵團長官位勳功爵氏名 [印]

(第十四號書式)

第 號  
普通科掌信號證書  
職 氏 名  
普通科信號術練習生教程卒業ヲ證シ本證書ヲ授ク  
成績 何人中ノ何番  
年月日  
某海兵團長官位勳功爵氏名 [印]

(第十五號書式)

第 號  
高等科(普通科)掌電信證書  
官(職)氏 名  
高等科(普通科)電信術練習生教程卒業ヲ證シ本證書ヲ  
授ク  
成績 何人中ノ何番  
年月日  
海軍水雷學校長官位勳功爵氏名 [印]

(第十六號書式)

第 號  
掌角證書  
職 氏 名  
喇叭術練習生教程卒業ヲ證シ本證書ヲ授ク  
成績 何人中ノ何番  
年月日  
某海兵團長官位勳功爵氏名 [印]

(第十七號書式)

第 號  
特修科軍樂修業証狀  
官(職)氏 名  
特修科軍樂練習生教程卒業ヲ證シ本証狀ヲ授ク  
成績 何人中ノ何番  
年月日  
横須賀海兵團長官位勳功爵氏名 印

(第十九號書式)

第 號  
高等科(普通科)掌機証狀  
官(職)氏 名  
高等科(普通科)掌機練習生教程卒業ヲ證シ本証狀ヲ授ク  
成績 何人中ノ何番  
年月日  
海軍工機學校長官位勳功爵氏名 印

(第十八號書式)

第 號  
專科軍樂修業証狀  
官(職)氏 名  
第一種(第二種)專科軍樂練習生教程卒業ヲ證シ本証狀ヲ授ク  
成績 何人中ノ何番  
年月日  
横須賀海兵團長官位勳功爵氏名 印

(第二十號書式)

第 號  
高等科(普通科)掌電機証狀  
官(職)氏 名  
高等科(普通科)掌電機練習生教程卒業ヲ證シ本証狀ヲ授ク  
成績 何人中ノ何番  
年月日  
海軍工機學校長官位勳功爵氏名 印

(第二十一號書式)

第 號  
掌工証狀  
官(職)氏 名  
掌工練習生教程卒業ヲ證シ本証狀ヲ授ク  
專修工術 何々  
成績 何人中ノ何番  
年月日  
海軍工機學校長官位勳功爵氏名 印

(第二十二號書式)

第 號  
船匠証狀  
官(職)氏 名  
船匠練習生教程卒業ヲ證シ本証狀ヲ授ク  
成績 何人中ノ何番  
年月日  
海軍工機學校長官位勳功爵氏名 印

(第二十三號書式)

第 號  
鼓創証狀  
官(職)氏 名  
海軍看護術練習所甲種練習生教程卒業ヲ證シ本証狀ヲ授ク  
成績 何人中ノ何番  
年月日  
海軍看護所長官位勳功爵氏名 印

(第二十四號書式)

第 號  
修業証狀  
官(職)氏 名  
海軍看護術練習所乙種練習生教程卒業ヲ證シ本証狀ヲ授ク  
成績 何人中ノ何番  
年月日  
海軍看護所長官位勳功爵氏名 印

(第二十五號書式)

第 號  
掌 記 証 狀 何等  
官(職)氏 名  
掌記練習生教程卒業ヲ證シ本証狀ヲ授ク  
成績 何人中ノ何番  
年 月 日  
海軍經理學校長官位勳功爵氏名 [印]

(第二十七號書式)

第 號  
掌 記 証 狀 何等  
官(職)氏 名  
海軍經理學校丙種練習生教程ヲ修業シ海軍掌記適任ナ  
ルヲ證ス  
成績 何人中ノ何番  
年 月 日  
海軍經理學校長官位勳功爵氏名 [印]

(第二十六號書式)

第 號  
掌 記 証 狀 何等  
官(職)氏 名  
掌記練習生教程卒業ヲ證シ本証狀ヲ授ク  
年 月 日  
海軍經理學校長官位勳功爵氏名 [印]

(第二十八號書式)

第 號  
高等科(普通科)掌記(掌水雷)  
(掌電信)(掌機)(掌電機)証狀 一等  
官(職)氏 名  
檢定試験ノ成績ニ依リ銓衡ヲ經テ本証狀ヲ授ク  
年 月 日  
海軍經理學校長官位勳功爵氏名 [印]

(第二十九號書式)

第 號  
掌 帆 証 狀 一等  
官(職)氏 名  
檢定試験ノ成績ニ依リ銓衡ヲ經テ本証狀ヲ授ク  
年 月 日  
運用術練習艦長官位勳功爵氏名 [印]

(第三十號書式)

第 號  
高 等 科 掌 記 証 狀 一等  
官(職)氏 名  
檢定試験ノ成績ニ依リ銓衡ヲ經テ本証狀ヲ授ク  
年 月 日  
横須賀海兵團長官位勳功爵氏名 [印]

(第三十一號書式)

第 號  
普 通 科 掌 記 証 狀 一等  
官(職)氏 名  
檢定試験ノ成績ニ依リ銓衡ヲ經テ本証狀ヲ授ク  
年 月 日  
某海兵團長官位勳功爵氏名 [印]

(第三十二號書式)

第 號  
掌 角 証 狀 一等  
官(職)氏 名  
檢定試験ノ成績ニ依リ銓衡ヲ經テ本証狀ヲ授ク  
年 月 日  
某海兵團長官位勳功爵氏名 [印]

(第三十三號書式)

第 號	掌工 証狀	一等
	官(職)氏 名	
檢定試験ノ成績ニ依リ銓衡ヲ經テ本証狀ヲ授ク		
専修工術 何々		
年 月 日		
海軍工機學校長官位勳功爵氏名 [印]		

(第三十五號書式)

第 號	裝創 証狀	一等
	官(職)氏 名	
檢定試験ノ成績ニ依リ銓衡ヲ經テ本証狀ヲ授ク		
年 月 日		
海軍工機學校長官位勳功爵氏名 [印]		

(第三十四號書式)

第 號	船匠 証狀	一等
	官(職)氏 名	
檢定試験ノ成績ニ依リ銓衡ヲ經テ本証狀ヲ授ク		
年 月 日		
海軍工機學校長官位勳功爵氏名 [印]		

(第三十六號書式)

第 號	掌記 証狀	一等
	官(職)氏 名	
檢定試験ノ成績ニ依リ銓衡ヲ經テ本証狀ヲ授ク		
年 月 日		
海軍工機學校長官位勳功爵氏名 [印]		

(第三十七號書式)

第 號	掌府 証狀	一等
	官(職)氏 名	
檢定試験ノ成績ニ依リ銓衡ヲ經テ本証狀ヲ授ク		
年 月 日		
海軍經理學校長官位勳功爵氏名 [印]		

(第三十八號書式)

第 號	修業 証書	
	海軍探備生徒(海軍探備員)(海軍探備員志願者)氏 名	
海軍砲術學校(海軍水雷學校)(海軍工機學校)ニ於テ砲術(水雷術)(機關術)ヲ修業シタルコトヲ証ス		
年 月 日		
海軍經理學校長官位勳功爵氏名 [印]		

○海軍省達第六十五號

明治四十年達第五十九號ヲ廢ス

本達ハ來ル六月一日ヨリ施行ス

海軍大臣 男爵齋藤實

(參照)

明治四十年五月ニ海軍省達第五十九號ハ海軍各學生生徒及練習生ニ授與スル証書及証狀書式ノ件ナリ

○海軍省達第六十六號

海軍看護術練習所規則中左ノ通改正ス

明治四十三年五月三十日

海軍大臣 男爵齋藤實

第四條ノ二ノ看護術練習生ヲ左ノ二種ニ區別ス

一 乙種看護術練習生

二 甲種看護術練習生

第四條ノ三 乙種看護術練習生ハ海軍二等看護手以下三等看護以上ニシテ身體強健品行方正ナル者ノ中ヨリ之ヲ選拔ス

第四條ノ四 甲種看護術練習生ハ海軍一等看護手以下二等看護以上ニシテ左ノ諸號ニ適合スル者ノ中ヨリ之ヲ選拔ス

一 身體強健品行方正ナル者

二 乙種看護術練習生卒業試験ニ優等ノ成績ヲ得タル者

三 甲種看護術練習生タラムコトヲ志願シ卒業後三箇年以上現役ニ服スヘキ者又ハ服スヘキコトヲ誓約スル者

第四條ノ五 甲種看護術練習生卒業シタルトキハ之ニ裝創證狀ヲ授與ス

裝創證狀ハ卒業ノ成績ニ依リ之ヲ一等二等ニ分ツ

第六條中海軍病院條例第二十條及第二十一條ヲ本則第四條ノ三及第四條ノ四ニ改ム

第六條ノ二及第七條中海軍病院條例第二十一條ヲ本則第四條ノ四ニ改ム

第九條第一項中「所轄長海軍病院條例第二十五條ニ適合スト認メタル者アルトキハ」ヲ「二等裝創證狀ヲ有シ二箇年以上ヲ經過シ實務ノ成績優等ナル者アルトキハ所轄長ハ」ニ、第二項中「病院條例第二十五條ニ該當スル」ヲ「適當ト認メタル」ニ又第三項中「ヘシ」ヲ「テ所轄長ハ之ヲ人事部長ニ通知スヘシ」ニ改ム

第九條ノ二第一項ヲ削リ第二項中海軍病院條例第二十九條ヲ「海軍特修兵條例第七條」ニ改ム

第十八條服役誓約書書式及所見表書式中「海軍病院條例第二十一條」ヲ「海軍看護術練習所規則第四條ノ四」ニ改ム

第十八條ノ次ノ「附則」ヲ削ル

第十九條 戰時又ハ事變ニ際シ必要ト認ムルトキハ海軍大臣練習生ノ教育ヲ中止セシムルコトアルヘシ

附則

第二十條 本則ハ明治四十三年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十一條 従前ノ裝創證狀ハ之ヲ本則ノ證狀ト看做ス

第二十二條 本則實施ノ際現ニ海軍看護術練習所ニ在學スル練習生ハ總テ之ヲ本則ニ依ル練習生ト看做ス

○海軍省達第六十七號

海軍給與令施行細則中左ノ通改正ス

明治四十三年五月三十日

海軍大臣 男爵齋藤實

第三條ノ二第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ條給ハ辭令ノ日ヨリ本職ヲ免セラレタル日迄之ヲ支給ス但シ轉勤ノ際更ニ前項ノ條給ヲ受クル者ニハ其ノ前日迄

第十一條第一項第一號ヲ左ノ如ク改ム

入院又ハ陸地療養ヲ爲ストキハ退艦退船退廳ノ翌日ヨリ歸艦歸船歸廳ノ前日迄

第十一條第二項ヲ左ノ如ク改ム

外國、樺太及臺灣ニ於テ入院又ハ陸地療養中内地ニ轉スルトキハ退院又ハ療養地出發ノ翌日ヨリ前項第一號ノ例ニ依ル

第三十六條第二號ヲ左ノ如ク改ム

一 入院又ハ陸地療養ヲ爲ストキハ退艦、退船ノ翌日ヨリ歸艦、歸船ノ前日迄  
 第三十八條 軍人及文官清國、韓國、樺太若ハ臺灣ニ於テ入院又ハ陸地療養中内地ニ轉スルトキハ  
 退院又ハ療養地出發ノ翌日ヨリ歸艦、歸船ノ前日迄加俸ヲ支給セス  
 第四十一條中「及歸休兵」ヲ「及歸休下士、歸休兵」ニ改ム  
 第四十二條第一號ヲ左ノ如ク改ム  
 一 入院又ハ陸地療養ヲ爲ストキハ退艦、退船ノ翌日ヨリ歸艦、歸船ノ前日迄  
 第四十三條 下士卒外國、樺太及臺灣ニ於テ入院又ハ陸地療養中内地ニ轉スルトキハ退院又ハ療  
 養地出發ノ翌日ヨリ歸艦、歸船ノ前日迄加俸ヲ支給セス  
 第四十七條第二項及第五十三條第二項ヲ左ノ如ク改ム  
 轉勤ノトキハ共ノ月十五日ヲ以テ區分シ十五日以前ノ場合ニハ甲廳又ハ乙廳ニ於テ各其ノ半額  
 ヲ支給シ十六日以後ノ場合ニハ甲廳ニ於テ其ノ全額ヲ支給ス  
 第二百二十三條 前條ニ依リ夜食ヲ給與スルハ左ノ各號ノ一ニ當リ共ノ給與ヲ必要トスルトキニ限  
 ルモノトス  
 一 演習航海其ノ他非常ノ場合ニ於テ夜中業務ニ従事スルトキ  
 二 陸上ニ在ル衛兵午後十時ヨリ午前四時迄ノ間ニ於テ巡邏ノ任務ニ従事スルトキ  
 第六十四條第一項ヲ左ノ如ク改ム  
 給與令第九十一條及第九十二條ノ場合ニ於テ所在ノ病院又ハ醫師ニ依テ治療スル患者ノ費  
 用ハ志願兵徵募區ニ依リ所管鎮守府所在地經理部ノ支辨トス  
 第六十四條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ  
 臺灣所在ノ病院又ハ醫師ニ依テ治療スル患者ノ費用ハ佐世保海軍經理部ノ支辨トシ樺太所

在ノ病院又ハ醫師ニ依テ治療スル患者ノ費用ハ横須賀海軍經理部ノ支辨トス但シ艦船臺灣  
 又ハ樺太航海中ハ便宜該艦船ニ於テ支辨スルコトヲ得  
 第六十九條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加ヘ第二項中「前項」ヲ「前二項」ニ改ム  
 軍人軍屬所屬ヲ轉セサル場合ト雖兼務若ハ代理ト爲リタルトキ又ハ假入團者並入院者復歸ノト  
 キハ前項ニ準ス  
 第七十一條ニ左ノ一項ヲ加フ  
 軍人軍屬所在不明又ハ擅ニ職役ヲ離レ若ハ他方ニ赴キ故ナク歸著ノ期ニ後レタル者ニシテ所屬  
 ヲ轉シタル後追給追徵又ハ控除ヲ要スルモノアルトキハ第一項ノ規定ニ依ラス第百六十九條ニ  
 依ル通牒(第十號)ニ其ノ事由ヲ詳記シ前所屬ノ仕排命令官又ハ現金前渡官吏ヨリ後所屬ノ仕排  
 命令官又ハ現金前渡官吏ニ送付シ追給追徵又ハ控除セシムルコトヲ得但シ費途ノ款ヲ異ニスル  
 トキハ追徵ヲ除クノ外此ノ限ニ在ラス  
 第二表及第三表ヲ各附表ノ如ク改ム  
 第八表中「第八十四條第一項ニ依リ」ノ下「筆記及」ヲ削リ「(水兵)」ヲ「(水兵)」ニ改メ「(筆記、信號兵)」  
 一ヲ削ル  
 第十一表中「一等兵曹」ヲ「一等兵曹(掌電信兵掌信號)」「二等信號兵曹」ヲ「二等兵曹(掌電信兵掌信號)」  
 「二等信號兵曹」ヲ「二等兵曹(掌電信兵掌信號)」ニ「一等兵曹」ヲ「二等兵曹(掌電信兵掌信號)」ニ「二等」  
 兵曹」ヲ「二等兵曹(掌電信兵掌信號)」ニ「信號兵」ヲ「水兵(掌電信兵掌信號)」ニ「水兵」ヲ「水兵(掌電信兵」  
 掌角兵)ニ改ム  
 第十四表中「排銃番兵外裝」ノ欄「信號兵」ヲ「掌信號兵掌角兵タル水兵」ニ改メ「艇靴」ノ欄「信號兵曹」及  
 「排銃番兵手袋」ヲ「信號兵」ニ改ム



第三表(第四十條ニ依リ下士) 卒ニ支給スル加俸

種	類	區分			日	額
		大口徑砲	中口徑砲	小口徑砲		
艦砲射手優等章	優等章	大口徑砲	中口徑砲	小口徑砲	十	錢
		七	五			
魚形水雷照準手優等章	優等章				十	錢
汽 關 優 等 章	優等章				十	錢

備考 艦砲射手優等章ヲ授與セラレタル者ニ支給スヘキ加俸ノ額ハ檢定射撃ノ際射撃ヲ爲シタル砲ノ區別ニ依ル  
現ニ艦砲射手優等章又ハ魚形水雷照準手優等章ヲ有スル者ニハ明治四十三年十一月三十日迄舊額ニ依リ加俸ヲ支給ス

○海軍省達第六十八號  
海軍軍人軍屬休暇規則中左ノ通改正ス

明治四十三年五月三十日

海軍大臣 男爵齋藤實

第三條中「海軍經理學校」ノ下ニ「生徒及」ヲ加フ

第八條ノ二 下士卒ニシテ父母妻子重病又ハ死亡ノ爲歸郷ヲ要スルトキハ父母若ハ親族ニ於テ願書ヲ作り 重病ナルトキハ醫 市區町村長又ハ之ニ準スヘキ者ノ證明ヲ受ケ本人ヨリ其ノ所屬長ニ願出ツヘシ所屬長ハ審査ノ上往復日數ノ外十四日以内ノ休暇ヲ許可スルコトヲ得 歸郷中引續キ休暇ヲ請願セントスルトキ亦同シ但シ往復日數ノ外前ノ休暇ヲ通算シ二十八日ヲ超

過スルコトヲ得ス

急ヲ要スル場合ニ於テハ父母若ハ親族ヨリ本人又ハ所屬長ニ宛テタル電報ニ依リ休暇ヲ願出ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ所屬長ハ迅速ナル方法ヲ以テ市區町村長又ハ之ニ準スヘキ者ニ出願ノ事實ヲ問合セタル後其ノ許否ヲ決スルモノトス

○海軍省達第六十九號

海軍人事務規程第八條ノ次ニ左ノ通追加ス

海軍大臣 男爵齋藤實

第九條 部長ハ現役又ハ召集中ノ豫備役、後備役下士卒ノ身上ニ異動ヲ生シ其ノ家族ニ通達ヲ要スルモノアルトキハ市町村長ヲ經テ通達スヘシ

○海軍省達第七十號

艦團隊教育規則中左ノ通改正シ明治四十三年六月一日ヨリ之ヲ實施ス

海軍大臣 男爵齋藤實

明治四十三年五月三十日

第五十六條職員ノ部「航海長」ノ上「信號術」ヲ「信號術、喇叭術」ト改ム

第七十二條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

聯合シテ競技ヲ施行スル場合ニ在リテハ首席基本長之ヲ指導スルヲ例トシ尙必要ニ應シ所屬長官自ラ指導スルカ若ハ特ニ委員長及委員ヲ置キ委員長ヲシテ之ヲ指導セシムルモノトス

同條第二項中「前項」ヲ「前二項」ニ改ム

第七十七條第一項中「首席將校」ノ下ニ「若ハ首席基本長又ハ委員長」ヲ加フ

別表第二部「教育科目」中「軍艦ノ部」ニ於テ「傳令員、信號員」ノ教育科目ヲ左ノ如ク改ム



信 號 員	備 令 員
一 各種信號教範 二 通信傳令法 三 見張ニ關スル注意 四 信號諸設備 諸器具ノ構造 取扱保存法 五 信號火筒 號火 緩火索 連火線 舟艇兵器 夜中信號 救難浮標ノ構造 取扱保存法 六 水路測器及距離測器使用法概要 七 登標、登杆	一 命令傳達法、通信傳令教範、應急通信法 二 艦内通信傳令ノ系統 三 各種通信設備（無線電信及無線電話ヲ除ク）ノ概要 取扱保存法 四 砲火指揮諸器具ノ構造概要、取扱保存法 五 喇叭吹奏教範（以下學角兵タル傳令員ノミニ關ス） 六 信號法（信號助手タル程度）

別表第三 補修教育科目中軍艦、海兵團ノ部信號部員ノ表ヲ削ル

書式第三 職氏名ノ次ニアル備考ヲ左ノ如ク改ム

聯合施行セルトキハ各基本長ヲ列記シ又委員長ヲ置キタルトキハ委員長ノ職氏名ヲモ列記ス

同書式第二號中首席將校ヲ「首席基本長又ハ委員長」ニ改ム

教育月報様式第一及第三中分隊ニ於テ施行セル教育ノ部「兵種」ノ欄内「信號委員」ノ一行ヲ削ル

○陸達第二十五號（官報 六月二十三日）

明治三十九年陸達第四十七號ハ之ヲ廢止ス

明治四十三年六月二十二日

陸軍大臣 子爵寺內正毅

〔参照〕

明治三十九年六月三日陸達第四十七號ハ馬政局職員タル陸軍現役將校同相當官ハ軍馬補充部本部ノ定員外トスル件ナリ

○陸達第二十六號（官報 六月二十三日）

馬政局ニ係ル經費ノ仕拂命令及歳入ノ徴收ハ馬政長官ニ之ヲ委任ス但シ地方長官ニ仕拂命令ヲ委任シタル經費ヲ除ク

明治四十三年六月二十二日

陸軍大臣 子爵寺內正毅

○陸達第二十七號

兵器取扱規則中左ノ通改正ス

明治四十三年六月二十七日

陸軍大臣 子爵寺內正毅

第九條第三號中「第二支須ハ 要塞司令官ノ下ニ」關東都督、韓國駐軍司令官ヲ加ヘ第五號「師團長」ノ下割註ヲ左ノ如ク改ム

「臺灣守備隊及滿洲獨立守備隊ニ在リテハ當該守備隊司令官、憲兵隊ニ在リテハ憲兵司令官」

第十二條中「臺灣兵器支分廠保管兵器修理用半成品員數表第三表共五」ヲ削ル

第二十二條中「兵器ノ新調ニ係ル費用」ノ下割註ヲ削ル

第二十五條第二項中但書ヲ削ル

第二十七條第二項中「並在臺灣兵器廠」臺灣屯在ノ軍隊ニ係ルモノハ兵器廠ニ於テ支辨レヲ削リ「要塞所在地」ノ下割註ヲ削ル

明治四十三年六月 陸軍省陸達第二十五號 第二十六號 第二十七號

第二十八條中「在臺灣兵器廠ヲ削ル

第三十七條第二項削除

第四十一條 削除

第四十三條第三項中「十一月盡日」ノ下割註ヲ削ル

第五十條「軍隊」ノ下割註中「臺灣屯在」ノ軍隊及屯田兵隊ヲ削ル

第五十二條第一項「毎年十二月」ノ下割註中「又臺灣ニ在リテハ交代歸還前」ヲ削ル

第五十三條中但書ヲ削ル

第五十七條第三號ヲ削ル

第七十二條臺灣總督「ノ下ニ關東都督、韓國駐節軍司令官」ヲ加フ

附表第三表共五ヲ削ル

陸軍省第二十八號

陸軍治罪法執行規則中左ノ通改正ス

明治四十三年六月二十七日

陸軍大臣 子爵寺內正毅

第三條ノ三 第三條ノ場合ニ於テ被告人長官ノ部下ニアラスシテ其ノ被告事件被告人所屬ノ長官

隊長ノ具申ニ係ラサルモノナルトキハ理事ヨリ被告人所屬ノ長官隊長ニ審問判決ノ命令アリヌ

ルコトヲ通報スヘシ

陸軍省第二十九號

砲臺監守服務規則中左ノ通改正ス

明治四十三年六月三十日

陸軍大臣 子爵寺內正毅

第一條中「附屬營造物」ノ下ニ「竝其ノ敷地」ヲ加フ

第二條中「工兵器具材料」ノ下ニ「竝堡壘砲臺附屬營造物ノ敷地」ヲ加フ

○海軍省達第七十一號

今般勅令第二百四十一號及同第二百四十二號ヲ以テ海軍武官階及海軍卒職名等級表中改正セラ

レタル結果海軍諸法令中「信號兵曹」ハ「兵曹」ニ信號兵「ハ」水兵ニ改メラレタル儀ト心得ヘシ

明治四十三年六月一日

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第七十二號

海軍准士官下士任用進級取扱規則中左ノ通改正ス

明治四十三年六月一日

海軍大臣 男爵齋藤實

第二條第二項ニ左ノ通追加ス

四 掌信號ノ職ニ充ツヘキ者

五 掌電信ノ職ニ充ツヘキ者

○海軍省達第七十三號

海軍上長官士官任用進級取扱規則中左ノ通改正ス

明治四十三年六月一日

海軍大臣 男爵齋藤實

第十條候補名簿書式備考第三ノ「信號」ヲ「掌信號及掌電信」ニ改ム

○海軍省達第七十四號

海軍喇叭譜(附錄海軍號笛譜)中左ノ通り改正ス(左記略ス)

明治四十三年六月一日

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第七十五號

軍艦職員勤務令中左ノ通改正ス

明治四十三年六月一日

海軍大臣 男爵齋藤實

別冊目錄第六章ニ關スル項中「掌帆長」ノ次ニ「掌電信長」ヲ加ヘ「兵曹長（上等兵曹及上等信號兵曹）」ヲ「兵曹長（上等兵曹）」ニ改ム

第二章第六十二條中「信號法及轉舵法」ヲ「信號術及喇叭術」ニ「信號部員及按針部員等」ヲ「信號員及操舵員等」ニ改ム

同章第六十三條中「及信號部員按針部員ノ教育法」ヲ削ル

同章第一百十六條削除

同章第二百十條第二項トシテ左ノ一項ヲ加フ  
水雷長ハ電信術ニ關シ前項ノ規定ヲ適用シ掌電信長以下電信ニ關スル部署諸員ノ職務ヲ監督スルモノトス

第六章第十一條第十二條第六十條及第六十一條削除

同章第三十九條中「錨鎖」ノ下ニ「操舵裝置」ヲ加フ

同章第四十四條中「船舵手」帆「繩手」ヲ「操舵員」艦「底長」ニ改メ第二項ヲ削ル

同章第四十六條中「掌砲科及掌水雷科」ヲ「掌砲科掌水雷科」掌「信號科及掌電信科」ニ改ム

第五十七條ノ二 掌信號長ハ艦長副長航海長若ハ當直將校ノ命ヲ承ケ信號ノコトヲ掌ルヘシ

第五十七條ノ三 掌信號長ハ航海長ノ命ヲ承ケ信號器具測器及航海長主管ノ兵器ヲ守護シ其ノ手入掃除ヲ監督シ且取扱方法ノ制規ニ戻ラサルヤニ注意シ航海長主管ニ屬スル諸倉庫掌砲科船匠科倉庫ヲ除ク

ヲ監理整頓スヘシ

第五十七條ノ四 掌信號長ハ常ニ信號器具測器ノ現状ヲ熟知シ時々精密ナル調査ヲ行ヒ若シ其ノ實用ニ適セサルモノアルトキハ速ニ之ヲ航海長ニ申告スヘシ

第五十七條ノ五 掌信號長ハ航海長ノ監督ヲ受ケ信號術及喇叭術ノ教授ニ關スル事務ヲ分掌シ又航海長ノ命ヲ承ケ下士卒ノ教育ヲ分掌スヘシ

第五十七條ノ六 掌信號長ハ信號員ノ職務ニ關シ之ヲ監督シ又其ノ性行伎倆ヲ詳知スヘシ

第五十七條ノ七 掌信號長ハ救難浮標ヲ保護シ毎週其ノ故障ナク落下スルヤ否ヤヲ實驗シ又航海中夜間ハ火災、晝間ハ赤旗ヲ之ニ裝著シ其ノ都度之ヲ當直將校ニ報告スヘシ

第五十七條ノ八 掌信號長ハ航海中夜間ハ救難端艇筐ヲ各救助艇ニ備ヘ之ヲ當直將校ニ報告スヘシ

第五十七條ノ九 掌信號長ハ軍事點檢、信號器具點檢、倉庫點檢等ノ令アルトキハ其ノ分掌諸部ノ整頓ヲ航海長ニ報告スヘシ

第五十七條ノ十 掌信號長ハ艦長若ハ副長艦内ヲ點檢スルトキハ自己分掌ノ部分ニ限り隨從スヘシ

第五十七條ノ十一 掌信號長其ノ職ヲ退クトキハ其ノ所掌帶品ノ現額、關係簿冊及分掌事務ヲ新任掌信號長ニ引繼キ共ニ之ヲ航海長ニ報告スヘシ

第五十七條ノ十二 艦隊增加定員ノ兵曹長上等兵曹信號係ヲ命セラレタルトキハ航海長ノ命ヲ承ケ艦隊增加定員タル信號員ノ職務ニ關シ之ヲ監督シ其ノ性行伎倆ヲ詳知シ又司令長官若ハ其ノ幕僚タル將校又ハ艦長副長航海長若ハ當直將校ノ命ヲ承ケ信號ノコトヲ掌ルヘシ

第五十七條ノ十三 掌電信長ハ艦長副長水雷長若ハ當直將校ノ命ヲ承ケ電信及電話ノコトヲ掌ルヘシ

第五十七條ノ十四 掌電信長ハ水雷長ノ命ヲ承ケ水雷長主管電信及電話ニ關スル兵備品ヲ守護シ其ノ手入掃除ヲ監督シ且取扱方法ノ制規ニ戻ラサルヤニ注意スヘシ

第五十七條ノ十五 掌電信長ハ常ニ電信及電話ニ關スル兵器ノ現状ヲ熟知シ時々精密ナル調査ヲ行ヒ若シ實用ニ適セスト認ムルトキハ速ニ之ヲ水雷長ニ申告スヘシ

第五十七條ノ十六 掌電信長ハ水雷長ノ監督ヲ受ケ電信術ノ教授ニ關スル事務ヲ分掌シ又水雷長

ノ命ヲ承ケ下士卒ノ教育ヲ分掌スヘシ

第五十七條ノ十七 掌電信長ハ電信員ノ職務ニ關シ之ヲ監督シ又其ノ性行伎倆ヲ詳知スヘシ

第五十七條ノ十八 掌電信長ハ軍事點檢、要具點檢及倉庫點檢等ノ令アルトキハ其ノ分掌諸部ノ整頓ヲ水雷長ニ報告スヘシ

第五十七條ノ十九 掌電信長ハ艦長若ハ副長艦内ヲ點檢スルトキハ自己分掌ノ部分ニ限り隨從スヘシ

第五十七條ノ二十 掌電信長其ノ職ヲ退クトキハ其ノ所掌需品ノ現額、關係簿册及分掌事務ヲ新任掌電信長ニ引繼キ共ニ之ヲ水雷長ニ報告スヘシ

第五十七條ノ二十一 艦隊増加定員ノ兵曹長上等兵曹電信係ヲ命セラレタルトキハ水雷長ノ命ヲ承ケ艦隊増加定員タル電信員ノ職務ニ關シ之ヲ監督シ其ノ性行伎倆ヲ詳知シ又司令長官若ハ其ノ幕僚タル將校又ハ艦長副長水雷長若ハ當直將校ノ命ヲ承ケ電信及電話ノコトヲ掌ルヘシ

第六十二條 掌砲長、掌水雷長、掌帆長、掌信號長、掌電信長ニアラサル兵曹長上等兵曹ハ戰鬥及其ノ他ノ業務、諸教練、諸事業ニ當リテハ各其ノ部署及命令ニ依リ所定ノ事ニ從ヒ又上官ノ命ヲ承ケ下士卒ノ教育ヲ分掌スヘシ

第七章第十九條中「操針手」ヲ「操舵員」ニ改メ「船舵手」ヲ置カサル艦ニ在リテハ「ヲ」削ル

同章第二十條中「操針手」ヲ「操舵員」ニ「操針」ヲ「操舵」ニ改ム

同章第二十一條中「船舵手」ヲ「艦底長」ニ「詳知」又「水雷」ヲ「管理」シ汽罐用外ノ清水ノ受給ヲ掌ルヘシ「ヲ」詳知スヘシニ改ム

同章第二十二條削除

同章第二十三條中「服務スル」外司令長官若ハ司令官用ノ乘艇ヲ擔當スヘシ「ヲ」服務スニ改ム

同章第二十四條及第二十六條中「信號兵曹及信號兵」ヲ「信號員」ニ改ム

同章第二十五條及第二十七條中「先任信號兵曹」ヲ「信號長」ニ「信號兵曹」以下「信號兵」ヲ「信號員」ニ改ム

第二十五條ノ二 掌信號長ナキカ若ハ掌信號長事故アルトキハ信號長ハ掌信號長ノ事務ヲ執行ス

第二十七條ノ二 電信員ハ水雷長ノ命ヲ承ケ電信ニ關スル用具裝置並電信室等ヲ守護整頓シ交番電信室ニ當直シ當直中ハ艦長副長水雷長若ハ當直將校ノ命ヲ承ケ服務スヘシ

第二十七條ノ三 電信長ハ電信員ノ性行伎倆ヲ詳知シ分隊長ニ對シ統率ノ責ニ任スヘシ

第二十七條ノ四 掌電信長ナキカ若ハ掌電信長事故アルトキハ電信長ハ掌電信長ノ事務ヲ執行スヘシ

第二十七條ノ五 旗艦増加定員ノ電信員ハ旗艦増加物タル電信ニ關スル用具裝置ヲ守護シ本艦定員タル電信員ヲ助ケテ其ノ電信室ヲ整頓シ交番電信室ニ當直シ當直中ハ司令長官若ハ其ノ幕僚タル將校ノ命ヲ承ケ電信ノ事ニ從事スル外本艦ノ部署ニ入り當直將校ノ監督ヲ受ケ服務スヘシ

○海軍省達第七十六號

明治四十三年六月一日 海軍大臣 男爵齋藤實

第二條按生ノ欄「水雷術練習所」ノ次ニ「海軍艦型試驗所」ヲ加フ

第三條大工ノ欄「海軍兵學校」ノ次ニ「海軍艦型試驗所」ヲ加フ

○海軍省達第七十七號

明治三十五年達第七十二號中「赤十字臂章」ヲ「白地赤十字臂章」ニ「右臂」ヲ「左腕」ニ改ム

明治四十三年六月三日 海軍大臣 男爵齋藤實

〔參照〕 明治三十五年六月一日海軍省達第七十二號ハ赤十字臂章ノ件ナリ